【ＵＲコミュニティ】ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務

（徳力団地他 44 団地）

入　札　説　明　書

1　入札等実施要領
2　競争参加資格等
3　評価項目、評価基準及び配点
4　入札心得書
5　委任状（様式）
6　入札書及び封筒（様式）
7　請負契約書
8　個人情報等の保護に関する特約条項
9　共同体協定書
10　共通仕様書【別冊１】
11　特記仕様書【別冊２】
12　技術資料等作成様式集【別冊３】

独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まいセンター

1 入札等実施要領

1 業務概要

(1) 実施団地概要

別冊１「共通仕様書（別紙１ 対象団地一覧表)」参照

(2) 業務概要

ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務

（詳細は、別冊２「特記仕様書」参照）

(3) 履行期間

平成 29 年４月１日～平成 32 年３月 31 日

2 競争参加資格確認申請書及び技術資料の提出期間、場所

① 提出期間：平成 28 年 11 月 22 日(火)から平成 28 年 12 月 7 日（水）までの土曜日、日曜日、休日及び祝日を除く毎日

② 受付時間：10 時から 17 時まで（ただし、12 時から 13 時の間は除く）

③ 提出場所：〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田一丁目 1 番 4 号
独立行政法人都市再生機構業務受託者 株式会社ＵＲコミュニティ
北九州住まいセンター お客様相談課 電話093-561-3134

3 技術資料の作成様式、評価に関する事項等

(1) 技術資料の作成様式

①から⑯までについて各様式に記載し、所定の添付資料を添えて、上記２により提出すること（詳細は、別冊３「技術資料等作成様式集」参照)。

① 競争参加資格確認申請書（様式１）
② 会社概要書（様式２）
③ 業務実績申告書（請負内容）（様式３）
④ 業務実績申告書（１団地戸数）（様式４）
⑤ 業務実績申告書（継続年数）（様式５）
⑥ 業務実績申告書（総戸数）（様式６）
⑦ 個人情報保護への取組みに関する申告書（様式７）
⑧ 品質保証・品質確保への取組みに関する申告書（様式８）
⑨ 環境への配慮に関する申告書（様式９）
⑩ 社会貢献・労働関係法規遵守状況の申告書（様式 10）
⑪ 管理技術者等に係る申告書（様式 11）
⑫ 緊急時の対応に係る申告書（様式 12）
⑬ 業務の連絡体制に係る申告書（様式 13）
⑭ 業務に使用する作業着に係る申告書（様式 14）

⑮　研修体制及び業務マニュアル等に係る申告書（様式 15）

⑯　安全・安心に資する取組みに係る申告書（様式 16）

注）作成様式はすべて日本工業規格Ａ４縦長（添付する資料はＡ４横長も可とする。）とし、枚数が不足する場合は頁を追加すること。

(2)　技術資料の評価に関する事項

①　技術資料の評価に関する基準

技術資料の評価に関する評価項目、評価基準及び得点配分は、「別添 ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務の評価項目、評価基準及び得点配分について」のとおりとする。

②　評価する技術資料

①に基づき、次のとおり技術資料を評価する。

企業の経験及び能力の評価　　:様式２～３、様式５～10（添付資料を含む。）

業務の実施体制等に係る評価　：様式 11～13、様式 15～16（添付資料を含む。）

③　評価の対象業務

技術評価の対象は、別冊２「特記仕様書」記載の業務とする。

(3)　共同体に係る取扱い

共同体（以下「共同体」という。）として競争参加する場合も(1)の資料を提出すること。また、共同体としての審査等手続きについては、６を参照とすること。

なお、共同体として参加する場合の技術資料に係る実績等の評価方法については、次のとおりとする。

①本支店・営業所等（様式２）･･･「共同体の事務所」又は「共同体代表者の事務所」

②営業年数（様式２）･･･「共同体代表者の営業年数」

③業務実績（請負内容）（様式３）･･･「共同体構成員の請負実績」

④業務実績（１団地）（様式４）･･･「共同体構成員の請負実績のうち最大値」

⑤業務実績（継続年数）（様式５）･･･「共同体構成員の請負実績のうち最長値」

⑥業務実績（総戸数）（様式６）･･･「共同体構成員の請負実績の総合計」

⑦個人情報保護（様式７）･･･「共同体構成員の取組状況（全ての構成員が満たしている場合加点）」

⑧品質保証の取組（様式８）･･･「拠点事務所の取組状況」

⑨環境への配慮（様式９）･･･「共同体構成員の取組状況（全ての構成員が満たしている場合加点）」

⑩雇用上の福祉、男女共同参画、労働関係法規の遵守（様式 10）

･･･「共同体構成員の取組状況（全ての構成員が満たしている場合加点）」

⑪管理技術者、緊急時対応、業務連絡体制等、安全･安心に資する取組み（様式 11, 12, 13, 16）

･･･「共同体の計画する体制・取組状況」

⑫作業着、研修体制及び業務マニュアル等（様式 14､15）

･･･「共同体構成員の取組状況（全ての構成員が満たしている場合加点）」

(4)　技術資料作成にあたっての留意事項

①　使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。

② 技術資料の作成及び提出に要する費用は、提出者の負担とする。
③ 提出された技術資料は、提出者に無断で使用しないものとする。
④ 提出された技術資料は返却しないものとする。
⑤ 技術資料に虚偽の記載をした場合は、当該資料を無効とするとともに、虚偽の記載をした者に対して指名停止を行うことがあるものとする。
⑥ 技術資料に記載した業務実施体制（管理技術者・緊急時対応・業務連絡体制等）については、業務の履行条件となります。当該業務の請負者として決定された場合は、業務開始前に改めて具体的な体制等を記載した業務計画書を当社に提出していただきますが、技術資料に記載した内容と異なる体制での業務の実施は認められません。

ただし、やむを得ない理由により変更を行う場合には、代わりの体制等が申告した内容と同等以上であることにつき、当社の了解を得なければならないものとする。

⑦ 落札者の責により提出した技術資料のとおりに業務が履行できない状況が発生した場合、発注者は、猶予期間（1ヶ月とする）を経過しても是正が見込まれない場合に、入札時に付与した技術評価点の再計算を行い、落札時の評価値に相応する評価額（以下、「ペナルティ額」という。）を算定し、ペナルティ額に100分の８に相応する額を加算した額を違約金として支払を求めることが出来る。ただし、当該違約金は、請負代金の１／１０に相当する額を上限とする。

ペナルティ額（千円未満切り捨て）
＝（当初評価値 － 見直し後技術評価点 － 当初価格評価点）
×（当初予定価格÷価格評価点の配分点※1）×契約残月数※2
※1 技術評価点に評価値配点割合を乗じた点数で、価格評価値の満点（100点）
※2 技術資料のとおりに業務が履行できないと判断した月から契約終了月までの月数

4 本説明書に係る質問事項の受付及び回答

(1) 本説明書に対して質問がある場合においては、次のとおり、書面（様式は任意）により提出すること。
① 受付期間：平成28年11月22日（火）から平成29年1月10日（火）まで
② 受付時間及び受付場所：２②、③同じとする。
③ 提出方法：提出場所へ持参又は同日必着での書留郵便による郵送とする。電送によるものは受け付けない。

(2) (1)の質問に対する回答は、次のとおり閲覧に供する。
① 閲覧期間：平成29年1月13日（金）から平成29年1月19日（木）まで
② 閲覧時間及び閲覧場所：２②、③と同じとする。

5 入札手続き等

(1) 競争参加資格の確認通知等

① 競争参加資格の確認通知

申請書等を提出した者について、当社の審査を行い、本入札に参加する資格を有する者を選定し、平成 28 年 12 月 16 日（金）までにその旨を通知する。ただし、技術資料提出時点において参加資格を満たしていても、その後開札の時までの期間に指名停止措置を受けた者は選定しない。

また、選定を行った後、指名停止措置を受けた場合には、選定を取り消し、その旨を当該者に通知する。

なお、選定しなかった者に対しては、その旨及びその理由を通知する。

(2) 苦情申立て

① 競争参加資格がないと認められた者は、発注者に対して競争参加資格がないと認めた理由について、次に従い、書面（様式は自由）により説明を求めることができる。

イ 提出期限： 平成28年12月28日（水）午後5時

ロ 提出場所： 〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田一丁目1番4号
独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ 北九州住まいセンター
お客様相談課 電話093－561－3134

ハ 提出方法： 提出場所へ持参するものとする。

② 発注者は、説明を求められたときは、平成29年1月6日までに、説明を求めた者に対し書面により回答する。

ただし、一時期に苦情件数が集中する等合理的な理由があるときは、回答期間を延長することがある。

③ 発注者は、申立期間の徒過その他客観的かつ明らかに申立ての適格を欠くと認められるときは、その申立てを却下する。

④ 発注者は、②の回答を行ったときには、苦情申立者の提出した書面及び回答を行った書面を閲覧による方法により遅滞なく公表する。

⑤ 本手続きにおける競争参加資格の確認その他の手続き等に関し、「政府調達に関する苦情の処理手続（平 7.12.14 付政府調達苦情処理推進本部決定)」により、政府調達苦情検討委員会に対して苦情を申し立てることができる。

(3) 入札手続き及び落札者の決定

(1)①により競争参加資格を有すると当社が認めた者との間で、入札を行う。

① 入札書の受領期限及び場所 平成 29 年 1 月 19 日（木）17 時 00 分
独立行政法人都市再生機構業務受託者 株式会社ＵＲコミュニティ
北九州住まいセンター

※同日必着での一般書留郵便による郵送とし、提出先への持参又は電送によるものは受け付けない

② 開札の日時及び場所 平成 29 年 1 月 20 日（金）14 時 00 分
独立行政法人都市再生機構業務受託者 株式会社ＵＲコミュニティ

北九州住まいセンター

※入札は郵送による事前受付のみとし、開札時の立会いは不要とする。なお、６の手続に移行することとなった場合は、開札の日時及び場所は７(5)によるものとし、その旨別途通知する。

③　総合評価に係る事項

落札者の決定は、３の技術資料と、入札価格を総合的に評価※して行う。

※総合評価の方法

加算方式とし、「価格評価点」と価格以外の要素を点数化した「技術評価点」を足し合わせることで、評価値を算定する。

・評価値　＝　価格評価点　＋　技術評価点

価格評価点と技術評価点の配点は、次のとおりとする。

・価格評価点　最大 100 点

・技術評価点　最大 100 点

価格評価点は、次の算式により算定する。

・価格評価点　＝　100×（１－入札価格／予定価格）

技術評価点の算出は、以下のとおりとする。

技術点の算出は、申請書及び技術資料の内容に応じ、「別添　３評価項目、評価基準及び配点」の評価項目毎に評価を行い、満点は 100 点とする。なお、入札公告日時点において、当住まいセンター発注の「ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務」を履行している者は、平成 28 年 11 月に通知される業務実績評価における「要改善」評価の割合に応じて、技術評価点合計点から減点することとする。

入札価格が当社であらかじめ作成した予定価格の制限の範囲内である者のうち、上記によって得られる評価値の最も高い者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該業務の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあって著しく不適当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内で、発注者の求める最低限の要求要件を全て満たした他の者のうち、評価値の最も高い者を落札者とすることがある。

なお、評価値の最も高い者が２者以上あるときは、くじ引きにより落札者となるべき者を決定する。

④　その他

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の 100 分の８に相当する額を加算した金額（当該金額に１円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の 108 分の 100 に相当する金額を入札書に記載すること。

６　共同体としての参加

共同体として本入札に参加する場合は、次の手続きにより行うこと。

なお、同時に複数の共同体の構成員となり、本入札に参加することは認められない。

(1)　共同体の結成

共同体により参加しようとする法人等は、予め、「共同体協定書（別添様式)」を締結すること。

(2)　競争参加資格の審査

共同体の代表となる法人等は、３(1)①～⑯の技術資料の提出と同時に、共同体に係る競争参加資格審査申請書（様式 17）（共同体協定書の写しを添付）を当社に提出すること。当社は、当該審査結果を平成 29 年 12 月 16 日（金）までに通知する。

7　追加公募手続への移行

本件業務において、入札に参加する者が関係法人（関係法人が代表者となる共同体を含む）１者の場合は、再公募に準じて、開札を中断し、以下の追加公募手順を踏まえたところで開札を行う。なお、当初の入札者は、申請書、資料並びに入札書の再提出は必要ない。

(1)　追加公募手続による競争参加資格の確認

①　本競争の参加希望者は、２　競争参加資格等に掲げる競争参加資格を有することを証明するため、次に従い、申請書及び資料を提出し、発注者から競争参加資格の有無について確認を受けなければならない。

２　競争参加資格等１（2）イの認定を受けていない者も次に従い申請書及び資料を提出することができる。この場合において、２　競争参加資格等１（1）イ～ト、(2) ロ～ヘ及び（3）までに掲げる事項を満たしているときは、開札のときにおいて２　競争参加資格等１（2）イに掲げる事項を満たしていることを条件として競争参加資格があることを確認するものとする。当該確認を受けた者が競争に参加するためには、開札の時において２　競争参加資格等１（2）イに掲げる事項を満たしていなければならない。

なお、期限までに申請書及び資料を提出しない者並びに競争参加資格がないと認められた者は、本競争に参加することができない。

提出期間：　平成29年1月20日（金）から平成29年2月3日（金）までの土曜日、日曜日、祝日を除く毎日、午前10時から午後5時まで（ただし、正午から午後1時の間は除く。）

提出場所：　上記２③に同じ

②　申請書は、様式１－１により作成すること。

③　資料は、３（1）(2) (3) に従い作成すること。

④　競争参加資格の確認は、申請書及び資料の提出期限の日をもって行うものとし，その結果は平成29年2月10日（金）までに通知する。

⑤　技術資料作成にあたっての留意事項は３（4）による。

(2)　追加公募手続きによる苦情申立て

①　競争参加資格がないと認められた者は、発注者に対して競争参加資格がない

と認めた理由について、次に従い、書面（様式は自由）により説明を求めることができる。

イ　提出期限：　平成29年2月21日（火）午後5時

ロ　提出場所：　〒803-0816　福岡県北九州市小倉北区金田一丁目1番4号
独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ　北九州住まいセンター
お客様相談課　　電話093－561－3134

ハ　提出方法：　提出場所へ持参するものとする。

②　発注者は、説明を求められたときは、平成29年2月24日までに、説明を求めた者に対し書面により回答する。

ただし、一時期に苦情件数が集中する等合理的な理由があるときは、回答期間を延長することがある。

③　発注者は、申立期間の徒過その他客観的かつ明らかに申立ての適格を欠くと認められるときは、その申立てを却下する。

④　発注者は、②の回答を行ったときには、苦情申立者の提出した書面及び回答を行った書面を閲覧による方法により遅滞なく公表する。

⑤　本手続きにおける競争参加資格の確認その他の手続き等に関し、「政府調達に関する苦情の処理手続（平7.12.14付政府調達苦情処理推進本部決定）」により、政府調達苦情検討委員会に対して苦情を申し立てることができる。

(3)　追加公募手続による入札説明書に対する質問

①この入札説明書に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出すること。

イ　提出期限：　平成29年2月24日（金）午後5時

ロ　提出場所：　〒803-0816　福岡県北九州市小倉北区金田一丁目1番4号
独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ　北九州住まいセンター
お客様相談課　　電話093－561－3134

ハ　提出方法：　提出場所への持参又は提出期間最終日必着での書留郵便による郵送とする。電送によるものは受け付けない。

②　①の質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供する。

イ　期間：　平成29年2月28日（火）から平成29年3月3日（金）までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前10時から午後5時まで

ロ　場所：　〒803-0816　福岡県北九州市小倉北区金田一丁目1番4号
独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ　北九州住まいセンター
お客様相談課　　電話093－561－3134

(4)　追加公募手続による入札書の提出期限、提出先及び提出方法

① 提出期限： 平成29年3月3日 17時00分

② 提出場所： 〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田一丁目1番4号
独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ 北九州住まいセンター
お客様相談課 電話093－561－3134

③ 提出方法： 同日必着での一般書留郵便による郵送とし、提出先への持参又は電送によるものは受け付けない。

(5) 追加公募手続による開札の日時及び場所

イ 日時： 平成29年3月6日 14時00分

ロ 場所： 独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ 北九州住まいセンター
お客様相談課 電話093－561－3134

※(1)の提出期間において申請書及び資料の提出がない場合は、平成29年2月3日（金）午後5時に開札を実施する。

※入札は郵送による事前受付のみとし、開札時の立会いは不要とする。

８ 入札方法等

(1) 入札書は、一般書留郵便による郵送とし、開札時の立会いは不要とする。提出場所への持参又は電送によるものは受け付けない。

(2) 11(2)に示すとおり開札結果をファクシミリにより通知するので、入札書中に、開札日時において必ず受信可能なファクシミリの番号、担当者名及び連絡先電話番号を記入すること。

(3) 郵送は二重封筒とし、表封筒及び中封筒に各々封緘すること。

(4) 中封筒には、入札書のみを入れること。また、入札書に必要事項を記入のうえ、押印（代表者若しくは代表者から独立行政法人都市再生機構業務受託者株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まいセンターが発注する業務における入札及び契約について、代表者と同等の権限行使が可能な旨、委任を受けた者が記名押印すること。なお、代表者から委任を受けた者が記名押印する場合は、年間委任状が必要である。）したものを中封筒に入れ、封をして割印し、業務名、入札日時及び入札企業名を明記すること。

(5) 表封筒は必要事項を記入の上、(4) の中封筒を入れ、封をして割印し、郵送すること。

(6) 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の８に相当する額を加算した金額（当該金額に１円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の108分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

(7)　入札執行回数は、原則として２回を限度とする。

なお、２回目の入札については、入札日時を別途通知するものとし、入札方法等については、１回目の入札と同様に(1)から(6)による。

(8)　入札にかかる費用は入札参加者の負担とする。

9　入札保証金及び契約保証金　免除

10　入札の無効

本掲示において示した競争参加資格のない者のした入札、申請書及び資料に虚偽の記載をした者のした入札並びに別冊入札心得において示した条件等入札に関する条件に違反した入札は無効とし、無効の入札を行った者を落札者としていた場合には落札決定を取り消す。

なお、発注者により競争参加資格のある旨確認された者であっても、開札の時において２　競争参加資格等に掲げる資格のないものは、競争参加資格のない者に該当する。

11　落札者の決定方法

(1)　上記５(3)③による。

(2)　開札結果は、開札後直ちに入札書に記載された「開札結果通知先ファクシミリ番号」までファクシミリの送信により通知する。

(3)　落札者となるべき者の入札価格が次に定める算定方法により得た額（「調査基準価格」という。）を下回る場合は、低入札価格調査を実施するものとする。

調査基準価格＝予定価格×70／100

低入札価格調査の内容については以下のとおり ・その価格により入札した理由（必要に応じ入札価格の内訳書を徴する。） ・配置予定の技術者等その他当該契約の履行体制 ・同種・類似業務の手持ち業務の状況 ・過去に受注、履行した同種・類似業務の名称及び発注者 ・経営内容 ・その他必要な事項

12　手続における交渉の有無　無

13　契約書作成の要否等

別冊契約書案により、契約書を作成するものとする。

14　支払条件

別冊契約書案のとおり

15　関連情報を入手するための照会窓口

２③に同じ。

16　独立行政法人が行う契約に係る情報の公表について

独立行政法人が行う契約については、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）において、「独立行政法人と 一定の関係を有する法人と契約をする場合には、当該法人への再就職の状況、 当該法人との間の取引等の状況について情報を公開するなどの取組を進める」とされているところです。

これに基づき、以下のとおり、都市再生機構（以下「機構」という。）との関係に係る情報を機構のホーム ページで公表することとしますので、所要の情報の当方への提供及び情報の公表に同意の上で、応札若しくは応募又は契約の締結を行っていただくよう御理解と御協力をお願いいたします。

なお、案件への応札若しくは応募又は契約の締結をもって同意されたものとみなさせていただきますので、ご了承願います。

また、応札若しくは応募又は契約の締結を行ったにもかかわらず情報提供等の協力をしていただけない相手方については、その名称等を公表させていただくことがあり得ますので、ご了承願います。

(1) 公表の対象となる契約先

次のいずれにも該当する契約先

① 機構との間の取引高が、総売上高又は事業収入の３分の１以上を占めていること

② 機構において役員を経験した者（役員経験者）が再就職していること又は課長相当職以上の職を経験した者（課長相当職以上経験者）が役員、顧問等として再就職していること

(2) 公表する情報

上記に該当する契約先について、契約ごとに、工事、業務又は物品購入等契約の名称及び数量、契約締結日、契約先の名称、契約金額等と併せ、次に掲げる情報を公表します。

① 機構の役員経験者及び課長相当職以上経験者（機構ＯＢ）の人数、職名及び機構における最終職名

② 機構との間の取引高

③ 総売上高又は事業収入に占める機構との間の取引高の割合が、次の区分のいずれかに該当する旨　３分の１以上２分の１未満、２分の１以上３分の２未満又は３分の２以上

④ １者応札又は１者応募である場合はその旨

(3) 当方に提供していただく情報

① 契約締結日時点で在職している機構ＯＢに係る情報（人数、現在の職名及び機構における最終職名等）

② 直近の事業年度における総売上高又は事業収入及び機構との間の取引高

（4）公表日

契約締結日の翌日から起算して 72 日以内

17　その他の手続き等

(1)　業務請負契約等の締結等

５(3)③により請負者として決定されたときは、速やかに当社との間に業務請負契約を締結する。併せて、「個人情報等の保護に関する特約条項（別添様式）」、「違約金に関する特約条項（別添様式）」を締結すること。

なお、小規模修繕工事の取扱いについては、別冊１「共通仕様書（別紙２小修理工事に関する実施要領）」を参照とすること。

(2)　業務の引継ぎ等について

業務の開始時及び契約の終了時においては、次のとおり業務の引継ぎ等を実施するものとし、当該業務引継等に要する費用については、請負者が負担すること。

①　業務の開始時

(1)の契約締結後、業務の開始までの間に、当社が指定する現在の業務請負者から業務の引継を受けること。なお、必要に応じて当社が業務説明を行う場合がある。

②　契約の終了時

契約の終了にあたっては、当社が指定する新たな業務請負者への業務引継ぎを実施するものとする。

(3)　業務の実施状況の評価

当社は、原則として毎年度、年度末から概ね６ヶ月前に業務実績の評価を実施し、日常における業務の実施状況等も踏まえ、その結果を通知する。この評価の結果及びその後の是正状況によっては、今後、業務発注時に価格以外の評価項目として使用すること及び契約期間中であっても契約を解除する場合がある。

(4)　緊急時の業務実施

都市再生機構九州支社の管轄における給水施設等維持管理業務の請負者のうち、シェア（請負団地の給水戸数の計）が最も大きい者は、同支社管轄における他の事業者がやむを得ない理由により業務を実施できなくなった場合に、当該事業者になりかわって業務を実施するものとし、この場合の請負代金の額は当社と協議して定めるものとする。

なお、同一支社管轄内においてシェアが最も大きい者に対しては、予め当社からその旨を通知する。

(5)　その他

①　入札参加者は、別冊入札心得及び別冊契約書案を熟読し、入札心得を遵守するこ

と。

② 申請書及び資料に虚偽の記載をした場合においては、申請書及び資料を無効とするとともに、指名停止措置要領に基づく指名停止を行うことがある。

③ 落札者は、申請書及び資料に記載した配置予定の管理者等を当該業務に配置すること。

(6) 公示から業務開始までのスケジュール

平成 28 年 11 月 22 日（火） 技術資料受付（～12 月 7 日）
質問書受付（～1 月 10 日）
入札説明書交付（～1 月 20 日）
平成 28 年 12 月 16 日（金） 競争参加資格の確認通知
（共同体に係る競争参加資格の審査通知）
平成 29 年 1 月 19 日（木） 入札書の受領期限
平成 29 年 1 月 20 日（金） 開札、業務請負者の決定
平成 29 年 1 月 27 日（金） 業務請負契約締結
平成 29 年 1 月 30 日（月） 業務説明、引継ぎ等開始
平成 29 年４月１日（土） 業務開始

以 上

2　競争参加資格等

1　競争参加資格

(1)　次の事項に該当する者は、競争参加資格を有しない。

イ　当該契約を締結する能力を有しない者

ロ　破産者で復権を得ない者

ハ　暴力団又は暴力団員が実質的に経営を支配する者又はこれに準ずる者

ニ　入札書受領期限の日から起算して２年前の日以降において、次の掲げる者の一に該当している者。これを代理人、支配人その他使用人として使用する者についてもまた同様とする。

（イ）　契約の履行に当たり故意に履行を粗雑にし、又は物件及び財産の品質若しくは数量に関して不正の行為をした者

（ロ）　公正な競争の執行を妨げた者又は公正な価格を害し、若しくは不正の利益を得るために連合した者

（ハ）　落札者が契約を結ぶこと又は契約者が契約を履行することを妨げた者

（ニ）　監督又は検査の実施に当たり職員の職務の執行を妨げた者

（ホ）　正当な理由がなくて契約を履行しなかった者

（ヘ）　(イ)～(ホ)に該当する事実があった後２年を経過しない者を、契約の履行に当たり、代理人、支配人その他の使用人として使用した者

（ト）　(イ)～(ヘ)に該当する者を入札代理人として使用する者

（チ）　落札者となった場合正当な理由なく契約書の提出を拒んだ者

（リ）　不誠実な入札又は見積りをなしたと認められる者

ホ　競争参加資格確認申請書及び競争参加資格確認資料の提出期限の日から開札の時までの期間に、都市再生機構から本件業務の実施場所を含む区域を措置対象区域とする指名停止を受けていないこと

ヘ　会社更生法、民事再生法等に基づき更正又は再生手続きをしている者

ト　不法な行為を行い、若しくは行う恐れがある団体、法人又はこれらの団体や法人に属する者で組織される団体、法人で当該業務の請負業者として適当でないと当社が認める者

(2)　次の要件をすべて満たしていること。

イ　技術資料提出時点で、平成 27･28 度独立行政法人都市再生機構九州支社物品購入等の契約に係る競争参加資格審査において、「役務提供」の資格を有すると認定された者であること。

なお、競争参加資格を有しない場合は、速やかに競争参加資格審査の申請を行う必要がある。競争参加資格審査の申請等に関する問合せ先は次のとおり。

〒810-8610　福岡県福岡市中央区長浜二丁目２番４号

独立行政法人都市再生機構九州支社

総務部経理チーム（電話 092-722-1017）

ロ　業務実施団地の属する都道府県または隣接する都道府県に申請者の職員等が常駐する本支店・営業所等があること。

ハ　次に掲げる業務請負経験の要件をすべて満たす者であること。

（イ）平成 18 年度以降に、中・高層集合住宅の給水施設及び自家用電気工作物（いずれも）の設備管理業務の請負経験 (※1) を有していること。

（ロ）平成 18 年度以降に、３年間以上継続して「１団地 (※2) 内に 200 戸以上住宅が存する中・高層集合住宅」の給水施設又は自家用電気工作物（いずれか）の設備管理業務の請負経験 (※1) を有していること。

※1「設備管理業務の請負経験」：設備管理業務を申請者と直接的な雇用関係にある者が管理技術者・主任技術者等として実施した請負経験（元請けか下請けかは問わない）又はマンション管理業の登録（マンションの管理の適正化の推進に関する法律〔平成 12 年法律第 149 号〕第 44 条の登録）を受けている者が、管理組合から管理事務（同法第 2 条第 6 号に規定する事務）及び設備管理業務を一括で受託し、管理事務を自ら行い、設備管理業務のみを第三者に委託することで実施した請負経験。

※2「団地」：土地利用上、現に一体の土地を構成しており、または一体の土地として利用することが可能なひとまとまりの土地の上に１棟又は複数棟の住棟が存するものを原則とする。

ニ　別冊１共通仕様書（別紙３「業務区分と資格要件」）に記載の資格を有する管理技術者、主任技術者を当該業務に配置できること（業務開始前までに申請者と直接的な雇用関係があることを要する）

ホ　次に掲げる緊急事故処理体制を有する者であること（自社による体制であるか否かを問わない）

（イ）施設における停電、断水、機器の故障等の通報を遠隔で受信し、年間を通じて 24 時間出対応可能な体制であること。

（ロ）通報を受けてから速やかに現地に到着可能な体制であること。

ヘ　労働基準法、最低賃金法等の労働関係法規を遵守し、労働保険に加入している者であること。

(3)　共同体として参加する場合

上記(1)、(2)イ及びへの各要件を満たしている者により構成される共同体であって、共同体として(2)ロ～ホの各要件を満たしていること。

２　競争参加者に求められる義務

(1)　この一般競争に参加を希望する者は、本説明書に示す競争参加資格確認申請書及び技術資料を作成し、申請書等の受領期限までに提出しなければならない。また、発注者から当該書類に関し説明を求められた場合は、これに応じなければならない。

(2)　作成した申請書等は当社において技術審査するものとし、本説明書に示した競争参加資格を有すると判断した申請書等を提出した者のみ入札に参加できるものとする。

3　その他

(1)　手続きにおいて使用する言語及び通貨は、日本語及び日本国通貨に限る。

(2)　入札に必要な提出書類等の作成に要する費用は、競争参加者の負担とする。

(3)　発注者は、提出された書類を審査の実施以外に提出者に無断で使用することはない。

(4)　当社に一旦提出された書類は返却しない。

(5)　当社に一旦提出された書類の差替え及び再提出は認めない。

(6)　入札者が自己に有利な虚偽又は不正な記載をしたと判断される場合には、審査等の対象としない。

(7)　競争参加資格の審査において資格を有すると認められた者であっても、開札の時において上記１の資格のない者は落札対象としない。

以　上

3 評価項目、評価基準及び配点

ＵＲ賃貸住宅 給水施設等維持管理業務の評価項目、評価基準及び得点の配分について

（汚水無）

評価項目			評価項目、評価の視点		作成様式	評価基準	得点	
							①	②
基本事項評価	企業の経験及び能力（２５点）	1	営業年数	企業の営業年数を評価する。	【様式２】	①20年以上 ②10年以上20年未満	3	1
		2	業務実績（請負内容）	過去10年間に、３年間以上継続して請負った「１団地内に200戸以上住宅が存する中・高層集合住宅」の給水施設等の設備管理業務の内容を評価する。	【様式３－２】	①給水施設、自家用電気工作物、いずれの業務も請負実績がある。	4	
		3	業務実績（継続年数）	技術資料提出時点において、給水施設等の設備管理業務を請負っている「１団地内に200戸以上住宅が存する中・高層集合住宅」の継続年数を評価する。	【様式５】	①10年以上 ②５年以上10年未満	4	2
		4	業務実績（総戸数）	技術資料提出時点において、給水施設等の設備管理業務を請負っている中・高層集合住宅の総戸数を評価する。	【様式６】	①〇〇〇戸以上 ･･･グループ内で給水戸数が最も大きい団地の戸数（賃貸のみ。1団地内に複数の施設がある場合は合算。100戸未満切捨て。最低400戸）。	4	
		5	個人情報保護	プライバシーマークの取得に係る体制を評価する。	【様式７】	①取得	2	
		6	品質保証・品質確保への取組	品質ＩＳＯ認証（ISO9001）の取得状況を評価する。	【様式８】	①当該業務の拠点となる（管理技術者が所属する）事業所で取得	2	
		7	環境への配慮	環境ＩＳＯ認証（ISO14001）の取得、環境報告書の公表状況を評価する。	【様式９】	①取得又は環境報告書を公表	2	
		8	雇用上の福祉（障害者雇用）	法定の障害者雇用率の達成状況を評価する。	【様式10－１】	①法定雇用率の達成	2	
		9	男女共同参画	育児支援措置、セクハラ防止対策、女性の職域拡大等の取組みを評価する。	【様式10－２】	①３項目以上の取組み	2	
	配置予定者の経験（２０点）	10	管理技術者の業務経験（機械）	管理技術者の機械に係る点検等業務の経験年数を評価する。	【様式11－１】	①10年以上の業務経験 ②５年以上の業務経験	10	4
		11	管理技術者の業務経験（電気）	管理技術者の電気に係る点検等業務の経験年数を評価する。	【様式11－２】	①10年以上の業務経験 ②５年以上の業務経験	10	4
技術提案書	業務の実施体制等に係る評価（５５点）	12	緊急時の対応（到着時間）	事故等が発生した場合における営業所等拠点（自社体制に限らず）からの到着時間を評価する。	【様式12】	①60分以内	10	
		13	緊急時の対応（実施体制）	事故等が発生した場合における緊急対応の実施体制を評価する。	【様式12】	①自社による体制の整備	8	
		14	安全管理・危機管理体制	社内における安全管理・危機管理に係る規定等の整備及び当該業務における安全管理計画を評価する。	【様式13－２】	①体制及び計画の整備	5	
		15	自主検査体制	業務の実施状況を定期的にチェックする社内規定等の整備及び当該業務における自主検査計画を評価する。	【様式13－３】	①体制及び計画の整備	5	
		16	社内研修体制等	設備管理業務の実務に関する社内研修、資格取得の促進への取組みを評価する。	【様式15－１】	①研修（年１回以上）及び資格取得促進の実施	5	
		17	点検業務マニュアル等の整備	点検作業等の実施に係るマニュアル等の整備状況を評価する。	【様式15－２】	①マニュアル等の整備	5	
		18	顧客サービス	顧客対応業務に係るマニュアルの整備や研修の実施状況を評価する。	【様式15－３】	①体制等の整備	5	
		19	安全・安心に資する取組み	業務の実施にあたり、居住者の安全・安心に資する取組み内容を評価する。	【様式16】	①極めて優れている。 ②優れている。	12	6
							100	
業務成績 （技術評価点からの減点項目）				平成28年11月22日【入札公告日】時点において履行中の「ＵＲ賃貸住宅団地内給水施設等維持管理業務」に係る平成28年10月の業務実績評価における「Ｃ」評価の割合を評価する。 ※請負実績がない者は0%とする。	－	①　30%以上 ②　10%以上～30%未満 ③　10%未満 ④　0%	①-10 ②-5 ③-3 ④0	

4　入札心得書

入札心得書（物品購入等）

（目的）

第１条　独立行政法人都市再生機構業務受託者株式会社ＵＲコミュニティ（以下「当社」という。）が締結する【ＵＲコミュニティ】ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務（徳力団地他44団地）の契約に係る一般競争入札を行う場合における入札その他の取扱いについては、関係法令に定めるもののほか、この心得書の定めるところにより行う。

（入札等）

第２条　一般競争に参加しようとする者（以下「入札参加者」という。）は、入札説明書及び仕様書等を熟覧の上、所定の書式による入札書により入札しなければならない。この場合において、入札説明書及び仕様書等につき疑義があるときは関係職員の説明を求めることができる。

２　入札書は書留郵便をもって提出するものとする。封筒は二重封筒として、表封筒に「入札書在中」の旨を朱書し、件名及び開札日時を記載した中封筒に入札書のみを入れ、入札書の提出期限までに発注者あての親書で提出しなければならない。

３　前項の入札者は、入札書の提出期限までに到着しないものは無効とする。

４　入札参加者等が代理人をして入札させるときは、その委任状を提出しなければならない。

５　入札参加者等又は入札参加者等の代理人は、同一事項の入札に対する他の入札参加者等の代理をすることはできない。

６　入札書には、総額を記載するものとする。なお、落札者は、別添に示す根拠資料を添付すること。

７　落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の100分の８に相当する額を加算した金額（当該金額に１円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札参加者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の108分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

９　入札参加者等は、暴力団又は暴力団員が実質的に経営を支配する者又はこれに準ずる者ではないこと、また、将来においても該当しないことを誓約しなければならず、入札書の提出をもって誓約したものとする。

（入札の辞退）

第２条の２　入札参加者等は、入札執行の完了に至るまでは、いつでも入札を辞退することができる。

２　入札参加者等は、入札を辞退するときは、その旨を、次の各号に掲げるところにより申し出るものとする。

一　入札執行前にあっては、所定の書式による入札辞退書を発注者に直接持参し、又は郵送（入札又は見積り執行日の前日までに到着するものに限る。）して行う。

二　入札執行中にあっては、入札辞退書又はその旨を明記した入札書を、入札を執行する者に直接提出して行う。

３　入札を辞退した者は、これを理由として以後の指名等について不利益な取扱いを受けるものではない。

（公正な入札の確保）

第２条の３　入札参加者等は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭22年法律第54号）等に抵触する行為を行ってはならない。

２　入札参加者等は、入札に当たっては、競争を制限する目的で他の入札参加者と入札価格又は入札意思等についていかなる相談も行わず、独自に価格を定めなければならない。

３　入札参加者等は、落札者の決定前に、他の入札参加者に対して入札価格等を意図的に開示してはならない。

（内訳明細書）

第３条　入札に当たっては、あらかじめ入札金額の見積内訳明細書を用意しておかなければならない。

（入札の取りやめ等）

第４条　入札参加者等が連合し、又は不穏の行動をなす等の場合において、入札を公正に執行することができないと認められるときは、当該入札参加者等を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し、若しくは取りやめることがある。

（入札書の引換の禁止）

第５条　入札参加者等は、入札書を提出した後は、開札又は開封の前後を問わず、引換え、変更又は取消しをすることはできない。

（入札の無効）

第６条　次の各号のいずれかに該当する入札は無効とし、以後継続する当該入札等に参加することはできない。

一　委任状を提出しない代理人が入札をなしたとき

二　誤字、脱字等により意思表示が不明瞭であるとき

三　入札金額の記載を訂正したとき

四　入札書の金額と入札根拠資料の金額が一致しないとき

五　入札者（代理人を含む。）の記名押印のないとき又は記名（法人の場合はその名称及び代表者の記名）の判然としないとき

六　再度の入札において、前回の最低入札金額と同額又はこれを超える金額をもって入札を行ったとき

七　１人で同時に２通以上の入札書をもって入札を行ったとき

八　明らかに連合によると認められるとき

九　第２条第第７項に定める暴力団排除に係る誓約について、虚偽と認め

られるとき。

十　前各号に掲げる場合のほか、当社の指示に違反し、若しくは入札に関する必要な条件を具備していないとき

（開札等）

第７条　入札事務に関係のない職員を立ち会わせたうえで、機構が通知した場所及び日時に行うものとする。なお、入札者又はその代理人の立会いは不要とする。

（落札者の決定）

第８条　落札者の決定は、技術資料と入札価格を総合的に評価して行う。開札の結果、予定価格の制限の範囲内である者のうち、評価値の最も高い者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該業務の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがあって著しく不適当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内で、発注者の求める最低限の要求要件を全て満たした他の者のうち、評価値の最も高い者を落札者とすることがある。

２　前項ただし書に該当する入札を行った者は、契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあるかどうかについての調査に協力しなければならない。

（再度の入札）

第９条　落札者がないときは、別に日時を定めて再度の入札を行うものとする。

２　前項の再度の入札は、原則として１回を限度とする。

（同価の入札者が２人以上ある場合の落札者の決定）

第10条　落札となるべき同価の入札をした者が２人以上あるときは、別途通知した日に、当該入札者にくじを引かせて落札者を決定する。この場合において、当該入札者のうちくじを引かない者があるときは、これに代わって入札事務に関係のない職員にくじを引かせて落札者を決定するものとする。

（入札参加者の制限）

第11条　次の各号のいずれかに該当する者は、その事実のあった後２年間競争入札に参加することができない。これを代理人、支配人その他の使用人として使用する者についてもまた同様とする。

一　契約の履行に当たり故意に履行を粗雑にし、又は材料、品質、数量に関して不正の行為があった者

二　公正な競争の執行を妨げた者又は公正な価格を害し、若しくは不正な利益を得るために連合した者

三　落札者が契約を結ぶこと又は契約を履行することを妨げた者

四　監督又は検査の実施に当たり職員の職務の執行を妨げた者

五　正当な理由がなくて契約を履行しなかった者

六　前各号のいずれかに該当する事実があった後２年を経過しない者を、

契約の履行に当たり、代理人、支配人その他の使用人として使用した者

（契約内容説明）

第12条　理由なく契約内容の説明に出席しない者は入札の希望がないものと認め、入札に参加することができない。

（契約書の提出）

第13条　落札者は、落札決定の日から７日以内に契約書を提出しなければならない。ただし、予め発注者の書面による承諾を得たときは、この限りでない。

２　落札者が前項の期間内に契約書を提出しないときは当該落札はその効力を失う。

３　契約書の作成を要しない場合においては、落札者は、落札決定後すみやかに請書その他これに準ずる書面を発注者に提出しなければならない。ただし、発注者がその必要がないと認めて指示したときは、この限りでない。

（異議の申立）

第14条　入札参加者等は、入札後この心得書、仕様書、契約書案及び契約内容説明等についての不明を理由として異議を申立てることはできない。

以　上

5　委任状（様式）

委　　任　　状

私は　　を代理人と定め、(センター名)の発注する(件名)に関し、下記の権限を委任します。

記

1

2

代 理 人 使用印鑑	印

年　　月　　日

住　所
氏　名　　印

独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まいセンター
センター長　　田中　英樹　　殿

6　入札書及び封筒（様式）

入　　札　　書

金　　円

ただし、(件名)

入札心得書（物品購入等）を承諾の上、入札します。

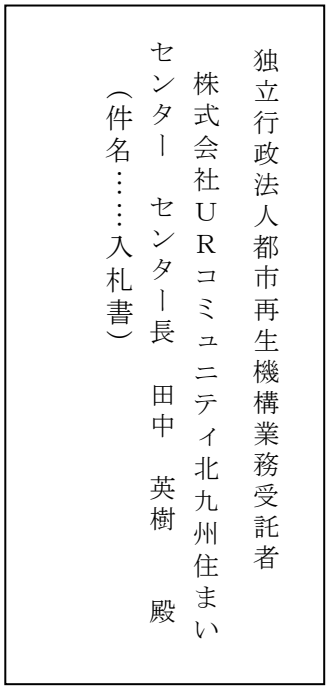
年　　月　　日

住　所
氏　名　　印
代理人　　印

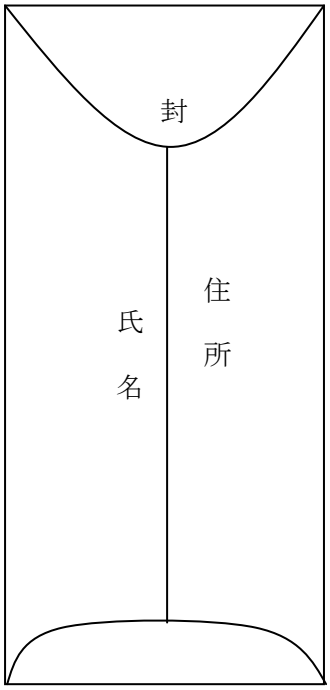
独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まいセンター
センター長　　田中　英樹　　殿

連絡先	開札結果通知先 ファクシミリ番号	（　　）
	連絡先担当者名	
	連絡先電話番号	（　　）

表


独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まい
センター　センター長　田中　英樹　殿
（件名……入札書）

裏


封
住所
氏名

７－３　入札根拠資

入札根拠資料

Ⅰ　給水施設等維持管理業務

（共通仕様書4(1)～(3)の業務の合計、ただし、精密点検業務は除く）　　（税別）

月額	月数	総額
	36	0

Ⅱ　給水施設等維持管理業務

（共通仕様書4(3)のうち精密点検業務及び4(4)の業務の合計）　　（税別）

業務名称	総額
精密点検業務	
貯水槽清掃業務	
	0

（税別）

Ⅰ＋Ⅱ総計	0

注意事項

1 [　　] について記入すること

2　Ⅰ～Ⅱに関連するが、上記に記載していない業務について発注することがあるので、留意すること。
（金額については、別途見積もり合わせの上、決定するものとする。）

3 用途廃止・管理開始等による物量の変更についての記載がある場合にも、物量の変更の
予定が変更されることもあるので、変更を加味せず積算を行った価格を記載すること。

別表

Ⅰ　給水施設等維持管理業務

（共通仕様書4(1)～(3)の業務の合計、ただし、精密点検業務は除く）

月額
（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）

Ⅱ　給水施設等維持管理業務

（共通仕様書4(3)のうち精密点検業務及び4(4)の業務）

	業務名称	作業単位	回数	1回あたりの金額	総額
1	精密点検業務受変電設備（A団地			消費税及び地方消費税額〇〇	（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）
2	精密点検業務発電設備（A団地）			消費税及び地方消費税額〇〇	（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）
3	貯水槽清掃業務（A団地）			消費税及び地方消費税額〇〇	（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）
4	精密点検業務（B団地）			消費税及び地方消費税額〇〇	（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）
5	貯水槽清掃業務（C団地）			消費税及び地方消費税額〇〇	（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）
6	精密点検業務（C団地）			消費税及び地方消費税額〇〇	（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）
7	貯水槽清掃業務（B団地）			消費税及び地方消費税額〇〇	（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）
8	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・
9	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・
10	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・

Ⅰ＋Ⅱ総計	0

（うち消費税及び地方消費税額〇〇円）

7-1　請負契約書

請　負　契　約　書

１　役務の名称　　【ＵＲコミュニティ】ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務
（徳力団地他44団地）
２　契約期間　　平成29年4月１日から平成32年3月31日まで
３　契約金額　　別表のとおり
４　業務実施団地
共通仕様書別紙１「対象団地一覧表」のとおり

発注者独立行政法人都市再生機構と受注者　　は、頭書の役務（以下「本役務」という。）に関する請負契約を次のとおり締結する。

この契約締結の証として、本書２通を作成し、発注者及び受注者が記名押印の上、各自１通を保有する。

平成　　年　　月　　日

発注者　住　所
氏　名　　印

受注者　住　所
氏　名　　印

（総則）

第１条　発注者は、本役務をこの契約に定める条件で発注し、受注者は、これを履行するものとする。

（権利義務の譲渡等の制限）

第２条　受注者は、この契約によって生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、書面による発注者の承諾を得たときは、この限りでない。

（再委託等の制限）

第３条　受注者は、この契約の履行に当たり、管理技術者及び主任技術者に係る業務を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。また、その他の業務を第三者に委託し、又は請け負わせる場合においては、書面による発注者の承諾を得るものとする。

（仕様）

第４条　受注者は、共通仕様書、各特記仕様書等に従い、本役務を履行するものとする。

（業務実施体制）

第５条　受注者は、業務の実施に当たり、当該業務の実施体制等を記載した「業務計画書」を作成し、発注者に提出するものとし、実施体制等の全部又は一部について変更があった場合も同様とする。

（担当職員等）

第６条　発注者は、業務の実施に当たり、受注者に対して指示、承諾等を行う者（以下「担当職員」という。）を定め、その氏名を受注者に通知するものとする。

２　発注者は、業務の完了検査を行う者（以下「検査職員」という。）を定め、その氏名を受注者に通知するものとする。

（管理技術者等）

第７条　受注者は、本契約締結後、業務の履行開始までに共通仕様書別紙３「業務区分と資格要件」に定める資格を有する管理技術者及び主任技術者（以下「管理技術者等」という。）及び技術者、技術員を定め、その氏名を受注者に通知するものとし、業務実施期間中に管理技術者等を交代させる場合も同様とする。

２　管理技術者等は、担当職員の指示に従い、共通仕様書別紙３「業務区分と資格要件」に定める業務を実施するものとする。

３　発注者は、管理技術者等が業務の実施又は管理上不適任と認めたときは、その理由を明らかにして、受注者にその者の変更を求めることができるものとする。

（業務実施上の注意義務）

第８条　受注者は、業務の実施にあたる者に、業務及び作業に適した制服等を着用させ、腕章、名札等により業務従事者であることを明らかにするものとする。

２　受注者は、業務の実施にあたる者に、身分証明書（顔写真入り）を所持させるものとし、発注者又は団地居住者から提示を求められたときには、これを提示するものとする。

３　受注者は、業務の実施に当たって、住宅等の建築物、樹木等の植栽物及びその他の工作物等の汚損又は破損を防止し、居住者等に対する危険を防止するとともに居住者の居住環境を阻害しないよう注意するものとする。

（諸費用等）

第９条　受注者は、本役務を実施するために必要となる備品、消耗品等を自らの費用負担により調達するものとする。なお、業務を処理するために要する水質検査器具、薬剤、燃料等の消耗品、その他小修理工事に係る費用については、発注者と協議のうえ、別途請求できるものとする。

２　自動通報装置等の通信費は、受注者の負担とする。

（業務内容の変更、中止等）

第 10 条　発注者は、必要がある場合には、業務の内容を一部変更し、若しくは業務を一時中止し、又は業務を打ち切ることができるものとする。この場合において、頭書の期間又は請負代金額を変更する必要があるときは、発注者及び受注者が協議して定めるものとする。

２　前項の作業の内容を一部変更し、若しくは作業を中止し、又は作業を打ち切った場合において、受注者が損害を受けたときは、発注者はその損害を賠償しなければならない。この場合の賠償額は発注者及び受注者が協議して定めるものとする。

３　発注者は、第１項の規定により、業務実施団地の数の増減を伴う変更等を行う場合、90 日の予告期間をもって、受注者に通知するものとする。

４　受注者は、天災、地変、火災、天候不良等受注者の責に帰すことができない理由又はその他の正当な理由により期間内に業務を実施することが不可能なときは、遅滞なく発注者に届け出て、発注者の指示を受けるものとする。

（危険負担）

第 11 条　本役務の履行に当たり、次条第１項に規定する発注者の確認の前に生じた損害は、受注者がこれを負担するものとする。

（完了の確認）

第 12 条　受注者は、本役務の履行後に各特記仕様書別表に定める報告書類を作成し、検査職員に提出するものとする。

２　受注者は、毎月末に当該月の業務実施状況を明らかにした上、別紙様式１業務完了届を検査職員に提出し、確認を受けるものとする。

３　検査職員は、第１項又は第２項により、報告書類又は完了届を受理したときは適宜検査するものとする。

４　前項の検査の結果、検査職員が完了を認めなかった作業については、受注者は検査職員の指示するところに従い処置しなければならない。

（請負代金）

第 13 条　本役務の対価（以下「請負代金」という。）は、頭書に掲げるとおりとする。

２　受注者は、請負代金については、毎月前条第３項の検査を受けた後、翌月 10 日ま

でに当該月分の支払請求書を発注者に提出するものとし、発注者は、当該請求書を受理した日から起算して 30 日以内に、これを受注者に支払うものとする。ただし、前条第４項に該当する場合において、発注者がその必要を認めたときは、発注者は請負代金の支払期日を発注者及び受注者が協議の上、変更できるものとする。

３　履行期間に１か月未満の端数が生じたときの月額の請負代金は、１か月分を30日として日割計算した額とし、その日割計算した額に10円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てるものとする。

（請負代金の変更）

第 14 条　発注者又は受注者は、契約期間内に賃金等の変動により著しく前条第１項に規定する請負代金の額が不相当となったときは、相手方に対して、請負代金の変更を求めることができる。この場合、変更額は発注者及び受注者が協議して定めるものとする。

（延滞金）

第15条　受注者の責めに帰する理由により受注者が仕様書に指定された履行期限内又は履行時期に本役務を完了しない場合において、履行期限又は履行時期経過後相当期間内に完了する見込みがあると発注者が認めたときは、発注者は、受注者から延滞金を徴収して、当該履行期限を延長し、又は履行時期を変更することができる。

２　前項の延滞金は、その延長日数に応じ、請負代金に対し、年（365 日当たり）５パーセントの割合で計算した金額とする。

（談合等不正行為があった場合の違約金等）

第15条の２　受注者が、次に掲げる場合のいずれかに該当したときは、受注者は、発注者の請求に基づき、契約金額（この契約締結後、請負代金額の変更があった場合には、変更後の請負代金額）の10分の１に相当する額を違約金として発注者の指定期間内に支払わなければならない。

一　この契約に関し、受注者が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第３条の規定に違反し、又は受注者が構成事業者である事業者団体が独占禁止法第８条第１項第１号の規定に違反したことにより、公正取引委員会が受注者に対し、独占禁止法第７条の２第１項（独占禁止法第８条の３において準用する場合を含む。）の規定に基づく課徴金の納付命令（以下「納付命令」という。）を行い、当該納付命令が確定したとき（確定した当該納付命令が独占禁止法第63条第２項の規定により取り消された場合を含む。）。

二　納付命令又は独占禁止法第７条若しくは第８条の２の規定に基づく排除措置命令（これらの命令が受注者又は受注者が構成事業者である事業者団体（以下「受注者等」という。）に対して行われたときは、受注者等に対する命令で確定したものをいい、受注者等に対して行われていないときは、各名宛人に対する命令すべてが確定した場合における当該命令をいう。次号において「納付命令又は排除措置命令」

という。）において、この契約に関し、独占禁止法第３条又は第８条第１項第１号の規定に違反する行為の実行としての事業活動があったとされたとき。

三　納付命令又は排除措置命令により、受注者等に独占禁止法第３条又は第８条第１項第１号の規定に違反する行為があったとされた期間及び当該違反する行為の対象となった取引分野が示された場合において、この契約が、当該期間（これらの命令に係る事件について、公正取引委員会が受注者に対し納付命令を行い、これが確定したときは、当該納付命令における課徴金の計算の基礎である当該違反する行為の実行期間を除く。）に入札（見積書の提出を含む。）が行われたものであり、かつ、当該取引分野に該当するものであるとき。

四　この契約に関し、受注者（法人にあっては、その役員又は使用人を含む。）の刑法（明治40年法律第45号）第96条の６又は独占禁止法第89条第１項若しくは第95条第１項第１号に規定する刑が確定したとき。

２　この契約に関し、前項第４号に規定する場合に該当し、かつ、次の各号に掲げる場合のいずれかに該当したときは、受注者は、発注者の請求に基づき、前項に規定する契約金額の10分の１に相当する額のほか、契約金額の100分の５に相当する額を違約金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。

一　前項第１号に規定する確定した納付命令について、独占禁止法第７条の２第７項の規程に適用があるとき。

二　前項第４号の規定する刑に係る確定判決において、受注者が違反行為の首謀者であることが明らかになったとき。

三　受注者が発注者に入札心得書第３条の３の規定に抵触する行為を行っていない旨の誓約書を提出しているとき。

３　受注者が前２項の違約金を発注者の指定する期間内に支払わないときは、受注者は、当該期間を経過した日から支払いをする日までの日数に応じ、年（365 日当たり）５パーセントの割合で計算した額の遅延利息を発注者に支払わなければならない。

（遅延利息）

第 16 条　受注者は、発注者がその責に帰すべき理由により約定期間を超えて請負代金の支払を行った場合には、その遅延日数に応じ、当該支払額に対し、年（365 日当たり）2.8 パーセントの割合で計算した額を、遅延利息として発注者に請求することができる。

（損害賠償義務）

第 17 条　本役務の履行に当たり、発注者又は第三者に及ぼした損害は、受注者が賠償するものとする。ただし、受注者の責に帰さない理由による損害については、この限りでない。

（通知義務）

第 18 条　受注者は、次の各号の一に該当するときは、直ちにその旨を発注者に通知しなければならない。

一　管理技術者等を変更しようとするとき。
二　受注者の名称又は代表者及び組織を変更したとき。
三　受注者の所在地を変更したとき。
四　営業を廃止又は休止しようとするとき。

2　発注者は、第６条に定める担当職員及び検査職員を変更しようとする場合は、新たに選任した者の氏名及び交代日を受注者に通知しなければならない。

（業務実績評価の実施）

第 19 条　発注者は、受注者に対する本役務の実施状況に関する評価（「業務実績評価」という。）を、別添様式２事業者評価シートにより、毎年度（年度の途中に契約を締結した場合の契約締結年度を除く。）、年度末から概ね６ヶ月前に実施するものとし、発注者は実施した業務実績評価の結果を受注者に通知するものとする。

2　業務実績評価の結果、評価「C」が付された「評価の視点」項目について、受注者は、発注者が本役務を適切に実施し得る内容であると認める内容の「改善計画書（様式任意）」を、前項の通知があった日から原則として 30 日以内に、発注者に提出しなければならない。

3　受注者は、前項により甲に提出した「改善計画書」にそって本役務を実施しなければならない。

（発注者の解除権）

第 20 条　発注者は、受注者が次の各号の一に該当すると認めるときは、催告によらないで、この契約を解除することができる。

一　本役務の公募時点において発注者に提出された技術資料（提出書類を含む。）に虚偽の事項を記載し、その他不正な手段により本役務の請負者として選定されたことが明らかとなったとき。
二　この契約の締結に先立ち、発注者が受注者に交付した入札説明書に定める資格要件に該当しなくなったとき。
三　第２条、第３条の規定に違反したとき。
四　第16条に規定する賠償義務を怠ったとき。
五　前条第３項の「改善計画書」を提出しなかったとき、または、提出した「改善計画書」にそって本役務が実施されないとき。
六　その他この契約に違反し、その違反によりこの契約の目的を達することができないとき。
七　受注者が次のいずれかに該当するとき。
イ　役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役員又はその支店若しくは常時業務委託の契約を締結する事務所の代表者をいう。以下この号において同じ。）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成３年法律第77号。以下「暴力団対策法」という。）第２条第６号に規定する暴力団員（以下この号において「暴力団員」という。）であると認め

られるとき。

ロ　暴力団（暴力団対策法第２条第２号に規定する暴力団をいう。以下この号において同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。

ハ　役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。

ニ　役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。

ホ　役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

ヘ　下請契約その他の契約にあたり、その相手方がイからホまでのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。

ト　受注者が、イからホまでのいずれかに該当する者を再委託契約その他の契約の相手方としていた場合（ヘに該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。

八　破産の申立て（自己申立てを含む。）を受け、又は解散したとき。

（違約金）

第21条　受注者は、前条の規程によりこの契約を解除されたときは、契約金額の10分の１に相当する額を違約金として、発注者に支払うものとする。

２　受注者に1ヶ月以上、その責により提出した技術資料のとおりに業務が履行できない状況が発生した場合には、発注者は受注者と協議を行い、入札時に付与した技術評価点の再計算を行い、契約時の評価値に相応する評価額（以下、「ペナルティ額」という。）を算定し、ペナルティ額に100分の8に相応する額を加算した額を違約金として支払を求めることが出来る。ただし、当該違約金は、請負代金の10分の１に相当する額を上限とする。

ペナルティ額（千円未満切り捨て）＝（当初評価値 － 見直し後技術評価点 － 当初価格評価点）×（当初予定価格÷価格評価点の配分点（技術評価点に評価値配点割合を乗じた点数で、価格評価値の満点（100 点）を言う。）×契約残月数（発注者が技術資料のとおりに業務が履行できないと判断した月から契約終了日の属する月までの月数。）なお、ペナルティ額は、前項で示した違約金を上限とする。

（発注者の都合による解除）

第 22 条　発注者は、第 19 条各号の場合のほか、発注者の都合により、この契約を解除することができる。

２　発注者は、前項の規定により契約を解除するときは、少なくとも３か月前までに、書面により受注者に通知しなければならない。

３　第１項の規定によりこの契約が解除された場合において、受注者が損害を被ったと

きは、発注者は、これを賠償しなければならない。ただし、その賠償額は、発注者及び受注者が協議して定めるものとする。

（秘密の保持）

第 23 条　受注者は、この契約の履行に当たり知り得た秘密を第三者に漏らし、又は他の目的に使用してはならない。

（相殺）

第 24 条　発注者は、受注者に対して支払うべき金銭債務と受注者が発注者に対して支払うべき金銭債務とを相殺し、なお不足を生ずるときは、更に追徴するものとする。

（協議事項）

第 25 条　この契約に定めがない事項又は疑義を生じた事項については、発注者及び受注者が協議して定めるものとする。

（以下余白）

別紙様式１

独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まいセンター
センター長　　田中　英樹　殿

平成　　年　　月　　日
請　負　者　　印
管理技術者　　印
管理技術者　　印

業　務　完　了　届

下記の業務を完了しましたので報告します。

記

１　実施年月　　平成　　年　　月分

２　業務内容　　ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務

３　団 地 名　　○○他○○団地

別紙様式２

給水施設等維持管理業務に係る事業者評価シート

平成　　年　　月　　日記入

業務概要	事業者名　　：　○○○○株式会社	
	実施場所　　：　○○団地	
	実施期間　　：　平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日	
評価項目	評価の視点	評価
業務の的確性	機構の実施方針を十分理解し、契約書及び仕様書に定める業務を適正、かつ、迅速に実施しているか。	
業務の実施体制（管理技術者）	管理技術者が他の業務担当者を適切に指揮監督し、仕様書に基づく業務の適正な履行が確保されているか。	
業務の実施体制（資格要件）	各業務担当者が有するべき資格要件を満たし、適切に業務が実施される体制を確保しているか。	
業務の連絡体制	業務の連絡体制が機能しており、管理技術者等と業務担当者との連絡・調整が十分図られているか。	
緊急事故発生時の対応	緊急事故の発生に備えて、速やかに現地に到着可能な体制が確保されているか。また、発生時においても迅速な対応が行われているか。	
不具合箇所発見時の対応	施設に不具合箇所を発見した場合において、必要に応じた応急措置及び機構への報告が迅速に行われているか。	
安全管理	業務の実施にあたって、業務担当者及び居住者等に対する危険を防止するための措置を講じているか。	
自主検査体制	業務の実施状況を定期的にチェックするための体制が整っており、適切に検査等が行われているか。	
着用する作業着	各業務担当者が業務に適した作業着を着用し、腕章等により身分を明らかに（かつ会社名及び名前を表示）しているか。	
社内研修体制等	当該業務に関する研修及び資格取得の促進への取組みが適切に行われているか。	
居住者への対応	当該業務に関する居住者からの申出等に対して、迅速かつ誠実に対応しているか。	
施設等の衛生管理	施設立入りの際、業務担当者に法令で定められた健康診断を受診させ、また、施設内の適切な衛生管理に努めているか。	
安全・安心への取組み（別紙）	居住者の安全・安心に資する取組みが適切に行われているか。	
事業者との連携	小規模修繕事業者等、他の事業者とも円滑に連携を図りながら業務に取り組んでいるか。	
参加者資格等	機構における物品購入等の契約に係る競争参加資格の認定を受けているか。また、機構との間で取引停止又は指名停止が行われていないか。	

【凡例】

評　価	内　　容
A	適切に業務を実施しているほか、積極的に業務の改善やサービス向上の工夫を行うなどの優れた成果が見られる。
B	概ね適切に業務を実施しているが、更なる成果の向上が期待される。
C	適切に業務が実施されていない状況が見受けられ、業務の改善等が必要である。
－	業務上該当しない項目又は処理実績のない場合

（標準案）

個人情報等の保護に関する特約条項

発注者及び受注者が平成　年　月　日付けで締結した【ＵＲコミュニティ】ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務（徳力団地他44団地）の契約（以下「本契約」という。）に関し、受注者が、本契約に基づく業務等（以下「業務等」という。）を実施するに当たっての個人情報等の取扱いについては、本特約条項によるものとする。

（定義）

第１条　本特約条項における個人情報等とは、発注者が提供及び受注者が収集する情報のうち、次に掲げるものをいう。

一　個人情報（独立行政法人の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号）第２条第２項に規定する個人情報をいう。）

二　公表されていない情報であり、漏えい等することによって、発注者の権利利益を侵害するおそれがある情報

三　業務を行うために発注者から提供を受けた個人情報

四　受注者が業務に関してしり得た個人情報

（個人情報等の取扱い）

第２条　受注者は、個人情報等の保護の重要性を認識し、業務等の実施に当たっては、個人及び発注者の権利利益を侵害することのないよう、個人情報等の取扱いを適正に行わなければならない。

（管理体制等の報告）

第３条　受注者は、個人情報等について、取扱責任者及び担当者を定め、管理及び実施体制を書面（別紙様式１）により報告し、発注者の確認を受けなければならない。また、報告内容に変更が生じたときも同様とする。

（秘密の保持）

第４条　受注者は、個人情報等を第三者に漏らしてはならない。また、本契約が終了し、又は解除された後も同様とする。

（適正な管理のための措置）

第５条　受注者は、個人情報等について、漏えい、滅失及びき損の防止その他の適正な管理のための必要な措置を講じなければならない。

（収集の方法）

第６条　受注者は、業務等を処理するために個人情報等を収集するときは、必要な範囲内で、適正かつ公正な手段により収集しなければならない。

（目的外利用等の禁止）

第７条　受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、個人情報等を、本契約の目的外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

（個人情報等の持出し等の禁止）

第８条　受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、個人情報等を受

注者の事業所から送付及び持ち出し等してはならない。

（複写等の禁止）

第９条　受注者は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、個人情報等が記録された電磁的記録又は書類等を複写し、又は複製してはならない。

（再委託の制限等）

第10条　受注者は、発注者の承諾があるときを除き、個人情報等を取扱う業務等について、他に請負わせてはならない。

２　受注者は、前項の規定に基づき他に請負わせる場合には、その請負わせる者に対して､本特約条項に規定する受注者の義務を負わせなければならない。

３　前２項の規定は、第１項の規定に基づき請負った者が更に他に請負わせる場合、その請負った者が更に他に請負わせる場合及びそれ以降も同様に適用する。

（返還等）

第11条　受注者は、発注者から提供を受け、又は受注者自らが収集し、若しくは作成した個人情報等が記録された電磁的記録又は書類等について、不要となったときは速やかに、本契約終了後は直ちに発注者に返還し又は引渡さなければならない。

２　受注者は、個人情報等が記録された電磁的記録又は書類等について、発注者の指示又は承諾により消去又は廃棄する場合には、復元又は判読が不可能な方法により行わなければならない。

（事故等の報告）

第12条　受注者は、本特約条項に違反する事態が生じた、又は生じるおそれのあるときは、直ちに発注者に報告し、発注者の指示に従わなければならない。

（管理状況の報告等）

第13条　受注者は、個人情報等の管理の状況について、発注者が報告を求めたときは速やかに、本契約の契約期間が１年以上の場合においては契約の始期から６か月後の月末までに（以降は、直近の報告から１年後の月末までに)、書面（別紙様式２）により報告しなければならない。

２　発注者は、必要があると認めるときは、前項の報告その他個人情報等の管理の状況について調査することができ、受注者はそれに協力しなければならない。

３　受注者は、第１項の報告の確認又は前項の調査の結果、個人情報等の管理の状況について、発注者が不適切と認めたときは、直ちに是正しなければならない。

（取扱手順書）

第14条　受注者は、本特約条項に定めるもののほか、別添「個人情報等に係る取扱手順書」に従い個人情報等を取扱わなければならない。

（契約解除及び損害賠償）

第15条　発注者は、受注者が本特約条項に違反していると認めたときは、本契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。

本特約条項締結の証として本書２通を作成し、発注者と受注者が記名押印の上、各自１通を保有する。

平成　年　月　日

発注者　住所

氏名　　印

受注者　住所

氏名　　印

（別添）

個人情報等に係る取扱手順書

個人情報等については、取扱責任者による監督の下で、以下のとおり取り扱うものとする。

１　個人情報等の秘密保持について

個人情報等を第三者に漏らしてはならない。
※業務終了後についても同じ

２　個人情報等の保管について

個人情報等が記録されている書類等（紙媒体及び電磁的記録媒体をいう。以下同じ。）及びデータは、次のとおり保管する。

(1)　書類等

受注者の事務所内のキャビネットなど決められた場所に施錠して保管する。

(2)　データ

①　データを保存するＰＣ及びスマートフォンやＵＳＢメモリ等の記録機能を有する機器・媒体、又はファイルについては、パスワードを設定する。また、そのアクセス許可者は業務上必要最低限の者とする。

②　①に記載するＰＣ及び機器・媒体については、受注者が支給及び管理するもののみとする。※私物の使用は一切不可とする。

３　個人情報等の送付及び持出し等について

個人情報等は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、受注者の事務所から送付及び持ち出し等してはならない。ただし、発注者の指示又は承諾により、個人情報等を送付及び持ち出しをする場合には、次のとおり取り扱うものとする。

(1)　送付及び持出しの記録等

台帳等を整備し、記録・保管する。

(2)　送付及び持出し等の手順

①　郵送や宅配便

複数人で宛先住所等と封入文書等に相違がないことを確認し、送付する。

②　ファクシミリ

原則として禁止する。ただし、やむを得ずファクシミリ送信を行う場合は、次の手順を厳守する。

・送信先への事前連絡

・複数人で宛先番号の確認
・送信先への着信確認
※初めての送信先の場合は、本送信前に、試行送信を実施すること

③　電子メール

個人情報等は、メールの本文中に記載せず、添付ファイルによる送付とする。添付ファイルには、パスワードを設定し、パスワードは別途通知する。

また、複数の送信先に同時に送信する場合には、他者のメールアドレスが表示されないように、「bcc」で送信する。

④　持出し

運搬時は、外から見えないように封筒やバック等に入れて、常に携行する。

4　個人情報等の収集について

業務等において必要のない個人情報等は取得しない。

また、業務上必要な個人情報等のうち、個人情報を取得する場合には、本人に利用目的を明示の上、業務を処理するために必要な範囲内で、適正かつ公正な手段により収集しなければならない。

5　個人情報等の利用及び第三者提供の禁止について

個人情報等は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、業務等の目的外に利用し、又は第三者に提供してはならない。

6　個人情報等の複写又は複製の禁止について

個人情報等は、発注者の指示又は承諾があるときを除き、個人情報等が記録された電磁的記録及び書類等を複写し、又は複製してはならない。

7　個人情報等の返還等について

①　業務等において不要となった個人情報等は、速やかに発注者に返還又は引渡しをする。

②　発注者の指示又は承諾により、個人情報等を、消去又は廃棄する場合には、シュレッダー等を用いて物理的に裁断する等の方法により、復元又は判読が不可能な方法により消去又は廃棄する。

8　個人情報等が登録された携帯電話機の使用について

発注者の指示又は承諾により、携帯電話機に個人情報等を登録し、使用する場合には、次のとおり取り扱うものとする。

(1)　パスワード等を用いたセキュリティロック機能を設定する。

(2)　必要に応じて、亡失防止用具（ストラップ等）の使用等により、亡失の

防止に努める。

(3)　電話帳への個人の氏名・電話番号・メールアドレス等の登録（住所及び個人を特定できる画像は登録しない。）は、業務上必要なものに限定する。

(4)　個人情報等が含まれたメール(添付されたファイルを含む。)及び画像は、業務上不要となり次第、消去する。

9　事故等の報告

個人情報等の漏えいが明らかになったとき、又はそのおそれが生じたときは、直ちに発注者に報告する。

10　その他留意事項

独立行政法人は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第59号）に基づき、個人情報を取り扱わなければならない。

この法律の第７条第２項において、『独立行政法人等から個人情報の取扱いの委託を受けた者が受託した業務を行う場合には、保有個人情報の漏えい、滅失又はき損の防止その他の保有個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。』と規定されており、**業務受注者についても本法律の適用対象**となる。

したがって、本法律に違反した場合には、第50条及び第51条に定める罰則規定により、懲役又は罰金刑に処される場合があるので、留意されたい。

別紙様式１

平成　年　月　日

株式会社＊＊＊＊＊
代表取締役　＊＊　＊＊　印

個人情報等に係る管理及び実施体制

契約件名：

１　取扱責任者及び取扱者

	部　署 役　職	氏　名	取扱う範囲等
取扱責任者	○○部△△課 課長		
取扱者	○○部△△課 係長		＊＊＊地区に係る～～～
	○○部△△課 主任		＊＊＊地区に係る～～～
	○○部△△課		＊＊＊地区に係る～～～

２　管理及び実施体制図

（様式任意）

別紙様式２

平成　年　月　日

独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まいセンター
センター長　田中　英樹　殿

株式会社＊＊＊＊＊
代表取締役　＊＊　＊＊　印

個人情報等の管理状況

次の契約における個人情報等の管理状況について、下記のとおり、報告いたします。

契約件名：

記

１　確 認 日　　平成　年　月　日

２　確 認 者　　取扱責任者　○○　○○

３　確認結果　　別紙のとおり

以　上

（別紙）管理状況の確認結果

【管理する個人情報等】

確　認　内　容	確認結果	備考
1　管理及び実施体制		
平成　　年　　月　　日付けで提出した「個人情報等に係る管理及び実施体制」のとおり、管理及び実施している。		
2　秘密の保持		
個人情報等を第三者に漏らしていない。		
3　安全確保の措置		
個人情報等について、漏えい、滅失及びき損の防止その他の適正な管理のための必要な措置を講じている。		
《個人情報等の保管状況》		
①　個人情報等が記録された電磁的記録及び書類等は、受注者の事務所内のキャビネットなど決められた場所に施錠して保管している。		
②　データを保存するＰＣ及びスマートフォンやＵＳＢメモリ等の記録機能を有する機器・媒体、又はファイルについては、パスワードを設定している。		
③　アクセス許可者は業務上必要最低限の者としている。		
④　②に記載するＰＣ及び機器・媒体については、受注者が支給及び管理しており、私物の使用はしていない。		
《個人情報等の送付及び持出し手順》		
①　発注者の指示又は承諾があるときを除き、受注者の事務所から送付又は持出しをしていない。		
②　送付及び持出しの記録を台帳等に記載し、保管している。		
③　郵送や宅配便について、複数人で宛先住所等と封入文書等に相違がないことを確認し、送付している。		

確　認　内　容	確認結果	備考
④ ＦＡＸについては、原則として禁止しており、やむを得ずＦＡＸ送信する場合は、次の手順を厳守している。 ・初めての送信先の場合は、試行送信を実施 ・送信先への事前連絡 ・複数人で宛先番号の確認 ・送信先への着信確認		
⑤ ｅメール等について、個人情報等は、メールの本文中に記載せず、添付ファイルによる送付としている。		
⑥ 添付ファイルには、パスワードを設定し、パスワードは別途通知している。		
⑦ １回の送信において送信先が複数ある場合には、他者のメールアドレスが表示されないように、「bcc」で送信している。		
⑧ 持出しについて、運搬時は、外から見えないように封筒やバック等に入れて、常に携行している。		
４　収集の制限		
個人情報等を収集するときは、業務を処理するために必要な範囲内で、適正かつ公正な手段により収集している。		
《個人情報等の取得等手順》		
① 業務上必要のない個人情報等は取得していない。		
② 業務上必要な個人情報等のうち、個人情報を取得する場合には、本人に利用目的を明示している。		
５　利用及び提供の禁止		
個人情報等を契約の目的外に利用し、又は第三者に提供していない。 ※発注者の指示又は承諾があるときを除く。		
６　複写又は複製の禁止		
個人情報等が記録された電磁的記録及び書類等を複写し、又は複製していない。 ※発注者の指示又は承諾があるときを除く。		
７　再委託の制限等		
個人情報等を取扱う業務について、他に委託し、又は請け負わせていない。 ※発注者の承諾があるときを除く。		
【再委託、再々委託等を行っている場合】		
再委託先、再々委託先等に対して、特約条項に規定する受注者の義務を負わせている。		
８　返還等		
① 業務上不要となった個人情報等は、速やかに発注者に返還又は引渡しをしている。		

確　認　内　容		確認結果	備考
	② 個人情報等を消去又は廃棄する場合には、シュレッダー等を用いて物理的に裁断する等の方法により、復元又は判読が不可能な方法により消去又は廃棄している。		
9　携帯電話機の使用			
	① パスワード等を用いたセキュリティロック機能を設定している。		
	② 必要に応じて、亡失防止用具（ストラップ等）の使用等により、亡失の防止に努めている。		
	③ 電話帳への個人の氏名・電話番号・メールアドレス等の登録（住所及び個人を特定できる画像は登録しない。）は、業務上必要なものに限定している。		
	④ 個人情報等が含まれたメール（添付されたファイルを含む。）及び画像は、業務上不要となり次第、消去している。		
10　事故等の報告			
	特約条項に違反する事態が生じ、又は生じるおそれのあることを知ったときは、直ちに発注者に報告し、指示に従っている。		
11　取扱手順書の周知・徹底			
	個人情報等の取扱者に対して、取扱手順書の周知・徹底を行っている。		
12　その他報告事項			
（任意記載のほか、取扱手順書等特記事項があればその対応を記載する。）			

※　確認結果欄等への記載方法

確認結果	記載事項
適切に行っている	○
一部行っていない	△
行っていない	×
該当するものがない	－

＊「△」及び「×」については備考欄にその理由を記載する。

9　共同体協定書

【ＵＲコミュニティ】ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務（徳力団地他44団地）
△△・××共同体協定書

（目的）

第１条　当団地管理共同体は、次の業務を共同連帯して行うことを目的とする。

一　独立行政法人都市再生機構業務受託者株式会社ＵＲコミュニティが委託する【ＵＲコミュニティ】ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務（徳力団地他44団地）（当該業務内容の変更に伴う業務を含む。）

二　前号に附帯する業務

（名称）

第２条　当団地管理共同体は、【ＵＲコミュニティ】ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務（徳力団地他44団地）△△・××共同体（以下「当共同体」という。）と称する。

（事務所の所在地）

第３条　当共同体は、事務所を○○市○○町○○番地に置く。

（成立の時期及び解散の時期）

第４条　当共同体は、　　年　　月　　日に成立し、当業務の委託契約の履行後３か月を経過するまでの間は、解散することはできない。

２　当業務を受託できなかったときは、当共同体は、前項の規定にかかわらず、当業務に係る委託契約が締結された日に解散するものとする。

（構成員の住所及び名称）

第５条　当共同体の構成員は、次のとおりとする。

○○県○○市○○町○○番地　　○○株式会社

○○県○○市○○町○○番地　　○○株式会社

（代表者の名称）

第６条　当共同体は、○○株式会社を代表者とする。

（代表者の権限）

第７条　当共同体の代表者は、当業務の履行に関し、当共同体を代表して、委託者及び監督官庁等と折衝する権限並びに自己の名義をもって委託費の請求、受領及び当共同体に属する財産を管理する権限を有するものとする。

２　構成員は、管理の過程において派生的に生じた著作権、特許権、実用新案権等の取扱いについては、委託者と協議を行う権限を、当共同体の代表者である企業に委任するものとする。なお、当共同体の解散後、共同体の代表者である企業が破産等（破産の申立てがなされた場合その他事実上倒産状態に至ったと認められる場合を含む。以下同じ。）又は解散した場合においては、当該権利に関し委託者と協議を行う権限を、代表者である企業以外の構成員である一の企業に対し、その他の構成員である企業が委任するものとする。

（分担業務）

第８条　各構成員の当業務の分担は、次のとおりとする。ただし、分担業務の一部につき委託者と契約内容の変更増減があったときは、それに応じて分担の変更があるものとする。

○○の○○業務　○○株式会社

○○の○○業務　○○株式会社

２　前項に規定する分担業務の価額（運営委員会で定める。）については、別に定めるところによるものとする。

（運営委員会）

第９条　当共同体は、構成員全員をもって運営委員会を設け、当業務の履行に当たるものとする。

（構成員の責任）

第10条　構成員は、運営委員会が決定した工程表によりそれぞれの分担業務の進捗を図り、委託契約の履行に関し連帯して責任を負うものとする。

（取引金融機関）

第11条　当共同体の取引金融機関は、○○銀行とし、代表者の名義により設けられた別口預金口座によって取引するものとする。

（構成員の必要経費の分配）

第12条　構成員は、その分担業務を行うため、運営委員会の定めるところにより必要な経費の分配を受けるものとする。

（共通費用の分担）

第13条　当業務を行うにつき発生した共通の経費等については、分担業務額の割合により運営委員会において。各構成員の分担額を決定するものとする。

（構成員の相互間の責任の分担）

第14条　構成員がその分担業務に関し、委託者及び第三者に与えた損害は、当該構成員がこれを負担するものとする。

２　構成員が他の構成員に損害を与えた場合においては、その責任につき関係構成員が協議するものとする。

３　前２項に規定する責任について協議が調わないときは、運営委員会の決定に従うものとする。

４　前３項の規定は、いかなる意味においても第10条に規定する共同体の責任を逃れるものではない。

（権利義務の譲渡の制限）

第15条　本協定書に基づく権利義務は、他人に譲渡することができない。

（業務途中における構成員の脱退）

第16条　構成員は、当共同体が当業務を完了する日までは脱退することができない。

（業務途中における構成員の破産又は解散に対する処置）

第17条　構成員のうちいずれかが業務途中において破産等又は解散した場合においては、委託者の承認を得て、残存構成員が共同連帯して当該構成員の分担業務を完了するものとする。ただし、残存構成員のみでは適正な履行の確保が困難なときは、残存構成員全員及び委託者の承認を得て、新たな構成員を当該共同体に加入させ、当該構成員を加えた構成員が共同連帯して破産又は解散した構成員の分担業務を完了するものとする。

２　前項の場合においては、第14条第２項及び第３項の規定を準用する。

（解散後のかしに対する構成員の責任）

第18条　当共同体が解散した後においても、当業務につきかしがあったときは、各構成員は共同連帯してその責に任ずるものとする。

（協定書に定めのない事項）

第19条　この協定書に定めのない事項については、運営委員会において定めるものとする。

○○株式会社他○社は、上記のとおり当業務共同体協定を締結したので、その証としてこの協定書○通を作成し、各通に構成員が記名押印の上、各自１通を保有するものとする。

年　　月　　日

○○株式会社　代表取締役　○○　○○　　印

○○株式会社　代表取締役　○○　○○　　印

○○　○○　　印

給水施設等維持管理業務仕様書

1　共通仕様書
2　給水施設維持管理業務特記仕様書
3　自家用電気工作物維持管理業務特記仕様書
4　貯水槽清掃業務特記仕様書

給水施設等維持管理業務共通仕様書

1 業務名称　【ＵＲコミュニティ】ＵＲ賃貸住宅給水施設等維持管理業務　一式
（徳力団地他 44 団地）

2 履行期間平成 29 年４月１日から平成 32 年３月 31 日

3 業務の対象

本業務の対象は、本業務の発注者が管理する別紙１「給水施設維持管理等対象団地等一覧表」（以下「対象団地」という。）に掲げる賃貸住宅団地に存する給水施設、汚水処理施設及び電気事業法における自家用電気工作物(以下「施設等」という)の維持管理業務、貯水槽の清掃業務、施設等の緊急事故処理対応業務及び施設等の小修理工事とする。

4 適用範囲

本仕様書は、3「業務の対象」の内容について、統一的な解釈及び運用を図るとともに、その他の必要な事項を定め、もって契約の適正な履行の確保を図るためのものであり、次の(1)から(4)に掲げる業務は、本共通仕様書によるほか、各業務の特記仕様書等により実施するものとする。

さらに、(2)の電気事業法による自家用電気工作物の維持及び運用の保安に関する事項に係る業務は、都市再生機構電気工作物保安規程（以下「保安規程」という。）に従うものとする。

(1) 給水施設維持管理業務

給水施設維持管理業務特記仕様書の定めによる。

(2) 自家用電気工作物維持管理業務

自家用電気工作物維持管理業務特記仕様書の定めによる。

(3) 貯水槽清掃業務

貯水槽清掃業務特記仕様書の定めによる。

(4) (1)～(3)の業務に付随する業務

次の業務を 24 時間全日対応できる業務体制をとること。

① 緊急事故対応処理業務

施設等における停電、断水及び機器の故障等の信号等を遠隔で受信し、緊急対応及び復旧対応作業行う

② 小修理工事※

(1)～(3)の業務により発見した不良個所、事故等の発生を防止又は発生した場合に、担当職員の指示により行う小修理工事であり、取扱については、別紙 2「小修理工事に関する実施要領」による。

※小修理工事とは、点検等により確認された経常的に生じる不具合や損耗について、原状復旧を目的に、200 万円未満の小規模で、その都度行う修繕をいう。（緊急対応及び復旧対応作業が必要な業務含む）

5 用語の定義

仕様書に使用する用語の定義は、次の各号に定めるところによる。

(1) 発注者とは、契約担当役若しくは分任契約担当役をいう。

(2) 受注者とは、業務の実施に関し、発注者と給水施設維持管理等業務請負契約を締結した会社その他の法人をいう。

(3) 統括電気主任技術者とは、電気事業法第 43 条第一項の規定により選任され、保安規程に基づき発注者の職員で自家用電気工作物の工事、維持又は運用に関する保安業務を直接統括して監督管理するものをいう。
(4) 統括電気主任技術者等とは、統括電気主任技術者及び発注者の職員で、保安規程で定める自家用電気工作物の工事、維持又は運用に従事する保安業務者をいう。
(5) 担当職員とは、契約図書に定められた範囲内において、請負者に対する指示、承諾又は打合せの職務等を行う者で、契約書第 6 条に規定する者をいう。
(6) 検査職員とは、業務の完了検査及び出来高部分に係る検査にあたって、契約書第 12 条第 3 項の規定に基づき検査を行う者をいう。
(7) 業務担当者とは、管理技術者のもとで給水施設等維持管理等業務を担当する者（主任技術者、技術者等をいう。）であって、受注者が定めた者をいう。
(8)管理主任とは、各団地の管理サービス事務所に配置され、居住者対応に関する業務及び団地の日常的巡回点検業務の実施者をいう。
(9)契約図書とは、契約書、設計図書、入札説明書、入札説明書に対する質問回答及び仕様書をいう。
(10) 契約書とは、給水施設等維持管理等業務請負契約書をいう。
(11) 仕様書とは、共通仕様書及び特記仕様書（これらにおいて明記されている適用すべき基準を含む。）を総称していう。
(12) 共通仕様書とは、共通する指示事項等を定める図書をいう。
(13) 特記仕様書とは、共通仕様書を補足し、業務の実施に関する明細又は特別な事項を定める図書をいう。
(14) 入札説明書とは、業務の入札等に参加する者に対して、発注者が当該業務の契約条件を説明するための書類をいう。
(15) 質問回答書とは、入札説明書に関する入札等参加者からの質問書に対して、発注者が回答する書面をいう。
(16) 指示とは、担当職員が請負者に対し、業務の遂行上必要な事項について実施させることをいう。
(17) 請求とは、発注者又は請負者が契約内容の履行或いは変更に関して、相手方に書面をもって行為或いは同意を求めることをいう。
(18) 通知とは、発注者若しくは担当職員が請負者に対し、又は請負者が発注者若しくは担当職員に対し、書面をもって知らせることをいう。
(19) 報告とは、請負者が担当職員に対し、業務の遂行に係わる事項について知らせることをいう。
(20) 承諾とは、請負者が担当職員に対し、書面で申し出た業務の遂行上必要な事項について担当職員が書面により、業務上の行為に同意することをいう。
(21) 質問とは、不明な点に関して書面をもって問うことをいう。
(22) 回答とは、質問に対して書面をもって答えることをいう。
(23) 協議とは、書面により契約図書の協議事項について、発注者若しくは担当職員と請負者が対等の立場で合議することをいう。
(24) 提出とは、請負者が発注者若しくは担当職員に対し、業務に係わる事項について書面又はその他の資料を説明し差し出すことをいう。
(25) 書面とは、手書き、印刷等の伝達物をいい、発行年月日を記録し、署名又は捺印したものを有効とする。
なお、緊急を要する場合は、ファクシミリ又は電子メールにより伝達できるものとするが、後日有効な書面と差し換えるものとする。
(26) 打合せとは、業務を適正かつ円滑に実施するために、担当職員及び統括電気主任技術者と管理技術者が面談により業務の方針及び条件等の疑義等の打合せをいう。
なお、必要に応じて担当職員、統括電気主任技術者及び管理技術者の承諾により、担当する主任技術者による打合せが出来ることとする。
(27) 検査とは、契約書第 12 条に基づき、検査職員が業務の完了を確認することをいう。

6 業務着手

受注者は、仕様書に定めがある場合を除き、契約締結後 14 日以内に業務に着手しなければならない。この場合において、着手とは管理技術者が業務の実施のため担当職員との打合せを行うことをいう。

7 担当職員等

(1) 発注者は、業務における担当職員を定め、受注者に通知するものとする。

(2) 担当職員は、契約図書に定められた事項の範囲内において、指示、承諾、協議等の職務を行うものとする。

(3) 保安規程に基づく、保安業に関する指示等については、統括電気主任技術者が行うものとする。

(4) 担当職員等がその権限を行使するときは、書面により行うものとする。ただし、緊急を要する場合、口頭による指示等を行った場合には、受注者はその指示等に従うものとする。担当職員等は、その指示等を行った後7日以内に書面で受注者にその内容を通知するものとする。

8 受注者

(1) 受注者は、契約図書に基づいて受注者の職員に的確に給水施設等維持管理業務を行わせなければならない。

(2) 受注者は、給水施設等維持管理業務の実施のため管理技術者及び業務担当者を定めなければならない。

(3) 業務担当者は、「各特記仕様書」に定める維持管理表等に基づき、維持管理項目、点検内容に応じ別紙3「業務区分と資格要件」欄に掲げるいずれかの資格を有する者とする。

(4) 受注者は、業務請負契約書第7条に基づき管理技術者を選任すること。

(5) 受注者は、管理技術者及び業務担当者を決定し、又は変更した場合は書面をもって、その者の氏名、年齢、職歴及び業務に関する資格を担当職員に報告しなければならない。

9 管理技術者

(1) 管理技術者は、契約図書に示された業務の適正な履行を確保するために業務担当者を指揮監督し、業務を総括掌理しなければならない。

(2) 管理技術者は、別途定める様式による「点検実施計画書」を月毎に、担当職員に提出して承諾を得なければならない。

(3) 管理技術者は、別途定める様式による「点検処理結果報告書」を月毎に、担当職員に提出して、業務処理結果状況の確認を受けなければならない。

10 適切な技術者の配置

担当職員は、必要に応じて下記に示す事項について報告を求めることができる。

① 管理技術者、主任技術者等の業務担当者の経歴・職歴

② 下請けに関する事項

11 提出書類

(1) 受注者は、発注者が指定した様式により、契約締結後に発注者の指定するものを除き関係書類を担当職員を経て、発注者に遅滞なく提出しなければならない。ただし、請負代金額に係る請求書、請求代金代理受領承諾書、遅延利息請求書、担当職員に関する措置請求に係る書類及びその他現場説明の際に指定した書類を除く。

(2) 受注者が発注者に提出する書類で様式が定められていないものは、受注者において様式を定め、提出するものとする。ただし、発注者がその様式を指示した場合は、これに従わなければならない。

12 打合せ等

(1) 業務を適正かつ円滑に実施するため、管理技術者と担当職員は業務の方針及び条件等の疑義を正

すものとし、その内容については、その都度受注者が書面（打合せ記録簿（A4 判））に記録し、相互に確認しなければならない。なお、打合せ等は、積極的に電子メール等を活用し、電子メールで確認した内容については、必要に応じて書面（打合せ記録簿（A4 判））を作成するものとする。

(2) 管理技術者は、必要に応じて担当職員と打合せを行うこと。打合せ結果について、書面（打ち合わせ記録簿（A4 判））に記録し相互に確認しなければならない。

(3) 管理技術者は、仕様書に定めのない事項について疑義が生じた場合は、速やかに担当職員と打合せを行うものとする。

13 業務計画書

受注者は、下記の項目について記載した業務計画書を作成し、業務着手時までに担当職員に提出し、承諾を得なければならない。

① 業務概要
② 業務の実施方針
③ 業務の実施工程（業務の順序及び手順）
④ 業務の実施体制
⑤ 打合せ計画
⑥ 連絡体制(緊急時含む。)
⑦ その他(業務の実施上、必要と思われる事項)

14 業務に必要な資料の取扱い

(1) 一般に広く流布されている各種基準及び参考図書等の業務の実施に必要な資料については、受注者の負担において適切に整備するものとする。

(2) 担当職員は、必要に応じて業務の実施に必要な資料を乙に貸与するものとする。

(3) 受注者は、貸与された資料の必要がなくなった場合は、直ちに担当職員に返却するものとする。

(4) 受注者は、貸与された資料を丁寧に扱い、損傷してはならない。万一、損傷した場合には、乙の責任と費用負担において修復するものとする。

(5) 受注者は、貸与された資料については、業務に関する資料の作成以外の目的で使用、複写等してはならない。

(6) 受注者は、貸与された資料を第三者に貸与、閲覧、複写、譲渡又は使用させてはならない。

15 維持管理計画書の提出

受注者は、契約が完了したときは、当該施設における修繕経歴等をとりまとめた報告書を作成し、また維持管理計画とともに担当職員に提出するものとする。

16 関係法令及び条例等の遵守

受注者は、業務の実施に当たっては、関連する関係法令及び条例等を遵守しなければならない。

17 契約変更

発注者は、必要があると認めるときは、書面をもって受注者に通知し、業務内容を変更し、又は業務の全部若しくは一部の履行を一時中止することができる。この場合において、必要があると認められるときは、履行期間若しくは請負代金額を変更し、又は必要な費用等を発注者が負担しなければならない。

18 下請負等

(1) 受注者が、第三者に委任し、又は請け負わせることはできないものは、管理技術者、主任技術者に係る業務とする。

(2) 受注者は、業務の一部を第三者に委任し、又は請け負わせる場合、書面により委任又は請け負わせる相手方との契約関係を明確にしておくとともに、その相手方に対して適切な指導、管理の下に業務を実施しなければならない。

19 自然災害への対応

受注者は、台風等の自然災害において被害の発生が確認された場合は、被害状況の確認を行い担当職員へ報告を行うとともに対応について指示を受けること。

20 鍵の管理

施設の鍵については、住宅管理センターより借用書を持って貸与を受けることが出きるものとするが、その管理については、各建物内に入る鍵については、キーボックス等を用いる等の方法により管理するとともに、当該団地外への持ち出し及び複製は不可とするとともに、受注者は責任を持って安全・確実な管理を実施すること。（キーボックスを設置せず、エリアで共通キーを作成している場合も同様とする）

なお、万一紛失した場合は、直ちに担当職員へ報告を行うとともに、担当職員の指示を受け受注者の負担において速やかな現地対応を実施すること。

21 業務の実施等

(1) 業務の事前準備

受注者は、業務の実施にあたり、発注者の管理主任等からの情報収集に努めその内容について確認を行うものとする。

(2) 業務の実施時間

受注者は、原則として発注者の就業時間内に業務を実施するものとし、月曜日～土曜日において行うものとするが、詳細は各業務特記仕様書による。

(3) 給水施設への立入り

給水施設へ立入る場合は、事前に水道法第 21 条及び同法施行規則第 16 条に規定する健康診断を受診し、適合の証明書を担当職員へ提出する。

(4) 服装等

① 管理技術者、業務担当者は、業務及び作業に適した服装並びに履物で業務を実施するものとする。

② 管理技術者、業務担当者は、団地内に立ち入る際は、腕章または名札（顔写真入り）等身分を明らかするものを着用し、言動や行動に十分注意を払うこと。また、身分証明書も携帯し、関係者から請求があった場合はそれを提示するものとする。

(5) 駐車場の利用等

駐車場は、自ら確保することを原則とし、機構敷地内の駐車場の利用及び駐車方法については、担当職員の指示による。

22 遠隔監視業務による緊急事故処理体制について

(1)各施設の停電、断水及び機器の故障情報等を通信回線、自動通報装置又は電話等により受注者が把握をし、速やかに現地において緊急対応及び修繕等復旧業務が可能な、自動通報装置等の設置及び緊急事故対応処理体制を 24 時間全日整備すること。

(2)業務開始以前より施設に設置されている自動通報装置を利用する場合は、業務開始までに別紙 4「既存自動通報装置の利用届」により届け出るものとする。

(3)施設に設置されている自動通報装置等を利用して実施する場合の仕様については、別紙 5「給水

施設自動通報装置仕様書等」、別紙６「給水施設遠隔制御システム仕様書等」による。

(4)業務開始後に、開始以前より施設に設置されている自動通報装置の故障や、発注者が行う給水施設改良工事等による施設の増加等により、新たに自動通報装置を設置した場合は、別紙７「自動通報装置の設置報告書」により報告するものとする。

(5)自動通報装置等の開発、設置及び維持に係る費用は受注者の負担とし、契約終了時には原状に復旧すること。なお、業務開始以前より施設に設置されている自動通報装置等を利用する場合についても、維持に係る費用は受注者の負担とする。

23 居住者等への周知等

受注者は、業務を実施するために対象団地内に立ち入る際は、次の事項を遵守する。

① 業務実施計画書に基づき、管理主任等に対し、業務実施日程、居住者への周知内容等を事前に連絡するものとする。

なお、掲示内容等については、発注者と協議の上、決定する。

② 受注者は、緊急事故等による停電、断水等において居住者の生活に影響を及ぼすことが確認される場合対象となる住戸にチラシ等の配布、スピーカー等による広報を実施し確実な周知を行うこと。

24 業務結果の報告等

受注者は、次のとおり業務結果の報告等を行うものとする。

① 受注者は、下記の②から⑤を除く業務結果については、発注者の指定する様式に整理し、原則として、月毎に発注者へ推定される劣化状況等の要因を併せて報告するものとする。

② 業務結果のうち、安全性上、緊急性が高いものについては、速やかに担当職員へ報告する。

③ 受注者は、発注者が契約上必要として提出を求める書類及び発注者が点検結果の一部を必要として提出を求める場合は速やかに提出しなければならない。

④ 受注者は、法定点検の業務結果については、法の定めによる時期及び様式に整理し、発注者へ報告するものする。また、特定行政庁への報告も行うこととする。

⑤ 受注者は、緊急点検の業務結果については、発注者の指示するところにより、発注者へ報告するものとする。

⑥ ①～⑤までの提出資料等は、できる限りA4サイズとし、原則としてファイルに綴じて2部提出するものとする。また、提出資料等のデータについては、発注者の指定するファイル型式によりＣＤ等へ保存し1部提出するものとする。

25 資料の貸与等

発注者は、必要に応じ以下の資料について請負者に貸与するものとする。

① 資料名

イ 対象団地の団地概要図（住所、配置等）

ロ 対象団地における駐車場配置図

ハ 給水施設関連資料（給水施設一覧表、システムフロー図）

ニ 汚水処理施設関連資料（汚水処理施設一覧表、システムフロー図）

ホ 自家用電気工作物台帳

② 貸与場所

独立行政法人都市再生機構　九州支社住宅経営部

26 技術者の兼務について

各管理技術者、主任技術者の業務担当者については、別表3「業務区分と資格要件」における資格を有する者にあっては、兼任することができるものとする。

27 契約終了に伴う業務引継ぎ

契約の終了にあっては、発注者の指定する新たな業務受注者への業務引継ぎを実施するものとする。また、業務引継ぎの終了後、発注者が必要と認めて問い合わせたときは、これに協力するものとする。

28 疑義等

受注者は、仕様書に疑義を生じた事項については、担当職員と協議するものとする。

29 その他

(1) 施設の外観、フェンス、扉及び施錠等について異常のないことを確認する。

(2) 施設内の清掃と敷地内の清掃等を行うこと。

(3) 施設内の電力量検針、水道量検針、メータ取替及び工事等に伴う鍵開けを行う。

(4) 施設内の消防点検等や調査、図面作成のため施設立会いを行う。

(5) 緊急の機器調査については必要な資料を作成報告する。

(6) 施設内にある給水施設、エレベータ、集会所、駐車場等の電力量計（子メーター）を検針し、報告すること。ただし、施設外で発注者が指示する電力量計の検針及び報告をする場合は、発注者と協議の上、別途請求できるものとする。

(7) 業務の引継ぎは、担当職員の指示に従うこと。

(8) 発注者の指示により点検業務等以外での施設での立会いが必要な場合また、就業時間外での立会い、作業等が発生した場合の費用は別途精算する。

(9) 発注者が行う修繕工事において、発注者の指示がある場合は、立会い、作業等を行うものとし、その費用は別途精算する。

以　上

■別紙1　九州支社　給水施設維持管理等対象団地等一覧表

別紙1

グループ	施設名称	所在地	管理開始年度（年）※和暦	給水戸数（戸）			給水施設	汚水処理施設	自家用電気工作物					区分	警報		特記事項
				計（戸）	賃貸住宅（戸）	それ以外			給水施設	汚水処理施設	共用	施設	発電設備		種別	設置年度	
	黒原	北九州市小倉北区熊本四丁目1-5	40	140	140		○							簡易専用	L3	12	
	徳力	北九州市小倉南区徳力団地	41	2,405	2,325	80	○		○					専用水道	L2	9	
	志徳	北九州市小倉南区志徳一丁目1	46	984	984		○							専用水道	L2	14	
			57	226	226		○							専用水道	L2	11	
	もりつね	北九州市小倉南区守恒三丁目1	56	330	330		○							専用水道	L2	9	
			59	224	60	164	○							簡易専用	L2	8	
	アーベインルネス片野	北九州市小倉北区片野三丁目15	8	218	218		○							簡易専用	L2N	18	
			12	42	42		○							直結増圧	L3	12	
	アーベインルネス足立	北九州市小倉北区足立三丁目1	12	85	85		○							直結増圧	L3	12	
	アーベインルネス足立公園	北九州市小倉北区足立二丁目5	14	45	45		○							直結増圧	L3	14	
	アーベインルネス足立妙見通り	北九州市小倉北区足原一丁目7-2	16	45	45		○							直結増圧	L3	16	
	大谷	北九州市戸畑区菅原四丁目1	31	256	256		○							簡易専用	L3	14	
	天神町	北九州市戸畑区天神二丁目9-8	35	47	47		○							直結増圧	L3	12	
	沢見	北九州市戸畑区天神一丁目12-3	36	44	44		○							直結増圧	L3	12	
	原町	北九州市若松区原町12-111	37	60	60		○							簡易専用	L3	12	
	西中央	北九州市八幡東区中央二丁目15-2	37	104	104		○							簡易専用	L3	12	
	萩原	北九州市八幡西区萩原二丁目10-1	38	430	430		○							簡易専用	L2N	17	
	引野	北九州市八幡西区相生町2-2	39	33	33		○							直結増圧	L3	12	
	梅ノ木	遠賀郡水巻町梅ノ木団地	51	1,080	880	200	○							専用水道	L2N	15	
	本城西	北九州市八幡西区光貞台一丁目1	52	82	82		○							簡易専用	L2N	16	
			53	171	171		○							簡易専用	L2N	20	
	紅梅	北九州市八幡西区紅梅二丁目9	54	161	161		○							小規模	L2	16	
			54	143	143		○							小規模	L2	16	
	小鷺田公園	北九州市八幡西区小鷺田町5	54	106	106		○							直結増圧	L3	26	
	枝光	北九州市八幡東区枝光四丁目14-11	55	40	40		○							簡易専用	L2	12	
			56	80	80		○							簡易専用	L2	12	
	サンハイツ枝光	北九州市八幡東区枝光四丁目9	57	95	95		○							簡易専用	L2N	20	
	サンハイツ前田	北九州市八幡東区前田一丁目11	59	210	210		○							簡易専用	L2N	16	
	沖台二丁目	北九州市戸畑区沖台二丁目16	59	100	100		○							簡易専用	L3	12	
			59	60	60		○							簡易専用	L3	12	
	黒崎平尾町	北九州市八幡西区平尾町9	60	160	160		○							簡易専用	L2N	12	
	ルネス相生町	北九州市八幡西区相生町13-31	6	30	30		○							直結増圧	L3	12	
	アーベインルネス穴生(穴生団地含む)	北九州市八幡西区萩原一丁目11	11	83	83		○							簡易専用	L3	12	
			9	81	81		○							簡易専用	L3	12	
	槻田	北九州市小倉北区上到津四丁目24-2	31	176	64	112	○							簡易専用	L3	12	
	清滝第二	北九州市門司区清滝三丁目5-5	46	60	60		○							簡易専用	L3	12	
	昭和町	北九州市小倉北区昭和町14-20	47	176	176		○							直結増圧	L3	12	
	金田一丁目	北九州市小倉北区金田一丁目1	48	581	581		○				○		○	専用水道	L2N	18	
			50	162	162		○							簡易専用	L2	7	
	東門司一丁目	北九州市門司区東門司一丁目13-17	48	88	88		○							小規模	L3	12	
	大手町	北九州市小倉北区大手町7-38	51	54	54		○							小規模	L3	12	
	金鶏	北九州市小倉北区金鶏町8	52	128	128		○							簡易専用	L3	12	
	白銀一丁目	北九州市小倉北区白銀一丁目3-5	53	60	60		○							直結増圧	L3	12	
	金田一丁目第2	北九州市小倉北区金田一丁目1	55	272	272		○							専用水道	L2N	15	
	栄町	北九州市門司区栄町3-13	55	99	99		○							直結増圧	L2	12	
	黄金二丁目	北九州市小倉北区黄金二丁目9-3	56	104	104		○							直結増圧	L2	11	
	到津南	北九州市小倉北区泉台三丁目3	59	45	45		○							簡易専用	L3	12	
			60	140	140		○							簡易専用	L3	12	
	パークタウン大手町	北九州市小倉北区大手町16	63	158	158		○							簡易専用	L3	12	
	アーベイン大手町	北九州市小倉北区大手町16	5	178	178		○							簡易専用	L2N	12	
	アーベインルネス白銀	北九州市小倉北区白銀二丁目11	11	169	169		○							簡易専用	L2N	12	
			16	42	42		○							直結増圧	L3	16	
	アーベインルネス大門	北九州市小倉北区大門一丁目1-1	19	78	78		○							直結増圧	L3	19	
	南大坪	下関市南大坪町1-3	41	88	88		○							簡易専用	L3	12	
	周陽二丁目	周南市周陽二丁目1	50	350	350		○							専用水道	L2N	15	
	新下関	下関市秋根新町5	53	795	795		○				○		○	専用水道	L2N	15	

別紙２

小修理工事に関する実施要領

給水施設等維持管理業務共通仕様書における対象団地の小修理工事については、本「小修理工事に関する実施要領」により実施するものとする。

（総則）

第1条　受注者は、この実施要領に従い、給水施設維持管理等業務を実施する施設等（給水施設、汚水処理施設及び電気事業法による自家用電気工作物（住棟内ＬＡＮ設備、昇降機設備を除く）の小修理工事について、発注者の注文を受けたときはこれに応ずるものとする。

２　受注者は、小修理工事の施工に当たっては、迅速、確実及び誠実を旨とする。また、住宅等の賃借人、譲受人及びそれらの同居人（以下「賃借人等」という。）に、対する言動に十分注意を払うものとする。

（工事の発注）

第2条　発注者は、小修理工事の発注を行うときは、発注者の定める工事発注通知書を、受注者に交付するものとする。

２　発注者が別に定める小修理工事については、前項の規定にかかわらず、発注者は、発注者の定める補修等施工依頼通知書を、受注者に交付することにより発注することができるものとする。この場合において、発注者は、事後速やかに、工事発注通知書を受注者に交付するものとする。

３　緊急を要する小修理工事については、第１項の規定にかかわらず、発注者は、受注者に電話その他の手続により口頭で発注することができるものとする。この場合において、発注者は、事後速やかに、補修等施工依頼通知書及び工事発注通知書（以下「発注通知書等」という。）を受注者に交付するものとする。

（工期、施工等）

第3条　受注者は、発注者から発注通知書等の交付を受けたときは、発注通知書等に記載され内容に基づき、指定された工期内に小修理工事を施工し、これを完成させるものとする。

２　受注者は、受注者の責に帰すことができない理由又は正当な理由により、指定された工期内に小規模修繕を施工し、これを完成させることができないときは、工期の変更について、あらかじめ、発注者の承諾を得るものとする。

（監督員）

第4条　発注者は、必要に応じ、監督員を定めるものとし、監督員を定めたときは、当該監督員の氏名等を受注者に通知するものとする。

２　監督員は、この協定に基づく発注者の権限とされる事項のうち、発注者が必要と認めて監督員に委任したもの、小修理工事の履行についての受注者に対する指示、承諾又は協議に基づく工程の管理、立会い、施工の状況の検査又は工事材料の試験若しくは検査に関する権限を有するものとする。

（施工の注意）

第5条　受注者は、小修理工事の施工に際し、住宅等及び賃借人等の財産のき損防止並びに賃借人等及び第三者に対する危険防止に十分注意しなければならない。

２　受注者は、小修理工事使用材料の仕様その他小修理工事の施工に関して設計図書において明らかでない事項については、監督員の指示を受けるものとし、この実施要領において、監督員の立会い、指示又は検査を受けるものと指定されたものについては、当該立会い、指示又は検査を受けて施工しなければならない。

（検査及び引渡し）

第6条　受注者は、小修理工事が完成したときは、甲の定める工事完了届により、発注者にその旨を通知するものとする。

２　発注者は、前項の通知を受けた日から起算して、14日以内に、受注者の立会いの上、小修理工事の完成を確認するための検査を完了しなければならない。

３　受注者は、前項の検査の結果、発注者から修補又は改造を命ぜられたときは、遅滞なく修補又は改造を行い、発注者の再検査を受けなければならない。

４　小修理工事の目的物は、第２項の検査又は前項の再検査の結果、合格と認められたときをもって、受注者から発注者に引き渡されたものとする。

（請負代金の決定）

第7条　この実施要領に基づく小修理工事の請負代金（以下「請負代金」という。）は、原則として、見積合せにより決定する。

（請負代金の支払）

第8条　受注者は、第6条第２項の検査又は同条第３項の再検査に合格したときは、当該小修理工事に係る請負代金について、発注者の定める請負代金支払請求書（以下「請負代金支払請求書」という。）を発注者に提出するものとする。

２　発注者は、受注者から請負代金支払請求書を受領した日から起算して、40日以内に、当該請負代金を、発注者の定める方法により、受注者に支払うものとする。

（かし担保）

第9条　小修理工事目的物にかしがあるときは、発注者は、受注者に対して相当の期間を定めてそのかしの修補を請求し、又は修補に代え若しくは修補とともに損害の賠償を請求することができる。ただし、かしが重要ではなく、かつ、その修補に過分の費用を要するときは、発注者は、修補を請求することができない。

２　前項の規定によるかしの修補又は損害賠償の請求は、第6条第４項の規定による引渡しを受けた日から、次の各号に定める期間にこれを行わなければならない。ただし、そのかしが受注者の故意又は重大な過失により生じた場合には、当該請求をすることのできる期間は、10年とする。

一　　設備工事等の場合　２年

３　発注者は、小修理工事目的物の引渡しの際にかしがあることを知ったときは、第１項の規

定にかかわらず、遅滞なく、書面をもってその旨を受注者に通知しなければ、当該かしの修補又は損害賠償の請求をすることはできない。ただし、受注者がそのかしがあることを知っていたときは、この限りでない。

４　小修理工事の目的物が第１項のかしにより滅失し、又はき損したときは、発注者は、第２項に規定する期間内で、かつ、その滅失又はき損の日から６月以内に第１項の権利を行使しなければならない。

５　第１項の規定は、小修理工事の目的物のかしが、発注者若しくは監督員の指図により生じたものであるときは、これを適用しない。ただし、受注者がその材料又は指図の不適当であることを知りながらこれを発注者に通知しなかったときは、この限りでない。

（損害賠償）

第10条　受注者は、小修理工事の施工により、発注者又は賃借人等に損害を及ぼしたときは、賠償の責を負うものとする。ただし、この損害が発注者の責めに帰すべき理由によるものと認められる場合には、この限りでない。

（その他）

第11条　この要領に定めのない事項又は、疑義を生じた事項については、発注者及び受注者が協議して定めるものとする。

以　上

業務区分と資格要件（給水施設）

別紙 3-1

	点検区分	業務区分	業務内容	資格要件
管理技術者		・施設の総合的な維持管理業務 ・維持管理計画の立案 ・維持管理に関する連絡・報告	・巡回計画書の提出 ・維持管理に関する連絡・報告 ・設備機器類の修繕提案 ・水質検査、健康診断の報告	（機械） ・建築物環境衛生管理技術者 （電気） ・電気主任技術者
主任技術者	（専用・簡易専用給水施設） ・1ヶ月点検（11 回/年） ・1 年点検 （小規模給水施設） ・1 年点検 （直結増圧給水ポンプユニット） ・1 年点検	・維持管理計画の立案 ・維持管理表による巡回点検 ・維持管理に関する高度な技術を要する業務 ・公的機関の立入り検査の立会い ・緊急事故処理業務	・巡回計画書の作成 ・維持管理表による 1ヶ月、1 年点検 ・設備機器類の点検・診断 ・設備機器類の保守・調整	（機械） 以下のいずれかの資格を有する者 ・左記の業務について、実務経験 5 年以上 ・建築物環境衛生管理技術者の資格を有し、実務経験 3 年以上 ・給水装置工事主任技術者の資格を有し、実務経験 3 年以上 （電気） 以下のいずれかの資格を有する者 ・左記の業務について、実務経験 5 年以上 ・1 級電気工事施工管理技士の資格を有し、実務経験 3 年以上 ・電気主任技術者の資格を有し、実務経験 3 年以上
技術者	（専用・簡易専用給水施設） ・日常点検（3 回/月以上） （小規模給水施設） ・1ヶ月点検（11 回/年） （直結増圧給水ポンプユニット） ・3ヶ月点検（3 回/年）	・維持管理表による日常点検 ・緊急事故処理業務 ・主任技術者業務の補助	・維持管理表による巡回点検 ・設備機器類の運転管理 ・設備機器類の保守、軽微な調整 ・定期の水質検査の採水、運搬 ・巡回時の水質検査 ・管理結果の 1ヶ月、1 年報告記録	以下のいずれかの資格を有する者 ・左記の業務について、実務経験 3 年以上 ・建築物環境衛生管理技術者 ・給水装置工事主任技術者 ・建築設備検査員 ・管工事施工管理技士 ・電気工事施工管理技士 ・第 1・2 種電気工事士 ※但し、電気工事士法に係る作業については、第 1 ・2 種電気工事士の資格者のみとする。
技術員		・維持管理表による日常点検	・技術者が実施する点検補助 ・管理結果の日報記録 ・日例の水質検査	

別紙 3-3

業務区分と資格要件（貯水槽清掃業務）

	業務区分	業務内容	資格要件
管理技術者	・維持管理計画の立案 ・維持管理に関する連絡・報告	・清掃計画書の提出 ・維持管理に関する連絡・報告 ・設備機器類の修繕提案	（機械） 【給水施設と兼ねる】
主任技術者	・維持管理計画の立案 ・健康診断に関する確認 ・清掃業務に関する高度な技術を要する業務 ・緊急事故処理業務	・清掃計画書の作成 ・健康診断の確認	（機械） 【給水施設と兼ねる】
技術者	・貯水槽清掃作業に係る全般的業務 ・緊急事故処理業務	・貯水槽清掃業務 ・設備機器類の点検・診断 ・設備機器類の保守・調整 ・清掃後の水質検査	（機械） ・貯水槽清掃作業監督者
作業員	・貯水槽清掃作業	・作業責任者の指示を受けた清掃作業	

別紙 3-4

業務区分と資格要件（自家用電気工作物）

	点検区分	業務区分	業務内容	資格要件
管理技術者		・施設の総合的な維持管理業務 ・維持管理計画、点検順序の方針決定 ・維持管理に関する連絡・報告・調整 ・精密点検業務の実施計画の立案等 ・主任技術者、技術者、技術員への指導・教育	・点検等業務計画書の提出 ・維持管理に関する連絡・報告・報告内容の照査 ・設備機器類の修繕提案 ・精密点検業務日程、工程、実施体制等の作成 ・他業務等の業者との協議・調整（精密点検）	（電気） ・電気主任技術者
主任技術者	・月次点検（1回/月） ・年次点検（1回/年）	・維持管理計画、点検順序の立案 ・維持管理表による月次、年次点検 ・維持管理に関する高度な技術を要する業務 ・公的機関の立入り検査の立会 ・緊急事故処理業務 ・管理技術者業務の補助作業 ・消防法に基づく非常用発電設備の点検	・点検計画書、点検手順書の作成 ・設備機器類の点検・診断 ・設備機器類の保守・調整 ・他業務等の業者との協議・調整（維持管理業務）	（電気） 以下の資格を有し、実務経験3年以上 ・電気主任技術者
技術者	・日常巡視点検等 （3回/月以上）	・維持管理表による日常巡視点検等 ・緊急事故処理業務 ・主任技術者業務の補助	・維持管理表による日常巡視点検等 ・設備機器類の運転管理 ・設備機器類の保守、軽微な調整 ・管理結果の月次、年次報告の記録	（電気　受変電設備） 以下の資格を有し、実務経験3年以上 ・第1種電気工事士 （電気　発電設備） 以下のいずれかで実務経験3年以上 ・特種電気工事士（非常用予備発電装置工事） ・自家用発電設備専門技術者
技術員		・維持管理表による日常巡視点検等 ・技術者業務の補助	・技術者が実施する点検補助 ・管理結果の日報記録	

別紙 3－5

業務区分と資格要件（自家用電気工作物精密点検業務）

	業務区分	資格要件
管理技術者	・実施計画(日程、工程、体制)の立案 ・連絡･報告(業務の開始の連絡) ・現地指導・確認(業務開始の指示、停電・復電の指示) ・報告書での判断(判定)業務	・電気主任技術者
主任技術者	(受変電設備) (1) 高圧受電設備及び高圧配電設備の精密点検手入れ及び測定の指導確認 (2) 報告書での判断(判定)業務 (発電設備) (1) 高圧非常用予備発電設備、非常用予備発電設備及び発電設備の精密点検手入れ及び測定の指導確認 (2) 報告書での判断(判定)業務	(受変電設備) いずれか資格要件があるもの ・左記の業務について高度な技術力及び判断力並びに作業の指導等の総合的な技能を有し、実務経験 5 年以上 ・電気主任技術者で実務経験 3 年以上 (発電設備) いずれか資格要件があるもの ・左記の業務について高度な技術力及び判断力並びに作業の指導等の総合的な技能を有し、実務経験 5 年以上 ・電気主任技術者で実務経験 3 年以上
技術者	(受変電設備) (1) 高圧受電設備及び高圧配電設備及びその他の設備の精密点検手入れ及び測定の実施 (発電設備) (1) 高圧非常用予備発電設備、非常用予備発電設備及び発電設備の精密点検手入れ及び測定の実施	(受変電設備) いずれか資格要件があるもの ・左記の業務について作業の内容判断が出来る技術を有し、実務経験 5 年以上 ・第 1 種電気工事士で実務経験 3 年以上 (発電設備) いずれか資格要件があるもの ・左記の業務について作業の内容判断が出来る技術を有し、実務経験 5 年以上 ・特種電気工事士（非常用予備発電装置工事）で実務経験 3 年以上 ・自家用発電設備専門技術者で実務経験 3 年以上
技術員	(受変電設備) (1) 高圧受電設備、高圧配電設備及びその他の設備の精密点検手入れ及び測定に関する軽作業の実施 (発電設備) (1) 高圧非常用予備発電設備、非常用予備発電設備及び発電設備の精密点検手入れ及び測定に関する軽作業の実施	(受変電設備) いずれか資格要件があるもの ・左記の業務について技師又は技師補の指示に従って作業を行う能力を有し、実務経験 3 年以上 ・第 1 種電気工事士 (発電設備) いずれか資格要件があるもの ・左記の業務について技師又は技師補の指示に従って作業を行う能力を有し、実務経験 3 年以上 ・特種電気工事士（非常用予備発電装置工事） ・自家用発電設備専門技術者

別紙-４

既存自動通報装置の利用届

独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まいセンター
　センター長　　殿

（受託者）

下記の施設に設置されている自動通報装置を利用することを届け出ます。

記

施設名称	給水施設設置住棟番号	自動通報装置種別	備考

以　上

別　紙　5

給水施設自動通報装置仕様書等

1　自動通報装置等の種類

各施設に設置されている自動通報装置等の種類は、以下のとおり。

①遠隔制御機能付の自動通報システム

異常警報の受付以外に給水施設の機器の監視、計測し、運転状況履歴管理及び専用ソフトにより遠隔制御を行えるシステム。

②データ伝送方式の自動通報システム

異常警報を受け、警報音とデータベースと照合し、モニターに施設名称や警報内容を表示するシステム。

③音声式自動通報システム

異常警報を電話により受付け、自動通報装置は予め登録した内容を自動再生するシステム。

④常時監視を行っている中央監視室、防災センター等がある団地

大規模な団地や超高層住棟で常時、監視を行っている場合には、監視員から各施設担当者へ電話等により連絡する方式

⑤小規模な団地での連絡員による連絡

小規模な住棟（市街地）で入居されているお客様と契約し、連絡する方式

3　各自動通報装置の仕様

1）遠隔制御機能付き自動通報システム(詳細は、「給水施設遠隔制御システム仕様書等」による)

（1）遠隔制御端末装置

遠隔制御端末装置の規格は下記による。

ａ．通信に関する仕様

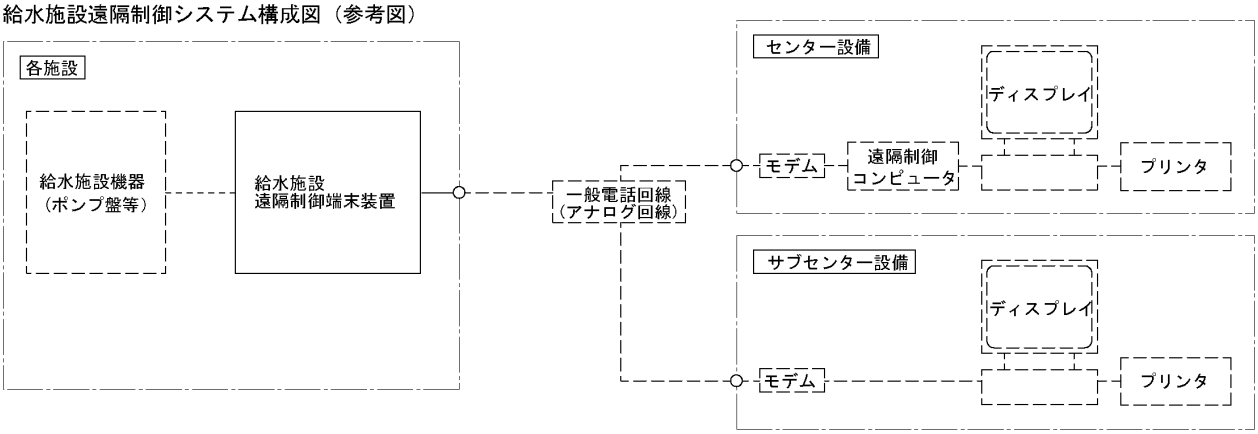
(1) 適用回線	一般電話回線（アナログ回線）
(2) 選択信号形式	パルスダイヤル（10／20pps）、トーンダイヤル
(3) ダイヤル桁数	最大 12 桁
(4) 網制御	AA 形（自動発着信）
(5) 同期方式	調歩同期式（非同期式）
(6) 通信速度	56000bps
(7) 通信規格	V. 90／K56flex
(8) 通報先	最大 3 箇所
(9) 通信レベル	－10dBm～－16dBm
(10) 適用規格	端末設備等技術基準による

ｂ　一般事項

(1) デジタル入力	警報入力・監視入力、最大 48 点
(2) パルス入力	デジタル入力のうち、最大 6 点をパルス積算
(3) アナログ入力	最大 16 点（DC4～20mA）
(4) デジタル出力	制御機能（8 項目）

(5) 運転時間積算	デジタル入力のうち、最大 12 点の運転時間、運転回数の積算
(6) 流量積算	アナログ入力のうち、最大 4 量の積算
(7) データの蓄積	1 時間毎のデータを 4 日分メモリ内に蓄積
(8) データの送信	センター装置からの呼出による伝送
(9) 警報の発信	警報及び指定したデジタル入力の変化により、端末側から発信
(10) 被呼者不応答	通報先（最大 3 箇所）にリトライする
に対する機能	（一定時間経過後 3 回まで通報動作を繰り返す）
(11) 入力検知時間	1 秒～300 秒の間で設定可能
(12) 試験方法	デジタル入力、デジタル出力の ON・OFF を LED ランプで表示
(13) 塩素ガス対策	プリント基板全体にワニスコーティング処理
(14) 電源ノイズ対策	電源ノイズ 1500V に耐えうること
(15) 雷対策	バリスターとアレスタを AC100V の入力部に設置
(16) 入力電源	AC100V　50Hz／60Hz
(17) 予備電源	リチウム電池（メモリ保護）
(18) 停電通報	一般回線用送信装置：ニッカド電池による
(19) 構造	ユニット構造
(20) 操作画面	カラー液晶タッチパネル（5．7 インチ）

給水施設遠隔制御システム構成図（参考図）



2）データー伝送方式による自動通報システム

（詳細は、「給水施設遠隔制御システム仕様書等」による）

基本仕様

[I]　概要

電話回線に接続し、非常（警報発生）の際に、あらかじめ設定した所定の通報先に、事故発生の情報（メッセージ）を自動的に通報する。

[Ⅱ]　自動通報装置

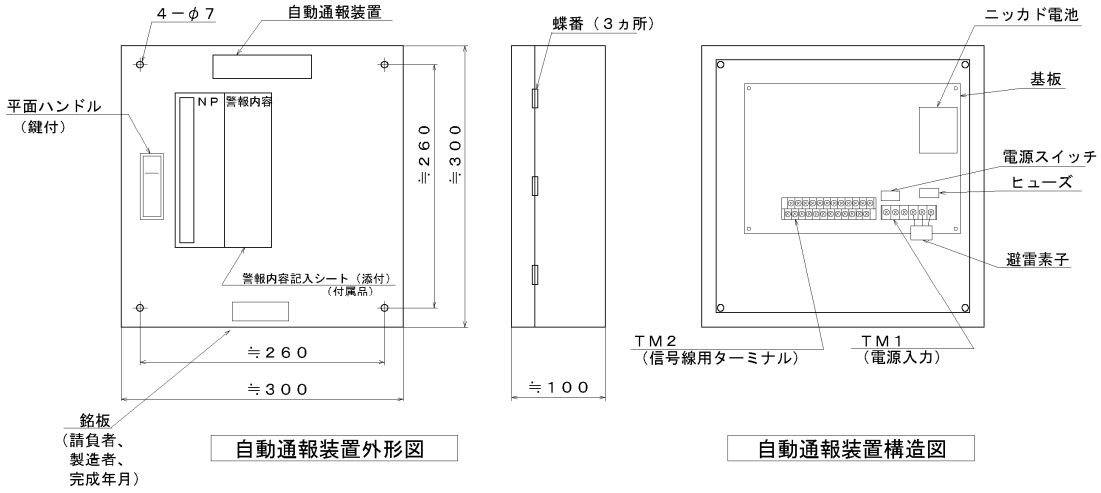
自動通報装置の規格は下記による

ａ　通信に関する仕様

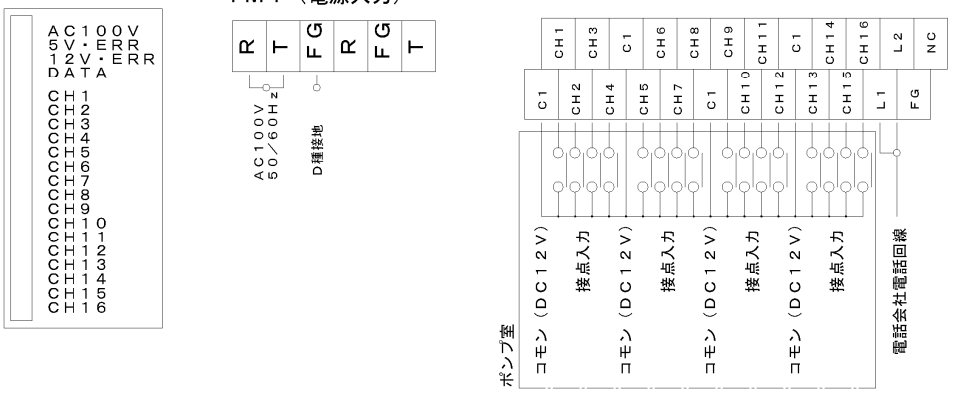
(1) 適用回線	一般電話回線（アナログ回線）
(2) 選択信号形式	パルスダイヤル（10／20pps）、トーンダイヤル
(3) ダイヤル桁数	最大 12 桁
(4) 網制御	AA 形／AM 形（自動発信）
(5) 同期方式	調歩同期式（非同期式）
(6) 通信速度	300bps
(7) 通信方式	半二重
(8) 通信規格	V. 90／K56flex
(9) 通報先	最大 3 個所
(10) 通信レベル	－10dBm～－16dBm
(11) 適用規格	端末設備等技術基準による
(12) 変調方式	FSK

ｂ　一般事項

(1) 警報点数	16 点（動作表示有）（各センサー毎に復旧信号を発報可）
(2) 複数及び同時入力	全入力情報を同時に送信可能
(3) 局線話中検出	当該局線が話中の場合、切り換えにより、（イ）、（ロ）の動作が可能 （イ）警報発生を知らせる信号を通話者に送り、1 分後に強制切断する （ロ）話中解除まで待機し、解除後に一連の動作を行う
(4) 被呼者不応答に対する機能	通報先（最大 3 個所）にリトライする （一定時間経過後 3 回まで通報動作を繰り返す）
(5) 定時通報機能	毎月又は隔月に 1 回指定時刻に通報する機能があること
(6) 送出メッセージ	受信装置の CRT 画面に定められたメッセージの表示及び印字出力すること
(7) 入力検知時間	1 秒～300 秒の間で設定可能なこと
(8) 試験	各センサー毎の試験が容易に可能なこと
(9) 塩素ガス対策	プリント基板全体にワニスコーティング処理を施すこと
(10) 電源ノイズ性	電源ノイズ 1500V に耐えうること
(11) 雷対策	バリスターとアレスタを AC100V の入力部に設置
(12) 入力電源	AC100V、50/60Hz
(13) 予備電源	リチウム電池（メモリ保護）
(14) 停電通報	一般回線用送信装置：ニッカド電池による
(15) 使用温度範囲	0～40℃



自動通報装置外形図　　自動通報装置構造図



３）　音声式自動通報システム

電話回線によりあらかじめ記憶されている警報内容を指定された場所へ通報するもの

株式会社　大興電機製作所　ＳＤＥ－８０１　　通報する情報　８種類

ａ　規格及び基本機能

1）使用周囲温度　　－5℃～＋40℃

2）入力電源　　AC100V50Hz／60Hz

3）予備電源　　12 時間の停電に於て、2 回の通報が可能な容量を有すること。

4）試験　　容易に各種試験が行なえる構造であること。

5）送出メッセージ数　　2，4，6，8 種類

6）複数及び同時入力に対する機能　全入力情報処理が可能なこと。

7）入力検知時間　　300ms～20M のポイントのいずれかに設定できること。

8）局線話中検出　　当該局線が話中の場合は、話中解除まで待機し、解除後一連の動作が行なえること。

9）被呼者不応答に対する機能　　ダイヤル信号送出後、一定の時間を経過しても被呼者側が応答しない場合、いったん局線を本機から本電話機側に戻し、一定時間休止状態とした後、自動的に通報に係る一連の動作を行なう機能を有すること。

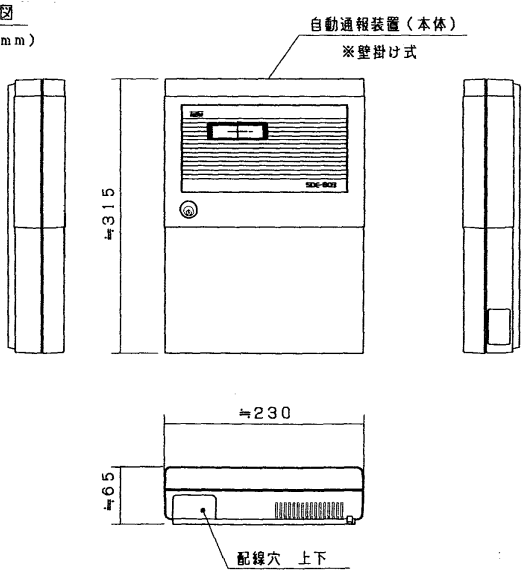
10）送出メッセージ　　送出メッセージの内容は検知入力信号により選択され、あら

かじめ録音された音声合成メッセージにより送出するものとする。

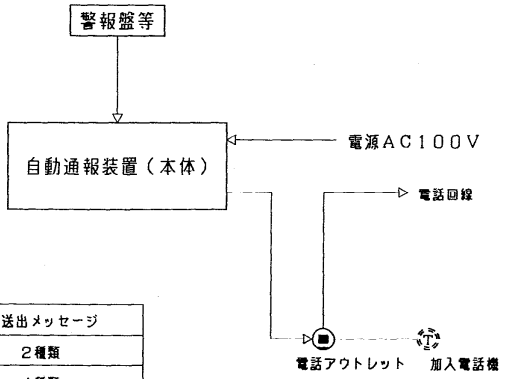
b　認定等　　日本電信電話（抹）の定める技術基準に適合し、その認定を受けたものとする。

参考外観図

単位（mm）



システム基本系統図（例）



記号	送出メッセージ
（イ）	２種類
（ロ）	４種類
（ハ）	６種類
（ニ）	８種類

別　紙　6

給水施設遠隔制御システム仕様書等

目　次

１．給水施設遠隔制御システムの装置構成 2
　１－１．各装置の機能 2
２．給水施設遠隔制御システム構成図 3
３．給水施設遠隔制御システム端末装置の仕様 4
　３－１．基本機能説明 4
　３－２．遠隔制御端末装置　仕様 4
　３－３．自動通報装置　仕様 6
　３－４．製品寸法図 7
　３－５．遠隔制御端末装置　通信仕様書 9
　３－６．自動通報装置　通信仕様書 34

１　給水施設遠隔制御システムの装置構成

１－１　各装置の機能

(1) 遠隔制御端末装置

警報項目（警報信号)・監視項目（機器等運転信号、電源表示)・計測項目（機器等運転電流、水位等)・制御項目（流入弁強制運転、ポンプ強制運転等）の 4 項目の入出力ができるような構成となっている。

［機能］

① 各計測器からのデータを時間単位で処理し、データの蓄積は 4 日分行い、システムからの呼出しに応じてデータを転送する。

② 事故時には警報信号をシステムに発報する。

③ システムからの操作により機器の制御を行う。

(2) 自動通報装置

警報項目（警報信号）の 1 項目の入力ができるような構成となっている。

［機能］

① 事故時には警報信号をシステムに発報する。

② 定期通信（毎月又は隔月）を行う。

(3) システム構成

パソコン・ディスプレー及び、プリンターとモデム等通信用機器で構成されている。

［機能］

① 施設を指定すると自動的に施設（端末装置）を呼出し、現在の運転状態及び、各種機器の計測値を画面上にグラフィック表示する。

② 計測データは、画面上でグラフ及び、一覧表（日報・月報・年報）として表示する。

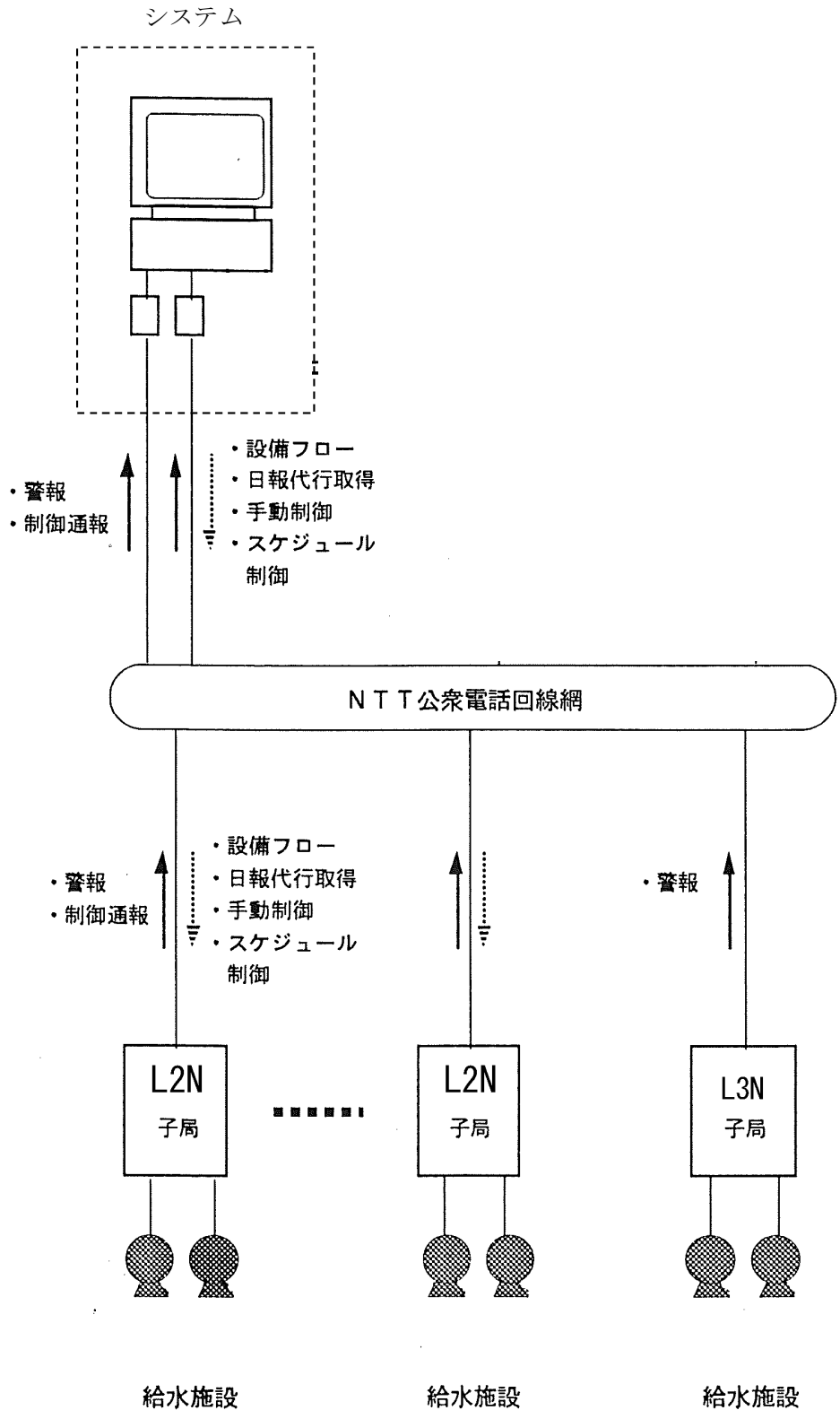
③ 平日昼間の事故時等にシステムから信号を送ることにより、機器の運転を制御する。
（スケジュール制御：あらかじめ定められた時間に制御することもできる）

④ 端末装置に蓄積された各種計測データを 1 日 1 回、自動的に端末装置へ呼びに行き、そのデータを蓄積する。

⑤ 蓄積したデータから日報等を打ち出す。

2　給水施設遠隔制御システム構成図

遠隔制御端末装置が使用される給水遠隔制御システムの全体構成を下図に示す。



３．給水施設遠隔制御システム端末装置の仕様

３－１．基本機能説明

1）デジタル入力（警報・監視）とは、

警報・監視（動力電源表示、ポンプ等運転表示等）する項目で、無電圧のａ接点を入力する。

ａ接点（接）でシステムフロー画面上で各機器等が赤色表示し、ａ接点（断）で緑色表示する。尚、ポンプ故障の警報は、ポンプ運転表示の次（すぐ後）に入力する。

（システムのフロー画面上でポンプのシンボルが運転（赤色）・停止（緑色）・故障（橙色）の表示をするため）

また、デジタル入力モジュール（ユニット）は最大で 2 モジュールとなり、1 モジュールをポンプ等の運転時間、運転回数の積算処理（最大 12 点）指定ができ、2 枚目のモジュールをパルス入力（最大 6 点）し、積算処理指定（積算電力量・送水流量積算）可能である。

但し、各々の積算処理指定を同一のモジュール内で混在する事はできない。

2）アナログ入力（計測）とは、

アナログ入力できる信号は、DC4～20mA に限る。

ポンプの運転電流・受水槽水位・送水圧力等、電流変換器・アイソレータ（直流入力変換器）等を介して入力する。

また、アナログ入力のうち最大 3 点を積算電力量等の積算処理指定することができる。

3）デジタル出力（制御）とは、

受水槽への流入弁（電磁・電動弁等）及び、ポンプ等をシステムより強制制御する項目で端末装置から AC100V が出力される。

動力制御盤等に、AC100V プラグインリレーを設けて、その接点を強制制御を行う回路に使用する。

３－２．遠隔制御端末装置　仕様

［規格及び基本機能］

１）デジタル入力	標準３２点（ＡＣ１００Ｖ、動作表示有）
２）パルス入力	デジタル入力のうち最大６点をパルス入力として指定可能なこと。
３）アナログ入力	８点（ＤＣ４～２０ｍＡ）共通コモン
４）デジタル出力	８点（ＡＣ１００Ｖ）リレー出力
５）外部増設入出力ユニット	デジタル入力×１６点、アナログ入力かける８点（オプション設定）
６）運転時間積算	デジタル入力のうち最大１２点を運転時間の積算処理に指定可能なこと。
７）流量積算	アナログ入力のうち最大４量を積算処理可能なこと。
８）データ蓄積	１時間毎のデータを最大４日分蓄積すること。
９）データの伝送	システムからの呼び出しによる伝送、定時に伝送すること。
10）警報の発信	警報と指定したデジタル入力の変化を端末側から発信すること。
11）通報先	最大３ヶ所
12）被呼者不応答	通報先（最大３ヶ所）へのリトライ機能を有すること。 に対する機能
13）入力見地時間	１～３００秒の範囲で監視、警報別に指定可能なこと。

14）ダイヤル桁数	最大１２桁
15）適用回線	ＮＴＴ電話回線（アナログ回線）
16）選択信号形式	パルスダイヤル（１０／２０ｐｐｓ）、トーンダイヤル（ＰＢ）
17）網制御	ＡＡ形（自動発信／自動着信）
18）通信速度	受信：最大 56,000bps、送信：最大 33,600bps
19）通信規格	V.22bis/V.22
20）同期方式	調歩同期式（非同期式）
21）送信レベル	－１０～－１６ｄＢｍ
22）使用温度範囲	０～４０℃
23）入力電源	ＡＣ１００Ｖ、５０／６０Ｈｚ
24）消費電力	１５０ＶＡ以下
25）予備電源	リチウム電池（メモリ保護） ニッカド電池（装置停電通報のみ） 停電時に入力データの伝送を行う場合は別途ＣＶＣＦが必要。
26）塗装色	新ＪＥＭ ５Ｙ７／１ 半艶 メラミン系塗装
27）パラメータ設定	発売時期　2003 年 9 月以後　製品盤面ﾀｯﾁﾊﾟﾈﾙにて設定する。 発売時期　2003 年 8 月以前　専用ﾊﾟｿｺﾝｿﾌﾄにて設定する。

３－３．自動通報装置　仕様

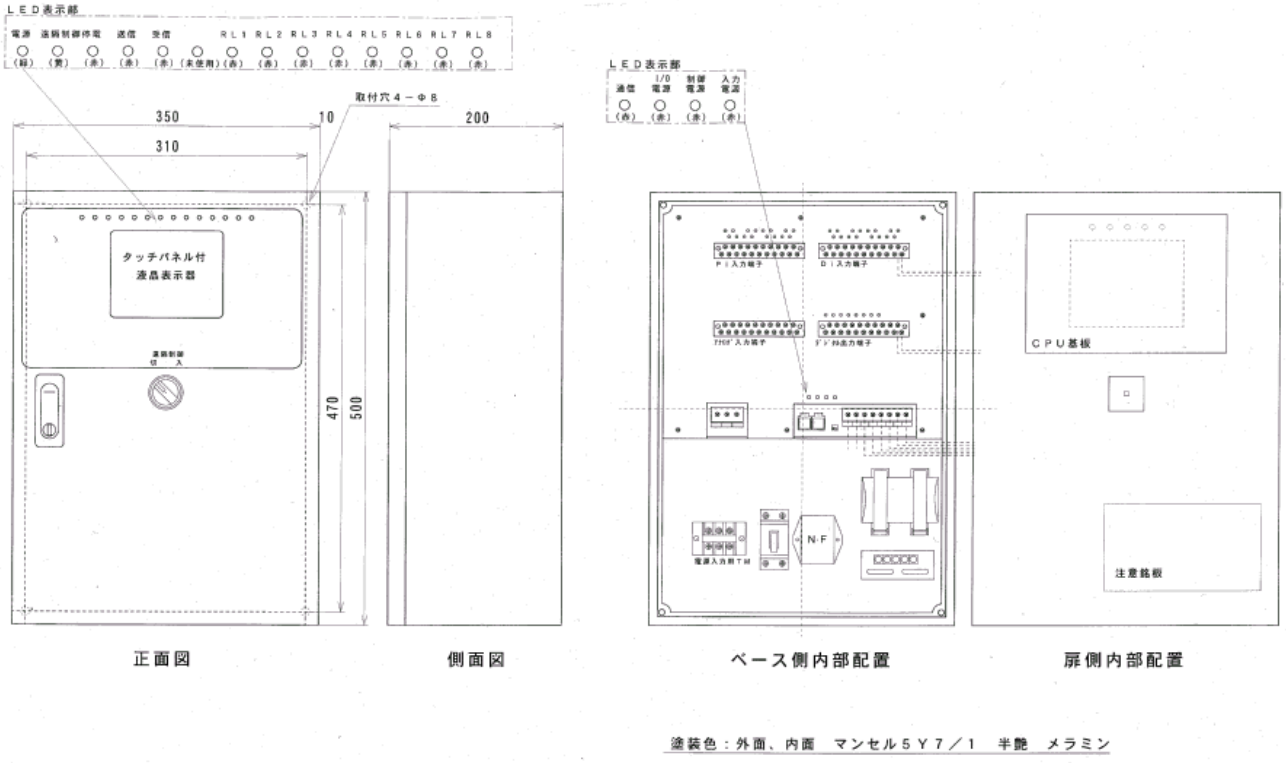
［規格及び基本機能］

１）デジタル入力	最大１６点（ＡＣ１００Ｖ、動作表示有）
２）警報の発信	警報と指定したデジタル入力の変化を端末側から発信すること。
３）通報先	最大３ヶ所
４）被呼者不応答	通報先（最大３ヶ所）へのリトライ機能を有すること。
	に対する機能
５）入力見地時間	１～３００秒の範囲で監視、警報別に指定可能なこと。
６）ダイヤル桁数	最大１２桁
７）適用回線	ＮＴＴ電話回線（アナログ回線）
８）選択信号形式	パルスダイヤル（１０／２０ｐｐｓ）、トーンダイヤル（ＰＢ）
９）網制御	ＡＡ形（自動発信／自動着信）
10）通信速度	受信：300bps、送信：300bps
11）通信規格	V.22bis/V.22
12）同期方式	調歩同期式（非同期式）
13）送信レベル	－１０～－１６ｄＢｍ
14）使用温度範囲	０～４０℃
15）入力電源	ＡＣ１００Ｖ、５０／６０Ｈｚ
16）消費電力	１５０ＶＡ以下
17）予備電源	リチウム電池（メモリ保護）
	ニッカド電池（装置停電通報のみ）
	停電時に入力データの伝送を行う場合は別途ＣＶＣＦが必要。
18）塗装色	新ＪＥＭ ５Ｙ７／１ 半艶 メラミン系塗装
19）パラメータ設定	専用ﾊﾟｿｺﾝｿﾌﾄにて設定する。

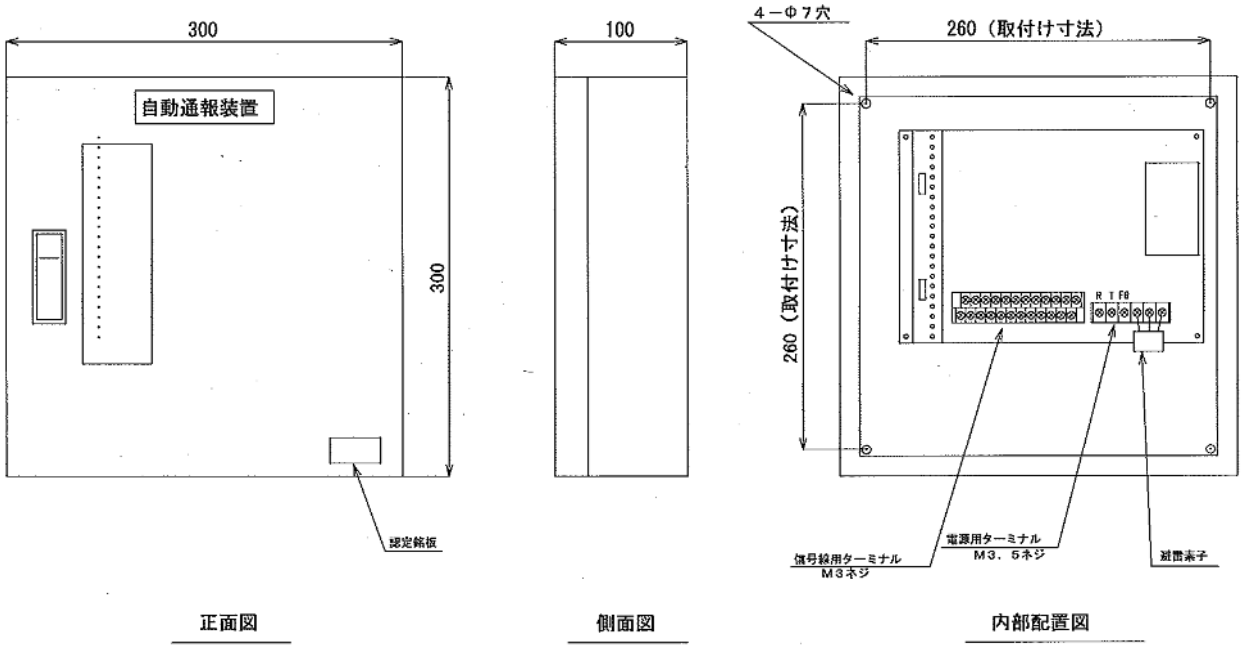
３－４．製品寸法図

（１）遠隔制御端末装置（Ｌ２Ｎ）　寸法図（発売時期　2003 年 9 月以後）

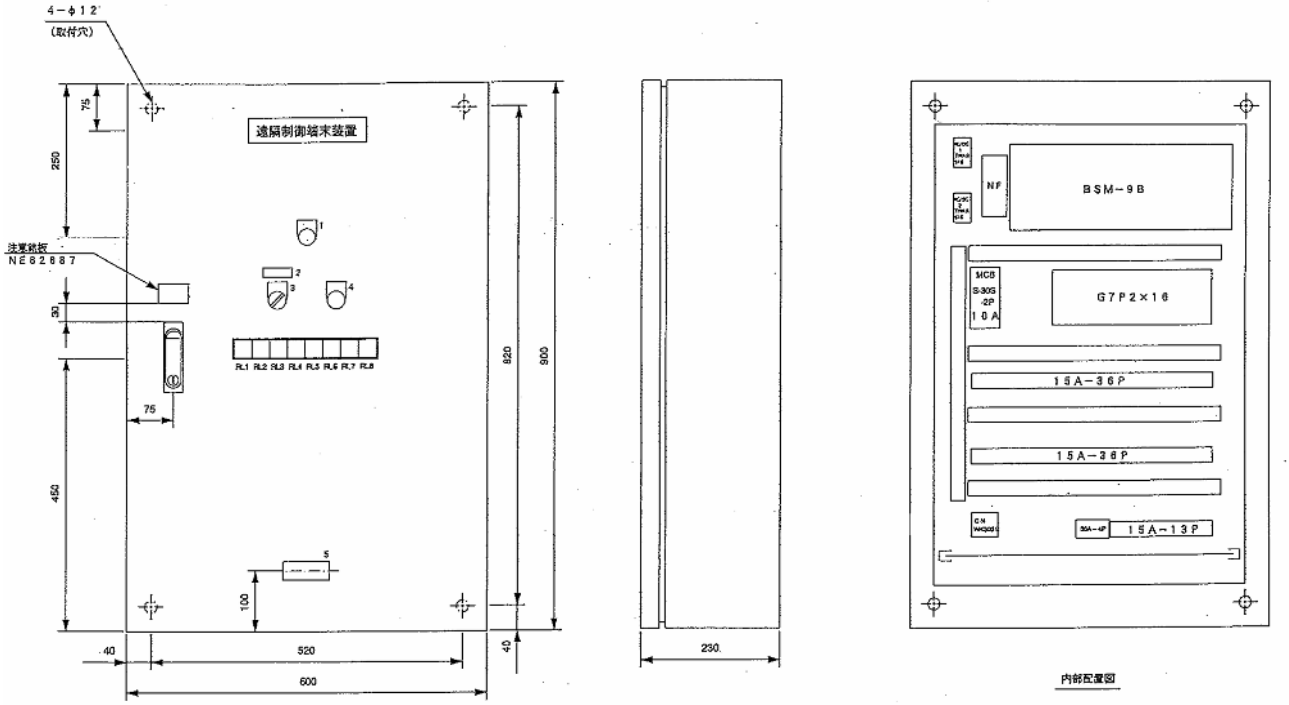
（下記は、デジタル入力 32 点の場合）



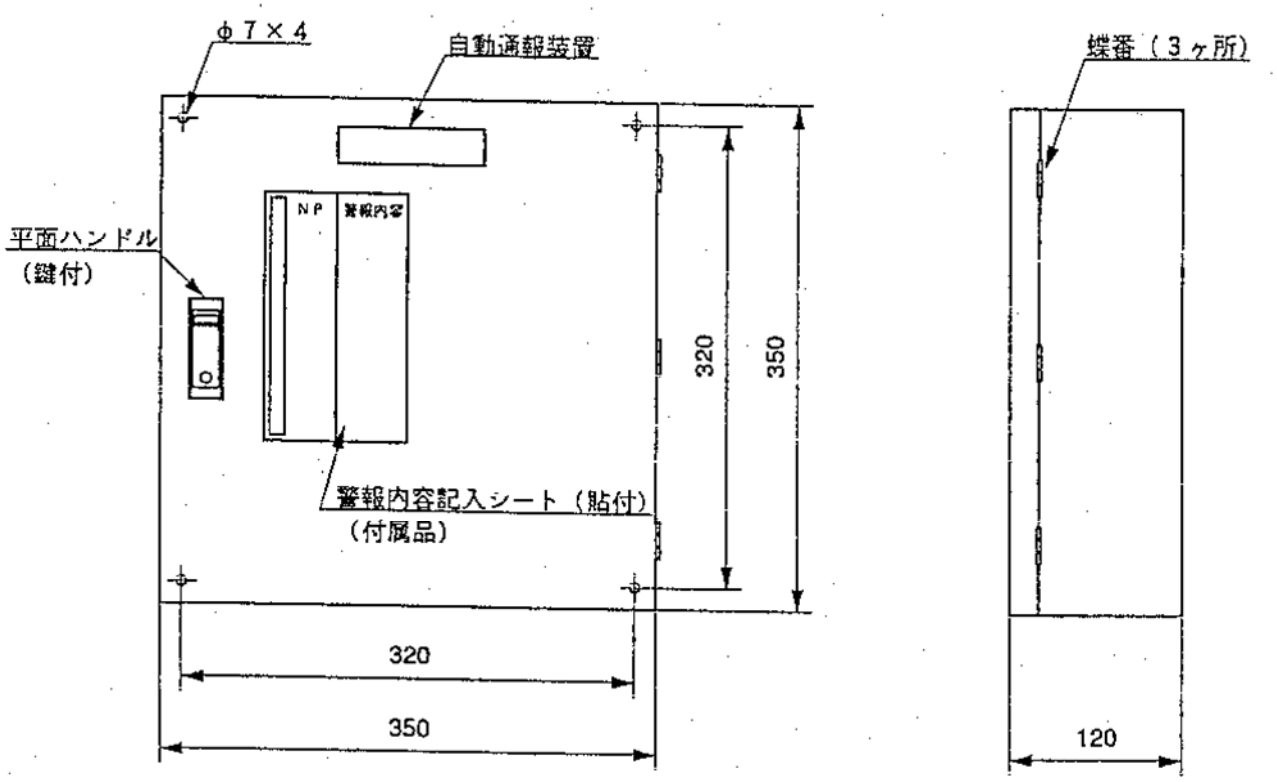
（２）自動通報装置（Ｌ３Ｎ）　寸法図（発売時期　2004 年 2 月以後）



（３）遠隔制御端末装置（旧Ｌ２）（発売時期　2003 年 8 月以前）



（４）自動通報装置（旧Ｌ３）（発売時期　2004 年 1 月以前）



３－５．遠隔制御端末装置　通信仕様書

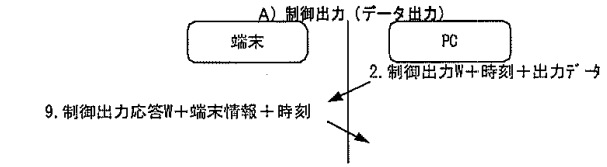
１）本仕様は、端末とセンター装置パソコン間の通信電文、機能について記述します。

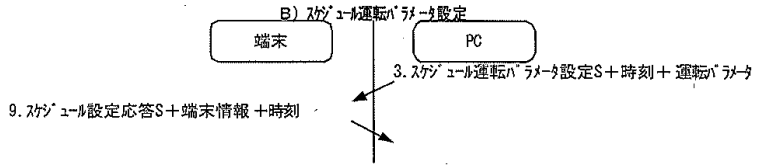
２）遠隔制御端末装置の通信電文を次ページより定義します。

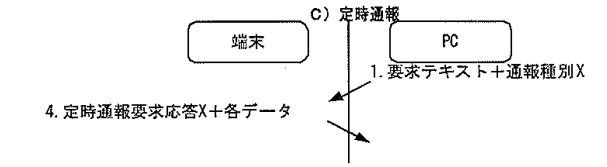
通信伝文パターン

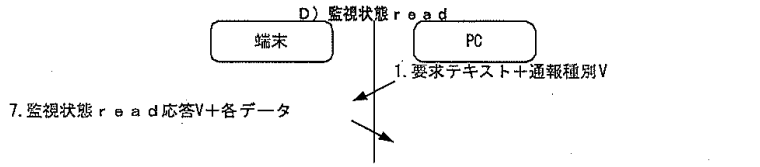
ＰＣ主局（ＰＣから電話をかける）

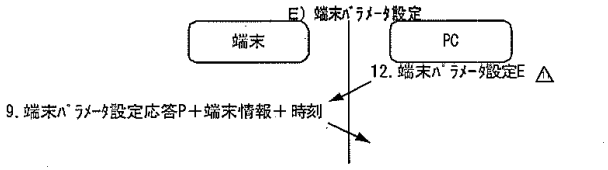
「RING」３回後「CONNECT」で接続
Ａ）制御出力（データ出力）
Ｂ）スケジュール運転パラメータ設定
Ｃ）定時通報
Ｄ）監視状態ｒｅａｄ
Ｅ）端末パラメータ設定
Ｆ）端末パラメータｒｅａｄ
Ｇ）I/O割付設定
Ｈ）I/O割付ｒｅａｄ
「EOT+CR」受信時、電話切断

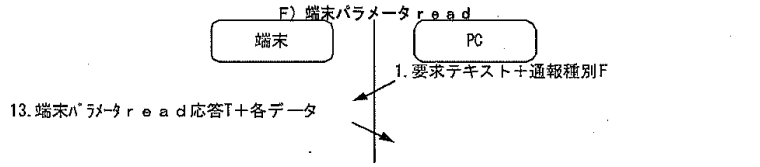


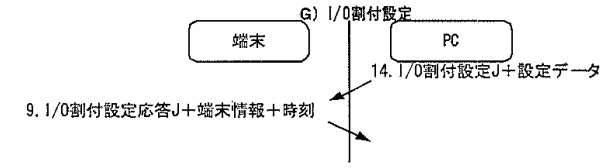


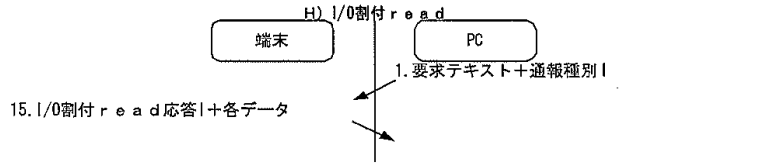




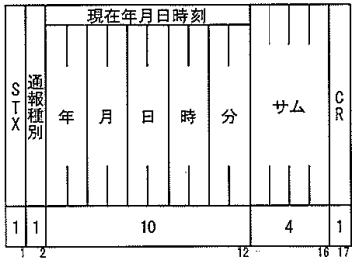








1. 要求テキスト



項目	名称	データ長	内容
1	通報種別	1	X：定時通報要求 Y：警報通報要求 Z：テスト通報要求 R：スケジュール運転状態ｒｅａｄ V：監視状態ｒｅａｄ F：端末パラメータｒｅａｄ I：Ｉ／Ｏ割付ｒｅａｄ K：テスト開始通報要求 L：テスト終了通報要求 G：I/O通信異常通報要求 H：I/O通信復旧通報要求
2	現在年月日時刻	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30

※端末の内部時計時刻の修正

端末とセンター局の時刻同期は、通報種別が
- Ｘ：定時通報要求
- Ｚ：テスト通報要求
- 端末パラメータ設定要求

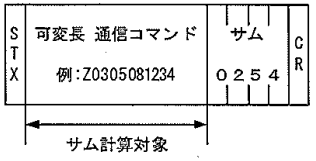
の場合に行なう。

伝文の「年・月・日・時・分」を同期し、
秒は修正しない。（元の値継続）

センター局の仕様により、毎正時の前後５分間は
定時通報要求を出さないことになっているので、
定時通報要求による通信において、
正時データ処理が重複、または欠落しない。

テスト通報は、取説記述および運用により回避する。

※サム値の計算



例：
03年05月08日12時34分のテスト通報(Z)の場合、

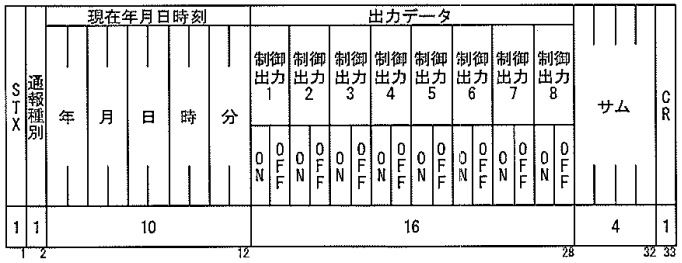
文字　：Asciiコード
　"Z"：0x5A
＋"0"：0x30
＋"3"：0x33
＋"0"：0x30
＋"5"：0x35
＋"0"：0x30
＋"8"：0x38
＋"1"：0x31
＋"2"：0x32
＋"3"：0x33
＋"4"：0x34

0x0254

サムは、
Ascii　："0"，"2"，"5"，"4"
(バイト：0x30, 0x32, 0x35, 0x34)
となる。

サムが長伝文などにより、ex:"1","2","3","4","5","6"
など５桁以上になった場合は、右から４桁
"3","4","5","6"
となる。

2. 制御出力(データ出力)



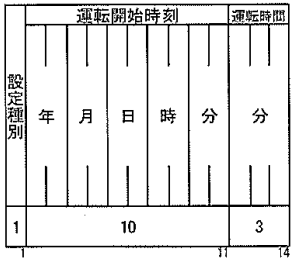
項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	通報種別	1	W：制御出力(データ出力)
2	現在年月日時刻	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
3	出力データ	16	出力ﾋﾞｯﾄを16ﾊﾞｲﾄで設定する (例) 制御出力１をｵﾝにする場合 →"1000000000000000" 制御出力１をｵﾌにする場合 →"0100000000000000" (注意) 端末は、ﾗｯﾁ処理を行っているので、"11"のように ON/OFFを同時に設定しないこと

3. スケジュール運転パラメータ設定

STX	通報種別	現在年月日時刻					スケジュール運転パラメータ								サム	CR
		年	月	日	時	分	1ﾌﾞﾛｯｸ目	2ﾌﾞﾛｯｸ目	3ﾌﾞﾛｯｸ目	4ﾌﾞﾛｯｸ目	5ﾌﾞﾛｯｸ目	6ﾌﾞﾛｯｸ目	7ﾌﾞﾛｯｸ目	8ﾌﾞﾛｯｸ目		
							14	14	14	14	14	14	14	14		
1	1	10					112								4	1
1	2					12								124	128	129

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	通報種別	1	S：スケジュール運転パラメータ設定
2	現在年月日時刻	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
3	ｽｹｼﾞｭｰﾙ運転ﾊﾟﾗﾒｰﾀ	112	1ﾌﾞﾛｯｸ毎に設定

3-1. スケジュール運転パラメータ詳細(1ﾌﾞﾛｯｸ分)



項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	設定種別	1	３１Ｈ：パラメータ設定 ３０Ｈ：パラメータ解除 ２０Ｈ：パラメータクリア (注意) ﾊﾟﾗﾒｰﾀ解除とﾊﾟﾗﾒｰﾀｸﾘｱは同一動作を行います。
2	運転開始時刻	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
3	運転時間	3	０～９９９分を10進Asciiで設定

4. 定時通報要求応答（管理報電文）

								通報日時					バッテリ状態			データ取得開始時刻					運転時間データ				
STX	Ver. No.	通報種別	支社コード	営業所コード	団地コード	端末No.	端末Tel No.	年	月	日	時	分	AC電源	ニッカド	リチウム	年	月	日	時	分	運転時間点数	当日	前日	前々日	前々々日
													1	1	1						2	96	96	96	96
1	2	1	2	2	3	2	12	10					3			10					386				

1　3　4　6　8　11　13　25　35　38　48　434

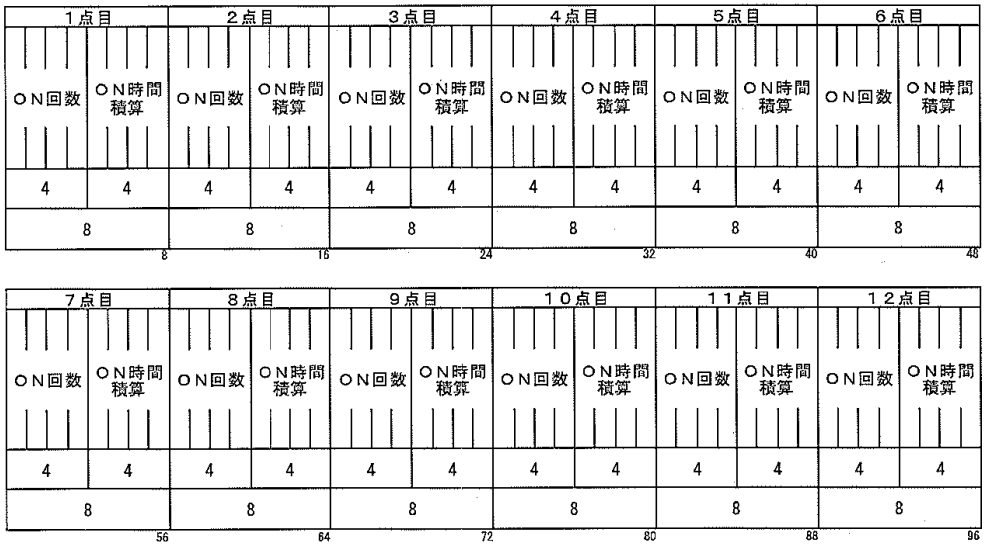
正時データ										
データブロック数	積算パルス	アナログスロット	アナログ積分	1時間目データ	2時間目データ	…	95時間目データ	96時間目データ	サム	CR
2	1	1	1	72	72	…	72	72		
6917									4	1

7351　7355　7356

項目	名称	データ長	内容
1	Ver.No.	2	３１を設定する
2	通報種別	1	X：定時通報要求応答
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
8	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
9	バッテリ状態	3	AC電源・ニッカド電池・リチウム電池の状態をセットする。 正常：０ 異常：１

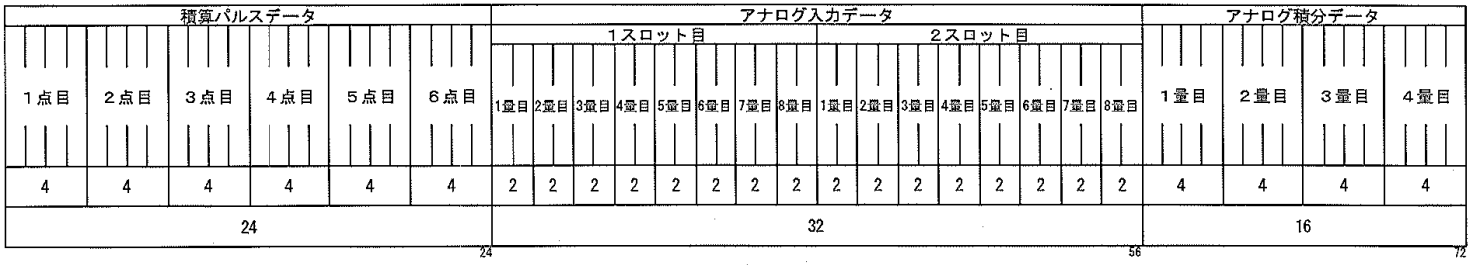
項目	名称	データ長	内容
10	データ取得開始時刻	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30 基本的に９６時間前の日時をセットする。 ただし、設置から９６時間経過以前は、設置して データ取得を開始した日時をセット
11	運転時間点数	2	運転時間積算を行う点数をセットする。 ００～１２の10進Asciiで設定
12	当日運転時間データ	96	運転ＯＮ数、運転時間をセット
13	前日運転時間データ	96	運転ＯＮ数、運転時間をセット
14	前々日運転時間データ	96	運転ＯＮ数、運転時間をセット
15	前々々日運転時間データ	96	運転ＯＮ数、運転時間をセット
16	データブロック数	2	データブロック数(正時データセット数)をセットする。 ００～９６の10進Asciiで設定
17	積算パルス	1	積算パルス点数をセットする。 ０～６の10進Asciiで設定
18	アナログスロット	1	アナログスロット数をセットする。 ０～２の10進Asciiで設定
19	アナログ積分	1	アナログ積分点数をセットする。 ０～４の10進Asciiで設定
20	正時データ	6912	１時間７２バイトデータを９６時間分セットする。 ただし、設置から９６時間経過以前は、計測した データ分のみセットする。 （データブロック数可変長）

4-1. 運転時間データ詳細(１日分)



項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	ＯＮ回数	4	１日分の運転ＯＮ回数をセットする。 ００００～ＦＦＦＦの16進Asciiで設定 (単位：回)
2	ＯＮ時間積算	4	１日分の運転時間をセットする。 ００００～ＦＦＦＦの16進Asciiで設定 (単位：分)

4-2. 正時データ詳細（１時間毎）



項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	積算パルスデータ	24	１時間分の積算パルス回数をセットする。 ００００～ＦＦＦＦの16進Asciiで設定 (単位：回)
2	アナログ入力データ	32	正時データをセットする。 ００～ＦＦの16進Asciiで設定
3	アナログ積分データ	16	１時間分のアナログ積分値をセットする。 ００００～ＦＦＦＦの16進Asciiで設定

5. 警報通報要求応答

STX	Ver. No.	通報種別	支社ｺｰﾄﾞ	営業所ｺｰﾄﾞ	団地ｺｰﾄﾞ	端末No.	端末Tel No.	通報日時					バッテリ状態			デジタル入力点数(Pi)	デジタル(Pi)入力ﾃﾞｰﾀ	デジタル入力点数(Di)	デジタル(Di)入力ﾃﾞｰﾀ	アナログ入力スロット数	アナログ入力ﾃﾞｰﾀ	アナログ入力積分数	アナログ積分入力ﾃﾞｰﾀ	デジタル入力点数(自動通報)	自動通報データ	自動通報バッテリ状態			サム	CR
								年	月	日	時	分	AC電源	ニッカド	リチウム											AC電源	ニッカド	リチウム		
													1	1	1											1	1	1		
1	2	1	2	2	3	2	12	10					3			2	16	2	48	1	32	1	16	2	16	3			4	1
1	3	4	6	8	11	13	25	35					38			40	56	58	106	107	139	140	156	158	174	177			181	182

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	Ver.No.	2	３１を設定する
2	通報種別	1	Ｙ：警報通報要求応答
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
8	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
9	バッテリ状態	3	AC電源･ﾆｯｶﾄﾞ電池･ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１
10	デジタル入力点数(Pi)	2	Piﾓｼﾞｭｰﾙ内の警報、監視入力点数をセットする (１６固定)
11	デジタル(Pi)入力データ	16	デジタル(Pi)入力データをセット 詳細は、5-1デジタル（Ｐｉ）入力データ詳細
12	デジタル入力点数(Di)	2	Diﾓｼﾞｭｰﾙ内の警報、監視入力点数をセットする (標準時１６、ｵﾌﾟｼｮﾝ時３２)

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
13	デジタル(Di)入力データ	48	デジタル(Di)入力データをセット 詳細は、5-2デジタル（Ｄｉ）入力データ詳細
14	アナログ入力スロット数	1	アナログ入力スロット数をセットする。 (標準時１、ｵﾌﾟｼｮﾝ時2)
15	アナログ入力データ	32	アナログ入力データをセット 詳細は、5-3アナログ入力データ詳細
16	アナログ積分入力数	1	アナログ積分入力数をセットする。 (０～４)
17	アナログ積分入力データ	16	アナログ積分入力データをセット 詳細は、5-4アナログ積分入力データ詳細
18	デジタル入力点数 (自動通報)	2	自動通報点数をセット （予備用なので１６固定）
19	自動通報データ	16	自動通報データをセット （予備用なので０固定×16）
20	自動通報バッテリ状態	3	AC電源･ﾆｯｶﾄﾞ電池･ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０、異常：１ （予備用なので０固定）

5-1. デジタル（Ｐｉ）入力データ詳細

デジタル(Pi)入力データ															
1点目	2点目	3点目	4点目	5点目	6点目	7点目	8点目	9点目	10点目	11点目	12点目	13点目	14点目	15点目	16点目
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
15															0

項目	名称	データ長	内容
1	デジタル(Pi)入力データ	16	Ｐｉモジュールの入力状態をセットする。 積算パルス入力は先頭から６点まで。 ・積算パルス入力（Ｐｉ－Ｐ） ＯＮ　：”Ｑ” ＯＦＦ：”Ｐ” ・警報入力（Ｐｉ－Ｅ） ＯＮ　：３１Ｈ(”１”) ＯＦＦ：３０Ｈ(”０”) ・監視入力（Ｐｉ－Ｗ） ＯＮ　：４１Ｈ(”Ａ”) ＯＦＦ：４０Ｈ(”@”) Ｐｉモジュール未実装時は２０Ｈをセットする

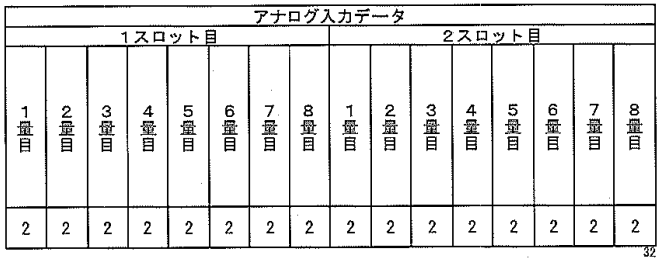
5-2. デジタル（Ｄｉ）入力データ詳細

デジタル(Di)入力データ																																															
1点目	2点目	3点目	4点目	5点目	6点目	7点目	8点目	9点目	10点目	11点目	12点目	13点目	14点目	15点目	16点目	17点目	18点目	19点目	20点目	21点目	22点目	23点目	24点目	25点目	26点目	27点目	28点目	29点目	30点目	31点目	32点目	33点目	34点目	35点目	36点目	37点目	38点目	39点目	40点目	41点目	42点目	43点目	44点目	45点目	46点目	47点目	48点目
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

48

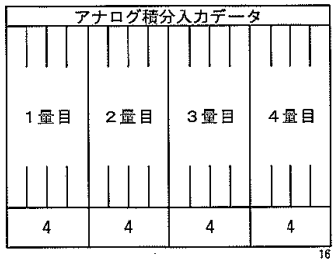
項目	名称	データ長	内容
1	デジタル(Di)入力データ	48	Ｄｉモジュールの入力状態をセットする。 運転時間積算入力は先頭から６点まで。 ・運転時間積算入力入力（Ｄｉ－Ｐ） ＯＮ："Ｑ" ＯＦＦ："Ｐ" ・警報入力（Ｄｉ－Ｅ） ＯＮ：３１Ｈ("１") ＯＦＦ：３０Ｈ("０") ・監視入力（Ｄｉ－Ｗ） ＯＮ：４１Ｈ("Ａ") ＯＦＦ：４０Ｈ("＠") Ｄｉモジュール未実装時、空き領域は ２０Ｈをセットする

5-3. アナログ入力データ詳細



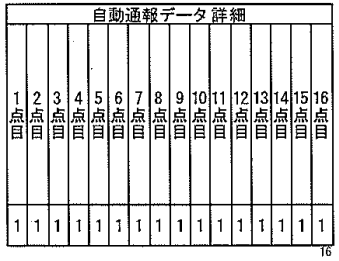
項目	名称	データ長	内容
1	アナログ入力データ	32	アナログ入力データをセットする。 ００～ＦＦ アナログ入力モジュール未実装時は２０Ｈをセットする。

5-4. アナログ積分入力データ詳細



項目	名称	データ長	内容
1	アナログ積分入力データ	16	アナログ積分入力データをセットする。 ０００００～ＦＦＦＦ アナログ積分入力が未設定の場合は２０Ｈをセットする。

5-5. 自動通報データ詳細



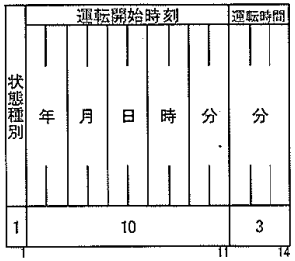
項目	名称	データ長	内容
1	自動通報データ	16	自動通報入力データをセットする。 ＯＮ　：３１Ｈ ＯＦＦ：３０Ｈ （予備用なのでＯＦＦ固定）

6. スケジュール運転パラメータｒｅａｄ応答

STX	Ver. No.	通報種別	支社ｺｰﾄﾞ	営業所ｺｰﾄﾞ	団地ｺｰﾄﾞ	端末No.	端末Tel No.	通報日時					ﾊﾞｯﾃﾘ状態			スケジュール運転パラメータ								予備固定文字列 10001000	サム	CR
								年	月	日	時	分	AC電源	ﾆｯｶﾄﾞ	ﾘﾁｳﾑ	1ﾌﾞﾛｯｸ目	2ﾌﾞﾛｯｸ目	3ﾌﾞﾛｯｸ目	4ﾌﾞﾛｯｸ目	5ﾌﾞﾛｯｸ目	6ﾌﾞﾛｯｸ目	7ﾌﾞﾛｯｸ目	8ﾌﾞﾛｯｸ目			
													1	1	1	14	14	14	14	14	14	14	14			
1	2	1	2	2	3	2	12	10					3			112								8	4	1
1		3	4		6	8		11	13		25		35		38								150	158	162	163

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	Ver.No.	2	３１を設定する
2	通報種別	1	Ｒ：スケジュール運転パラメータｒｅａｄ応答
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
8	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
9	バッテリ状態	3	AC電源･ﾆｯｶﾄﾞ電池･ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１
10	ｽｹｼﾞｭｰﾙ運転ﾊﾟﾗﾒｰﾀ	112	１ブロック毎に設定
11	予備固定文字列	8	固定文字列”１０００１０００” の８バイトをセット

6-1. スケジュール運転パラメータ詳細(１ブロック)



項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	状態種別	1	３１Ｈ：登録済み ２０Ｈ：登録無し
2	運転開始時刻	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
3	運転時間	3	０～９９９分を10進Asciiで設定

7. 監視状態ｒｅａｄ応答

STX	Ver. No.	通報種別	支社ｺｰﾄﾞ	営業所ｺｰﾄﾞ	団地ｺｰﾄﾞ	端末 No.	端末 Tel No.	通報日時					バッテリ状態			運転時間点数	運転時間データ	デジタル入力点数(Pi)	デジタル入力(Pi)データ	デジタル入力点数(Di)	デジタル入力(Di)データ	積算パルス	積算パルスデータ	アナログ入力スロット数	アナログ入力データ	アナログ入力積分数	アナログ積分入力データ
								年	月	日	時	分	AC電源	ニッカド	リチウム												
													1	1	1												
1	2	1	2	2	3	2	12	10					3			2	96	2	16	2	48	1	24	1	32	1	16
1	3	4	6	8	11	13	25	35					38			40	136	138	154	156	204	205	229	230	262	263	279

警報発生フラグ	制御状態	スケジュール状態								手動出力状態								デジタル入力点数(自動通報)	自動通報データ	自動通報バッテリ状態			サム	CR
		ブロック1	ブロック2	ブロック3	ブロック4	ブロック5	ブロック6	ブロック7	ブロック8	ブロック1	ブロック2	ブロック3	ブロック4	ブロック5	ブロック6	ブロック7	ブロック8			AC電源	ニッカド	リチウム		
																				1	1	1		
1	1	8								8								2	16	3			4	1
280	281	289								297								299	315	318			322	323

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	Ver.No.	2	３１を設定する
2	通報種別	1	Ｖ：監視状態ｒｅａｄ応答
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
8	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
9	バッテリ状態	3	AC電源･ﾆｯｶﾄﾞ電池･ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１
10	運転時間点数	2	運転時間積算を行う点数をセットする。 （１２固定）
11	当日運転時間データ	96	当日の運転ＯＮ回数、運転時間をセット 配置は、4-1運転時間データ詳細（１日分）と同様
12	デジタル入力点数 (Pi)	2	Piﾓｼﾞｭｰﾙ内の警報、監視入力点数をセットする （１６固定）
13	デジタル(Pi)入力データ	16	デジタル(Pi)入力データをセット 配置は、5-1デジタル(Pi)入力データ詳細と同様
14	デジタル入力点数 (Di)	2	Diﾓｼﾞｭｰﾙ内の警報、監視入力点数をセットする (標準時１６、ｵﾌﾟｼｮﾝ時３２)
15	デジタル(Di)入力データ	48	デジタル(Di)入力データをセット 配置は、5-2デジタル(Di)入力データ詳細と同様
16	積算パルス	1	Pi-P点数をセットする。 (６固定)
17	積算パルスデータ	24	１時間分の積算パルス回数をセットする。 ０００００～ＦＦＦＦの16進Ascii×6点分 空き領域は２０Ｈ
18	アナログ入力スロット数	1	アナログ入力スロット数をセットする。 (標準時１、ｵﾌﾟｼｮﾝ時2)
19	アナログ入力データ	32	アナログ入力データをセット 配置は、5-3アナログ入力データ詳細と同様
20	アナログ積分入力数	1	アナログ積分入力数をセットする。 (４固定)
21	アナログ積分入力データ	16	アナログ積分入力データをセット 配置は、5-4アナログ積分入力データ詳細と同様
22	警報発生フラグ	1	警報指定ビットに変化が生じたとき、１をセット 応答伝文送信後、０にリセット 変化なし：０ 変化あり：１

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
23	制御状態	1	スケジュール制御または手動制御により出力ＯＮになっている信号があるとき、１をセット 制御停止中：０ 制御中　　：１
24	スケジュール状態	8	スケジュール制御により出力ＯＮになっているブロックに１をセット 制御停止中：０ 制御ＯＮ中：１
25	手動制御状態	8	手動制御により出力ＯＮになっているブロックに１をセット 制御停止中：０ 制御ＯＮ中：１
26	デジタル入力点数 (自動通報)	2	（１６固定）
27	自動通報データ	16	自動通報データをセット （０固定×16点）
28	自動通報バッテリ状態	3	AC電源･ﾆｯｶﾄﾞ電池･ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１ （予備用なので０固定）

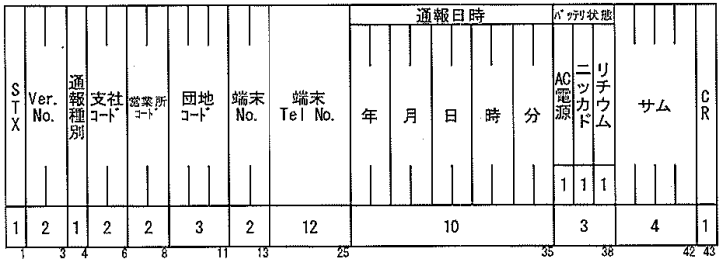
8. テスト通報要求応答・テスト開始通報応答・テスト終了通報応答・I/O通信異常通報応答・I/O通信復旧通報応答

STX	Ver. No.	通報種別	支社ｺｰﾄﾞ	営業所ｺｰﾄﾞ	団地ｺｰﾄﾞ	端末No.	端末Tel No.	通報日時					バッテリ状態			デジタル入力点数(Pi)	デジタル(Pi)入力ﾃﾞｰﾀ	デジタル入力点数(Di)	デジタル(Di)入力ﾃﾞｰﾀ	アナログ入力スロット数	アナログ入力ﾃﾞｰﾀ	アナログ入力積分数	アナログ積分入力ﾃﾞｰﾀ	デジタル入力点数(自動通報)	自動通報データ	自動通報バッテリ状態			サム	CR
								年	月	日	時	分	AC電源	ニッカド	リチウム											AC電源	ニッカド	リチウム		
													1	1	1											1	1	1		
1	2	1	2	2	3	2	12	10					3			2	16	2	48	1	32	1	16	2	16	3			4	1
1	3	4	6	8	11	13	25	35					38			40	56	58	106	107	139	140	156	158	174	177			181	182

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	Ver.No.	2	３１を設定する
2	通報種別	1	Ｚ：テスト通報要求応答 Ｋ：テスト開始通報応答 Ｌ：テスト終了通報応答 Ｇ：I/O通信異常通報応答 Ｈ：I/O通信復旧通報応答
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
8	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
9	バッテリ状態	3	AC電源・ﾆｯｶﾄﾞ電池・ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１
10	デジタル入力点数(Pi)	2	Piﾓｼﾞｭｰﾙ内の警報、監視入力点数をセットする （１６固定）
11	デジタル(Pi)入力データ	16	デジタル(Pi)入力データをセット 配置は、5-1デジタル(Pi)入力データ詳細と同様
12	デジタル入力点数(Di)	2	Diﾓｼﾞｭｰﾙ内の警報、監視入力点数をセットする (標準時１６、ｵﾌﾟｼｮﾝ時３２)

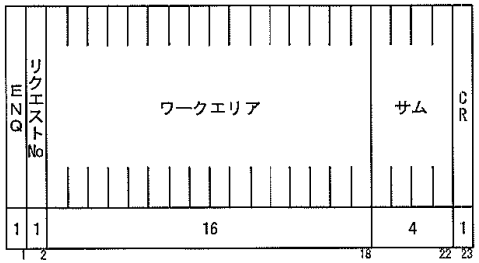
項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
13	デジタル(Di)入力データ	48	デジタル(Di)入力データをセット 配置は、5-2デジタル(Di)入力データ詳細と同様
14	アナログ入力スロット数	1	アナログ入力スロット数をセットする。 (標準時１、ｵﾌﾟｼｮﾝ時２)
15	アナログ入力データ	32	アナログ入力データをセット 配置は、5-3アナログ入力データ詳細と同様
16	アナログ積分入力数	1	アナログ積分入力数をセットする。 （４固定）
17	アナログ積分入力データ	16	アナログ積分入力データをセット 配置は、5-4アナログ積分入力データ詳細と同様
18	デジタル入力点数(自動通報)	2	（１６固定）
19	自動通報データ	16	自動通報データをセット （０固定×16点）
20	自動通報バッテリ状態	3	AC電源・ﾆｯｶﾄﾞ電池・ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１ （予備用なので０固定）

9. 制御出力応答、スケジュール設定応答、端末パラメータ設定応答、I/O割付設定応答



項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	Ver.No.	2	３１を設定する
2	通報種別	1	W：制御出力応答 S：スケジュール設定応答 E：端末パラメータ設定応答（新型端末の新機能） J：I/O割付設定応答　（新型端末の新機能）
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
8	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
9	バッテリ状態	3	AC電源・ﾆｯｶﾄﾞ電池・ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１

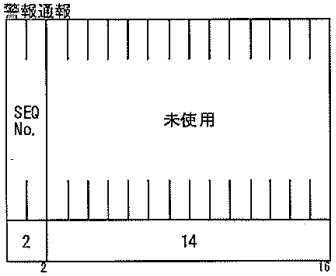
10. ＥＮＱ



項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	リクエストNo.	1	子局起動時の通報種別を設定する。 １：警報通報 ２：テスト通報 ３：ｽｹｼﾞｭｰﾙ制御運転/解除通報 ４：未使用 ５：テスト開始通報 ６：テスト終了通報 ７：I/O通信異常通報 ８：I/O通信復旧通報

10-1. ワークエリア詳細

1. 警報通報

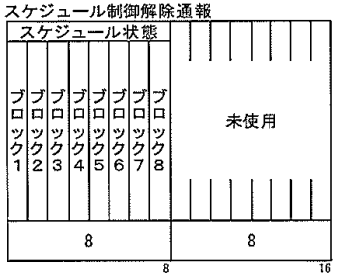


ＳＥＱ Ｎｏ.
警報通報をする毎にＮｏ. を増やす。
10進Asciiの００～９９の範囲で設定

ワークエリア未使用領域は「０」をセット

※テスト通報・テスト開始通報・テスト終了通報
I/O通信異常通報・I/O通信復旧通報
では、ワークエリアは、未使用

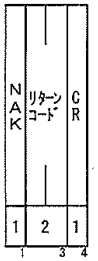
3. スケジュール制御運転通報
3. スケジュール制御解除通報



スケジュール状態
予定動作(運転/解除)後の状態を各ブロック毎に示す。
例　現在４ブロック目の運転開始時刻になった場合はスケジュール状態は、
"０００１０００００"となる。

ワークエリア未使用領域は「０」をセット

11. NAK



項目	名称	データ長	内容
1	リターンコード	2	異常テキスト受信時のエラーコードを設定する ０１Ｈ：パリティーエラー ０２Ｈ：オーバーランエラー ０３Ｈ：フレーミングエラー ０４Ｈ：プロトコルエラー ０５Ｈ：サムチェックエラー

12. 端末パラメータ設定（新型端末の新機能）

STX	通報種別	通報日時					支社コード	営業所コード	団地コード	端末No.	警報検知時間	監視検知時間	端末Tel No.	第一親局Tel No.	第二親局Tel No.	第三親局Tel No.	回線種類	キャリア出力	サム	CR
		年	月	日	時	分														
1	1	10					2	2	3	2	3	3	12	12	12	12	1	1	4	1
1	2					12	14	16	19	21	24	27	39	51	63	75	76	77	81	82

項目	名称	データ長	内容
1	通報種別	1	Ｅ：端末パラメータ設定⚠
2	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	警報検知時間	3	０００～３００の10進Asciiで設定
8	監視検知時間	3	０００～３００の10進Asciiで設定
9	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
10	第一親局Tel No.	12	第一親局Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
11	第二親局Tel No.	12	第二親局Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
12	第三親局Tel No.	12	第三親局Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
13	回線種類	1	０：プッシュ回線 １：ダイヤル回線(10pps) ２：ダイヤル回線(20pps)
14	キャリア出力レベル	1	0:-10dBm 1:-11dBm 2:-12dBm 3:-13dBm 4:-14dBm 5:-15dBm 6:-16dBm

※モデム通信による端末パラメータ設定は、
「端末ﾊﾟﾗﾒｰﾀ(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ1)画面」「端末ﾊﾟﾗﾒｰﾀ(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ2)画面」表示 中は無効とする。
伝文内容読み捨て、応答は返す。

13. 端末パラメータｒｅａｄ応答（新型端末の新機能）

STX	Ver. No.	通報種別	支社ｺｰﾄﾞ	営業所ｺｰﾄﾞ	団地ｺｰﾄﾞ	端末 No.	端末 Tel No.	通報日時					ﾊﾞｯﾃﾘ状態			警報検知時間	監視検知時間	第一親局 Tel No.	第二親局 Tel No.	第三親局 Tel No.	回線種類	キャリア出力	Ａｉ２拡張	Ｄｉ２拡張	サム	CR
								年	月	日	時	分	AC電源	ニッカド	リチウム										
													1	1	1										
1	2	1	2	2	3	2	12	10					3			3	3	12	12	12	1	1	1	1	4	1
1		3	4	6	8	11	13	25				35	38			41	44	56	68	80	81	82	83	84	88	89

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	Ver.No.	2	３１を設定する
2	通報種別	1	Ｆ：端末パラメータｒｅａｄ応答
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
8	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
9	バッテリ状態	3	AC電源･ﾆｯｶﾄﾞ電池･ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１
10	警報検知時間	3	０００～３００の10進Asciiで設定
11	監視検知時間	3	０００～３００の10進Asciiで設定
12	第一親局Tel No.	12	第一親局Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
13	第二親局Tel No.	12	第二親局Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
14	第三親局Tel No.	12	第三親局Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
15	回線種類	1	０：プッシュ回線 １：ダイヤル回線(10pps) ２：ダイヤル回線(20 pps)
16	キャリア出力レベル	1	0:-10dBm 1:-11dBm 2:-12dBm 3:-13dBm 4:-14dBm 5:-15dBm 6:-16dBm
17	Ａｉ２拡張状態	1	有効：１ 無効：０
18	Ｄｉ２拡張状態	1	有効：１ 無効：０

14. Ｉ／Ｏ割付設定（新型端末の新機能）

STX	通報種別	現在年月日時刻					Ai1信号設定	Ai2信号設定	Pi信号設定	Di1信号設定	Di2信号設定	Di3信号設定	サム	CR
		年	月	日	時	分	1～8信号設定	1～8信号設定	1～16信号設定	1～16信号設定	1～16信号設定	1～16信号設定（予備）		
1	1	10					8	8	16	16	16	16	4	1
1	2					12	20	28	44	60	76	92	96	97

項目	名称	データ長	内容
1	通報種別	1	Ｊ：I/O割付設定
2	現在年月日時刻	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
3	Ａｉ１各信号設定	8	信号１～８の割付をコードで指定 A：Ai-Aとして使用 I：Ai　として使用 例：AAAAIIII
4	Ａｉ２各信号設定	8	信号１～８の割付をコードで指定 A：Ai-Aとして使用 I：Ai　として使用 例：IIIIIIII
5	Ｐｉ各信号設定	16	信号０～１５の割付をコードで指定 P：Pi-Pとして使用 E：Pi-Eとして使用 W：Pi-Wとして使用 例：PPPPEEWWWWWWWWW

項目	名称	データ長	内容
6	Ｄｉ１各信号設定	16	信号０～１５の割付をコードで指定 P：Di-Pとして使用 E：Di-Eとして使用 W：Di-Wとして使用 例：PPPPPPPPPPPPWWWW
7	Ｄｉ２各信号設定	16	信号０～１５の割付をコードで指定 P：Di-Pとして使用 E：Di-Eとして使用 W：Di-Wとして使用 例：EEEEEEEEWWWWWWWW
8	Ｄｉ３各信号設定 （予備）	16	信号０～１５の割付をコードで指定 P：Di-Pとして使用 E：Di-Eとして使用 W：Di-Wとして使用 例：EEEEEEEEWWWWWWWW

※モデム通信によるI/O割付設定は、
「I/O割付(Ai)画面」「I/O割付(Pi)画面」「I/O割付(Di)画面」表示中は無効 とする。
伝文内容読み捨て、応答は返す。

15. Ｉ／Ｏ割付ｒｅａｄ応答（新型端末の新機能）

STX	Ver. No.	通報種別	支社ｺｰﾄﾞ	営業所ｺｰﾄﾞ	団地ｺｰﾄﾞ	端末No.	端末Tel No.	通報日時					ﾊﾞｯﾃﾘ状態			Ai1信号設定	Ai2信号設定	Pi信号設定	Di1信号設定	Di2信号設定	Di3信号設定	サム	CR
								年	月	日	時	分	AC電源	ニッカド	リチウム	1～8信号設定	1～8信号設定	1～16信号設定	1～16信号設定	1～16信号設定	1～16信号設定（予備）		
													1	1	1								
1	2	1	2	2	3	2	12	10					3			8	8	16	16	16	16	4	1
1		3	4	6	8	11	13	25				35	38			46	54	70	86	102	118	122	123

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	Ver.No.	2	３１を設定する
2	通報種別	1	Ｉ：Ｉ／Ｏ割付ｒｅａｄ応答
3	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
5	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
6	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
7	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
8	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
9	バッテリ状態	3	AC電源･ﾆｯｶﾄﾞ電池･ﾘﾁｳﾑ電池の状態をｾｯﾄする。 正常：０ 異常：１
10	Ａｉ１各信号設定	8	信号１～８の割付をコードで指定 A：Ai-Aとして使用 I：Ai　として使用 例：AAAAIIII
11	Ａｉ２各信号設定	8	信号１～８の割付をコードで指定 A：Ai-Aとして使用 I：Ai　として使用 例：IIIIIIII
12	Ｐｉ各信号設定	16	信号０～１５の割付をコードで指定 P：Pi-Pとして使用 E：Pi-Eとして使用 W：Pi-Wとして使用 例：PPPPEEWWWWWWWWW

項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
13	Ｄｉ１各信号設定	16	信号０～１５の割付をコードで指定 P：Di-Pとして使用 E：Di-Eとして使用 W：Di-Wとして使用 例：PPPPPPPPPPPPWWWW
14	Ｄｉ２各信号設定	16	信号０～１５の割付をコードで指定 P：Di-Pとして使用 E：Di-Eとして使用 W：Di-Wとして使用 例：EEEEEEEEWWWWWWWW
15	Ｄｉ３各信号設定 （予備）	16	信号０～１５の割付をコードで指定 P：Di-Pとして使用 E：Di-Eとして使用 W：Di-Wとして使用 例：EEEEEEEEWWWWWWWW

３－６．自動通報装置　通信仕様書

１）本仕様は、端末とセンター装置パソコン間の通信電文、機能について記述します。

２）自動通報装置の通信電文を次ページより定義します。

３．通信伝文

3.1 新型Ｌ３端末通信伝文仕様

新型Ｌ３端末の通信伝文を次ﾍﾟｰｼﾞより定義します。

3.2 伝文形式

(1) 要求・通報・定時通報指定ﾒｯｾｰｼﾞ

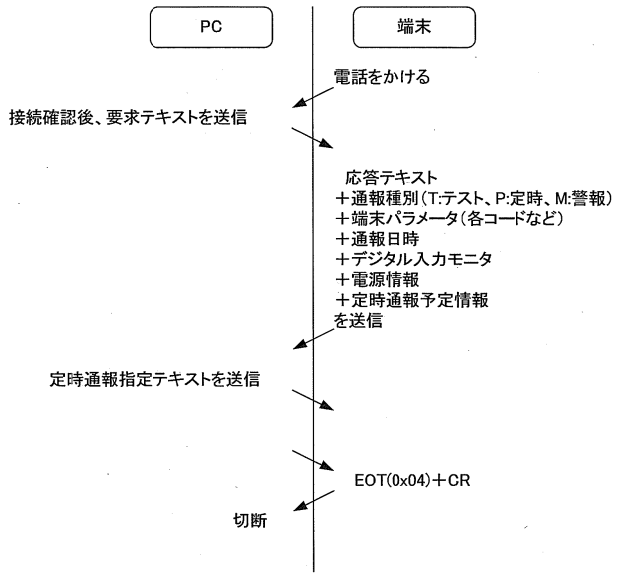
STX	テキスト	サム	CR
1	64	4	1
1	65	69	70

通信伝文パターン

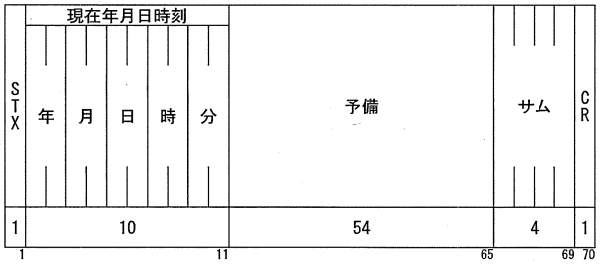
端末主局（端末から電話をかける）

１）「ATD＋No」ダイアル後「CONNECT」で接続
２）ＰＣからの要求テキストを受信
３）要求テキスト受信後、応答テキスト送信
４）定時通報指定テキストを受信
５）「EOT+CR」受信時、電話切断

通報手順



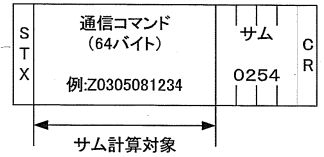
3.3.1. 要求テキスト



項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	現在年月日時刻	10	年月日時刻を数字で設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30

※新型L3端末は本要求ﾃﾞｰﾀより、時刻のずれを修正する。

※サム値の計算



例:Z0305081234の場合、

文字　:Asciiコード
　"Z":0x5A
＋"0":0x30
＋"3":0x33
＋"0":0x30
＋"5":0x35
＋"0":0x30
＋"8":0x38
＋"1":0x31
＋"2":0x32
＋"3":0x33
＋"4":0x34

0x0254

サムは、
Ascii :"0" , "2" , "5" , "4"
(バイト:0x30, 0x32, 0x35, 0x34)
となる。

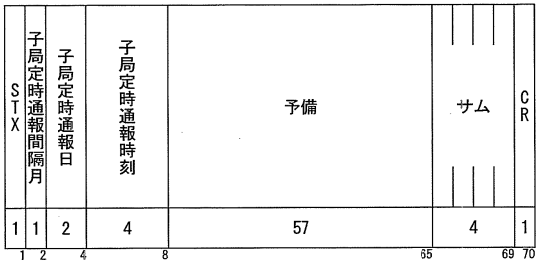
サムが長伝文などにより、ex:"1","2","3","4","5","6"
など5桁以上になった場合は、右から4桁
"3","4","5","6"
となる。

3.3.2. 応答テキスト構成

STX	通報種別	支社ｺｰﾄﾞ	営業所ｺｰﾄﾞ	団地ｺｰﾄﾞ	端末No.	端末Tel No.	通報日時					デジタル(Pi)入力データ															リチウム	ニッカド	停電異常	子局定時通報間隔月	子局定時通報日	子局定時通報時刻	予備	サム	CR
							年	月	日	時	分	1点目	2点目	3点目	4点目	5点目	6点目	7点目	8点目	9点目	10点目	11点目	12点目	13点目	14点目	15点目	16点目								
1	1	2	2	3	2	12	10					16															1	1	1	1	2	4	6	4	1
1	2	4	6	9	11	23	33					49															50	51	52	53	55	59	65	69	70

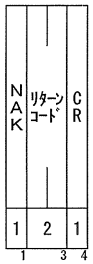
項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	通報種別	1	T(54H)：ﾃｽﾄ通報 P(50H)：定時通報 M(4DH)：警報
2	支社コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
3	営業所コード	2	００～９９の10進Asciiで設定
4	団地コード	3	０００～９９９の10進Asciiで設定
5	端末No.	2	００～９９の10進Asciiで設定
6	端末Tel No.	12	端末Ｔｅｌ Ｎｏ．を10進Asciiで設定
7	通報日時	10	年月日時刻を10進Asciiで設定する (例)０１年１０月３１日１２時００分 →30 31 31 30 33 31 31 32 30 30
8	デジタル入力データ 警報内容	16	故障発生ＣＨ：１(31H) 故障復旧ＣＨ：０(30H) 故障が復旧するまで、１(31H)であること ６～１６点は予備(値0)とする
9	ﾘﾁｳﾑ電池異常	1	通　常：０(30H) 異常時：１(31H) 復帰した際は、０(30H)になる
10	ﾆｯｶﾄﾞ電池異常	1	
11	停電異常(AC電源)	1	
12	子局定時通報間隔月	1	毎　月：０(30H) 奇数月：１(31H) 偶数月：２(32H)
13	子局定時通報日	2	子局で指定した定時通報日を１日～２８日の範囲で設定する
14	子局定時通報時刻	4	子局で指定した定時通報時刻を設定する (２４時間の形式) 通報日時の時分と同一の形式
15	予備	6	将来の拡張用 (20H)で埋められている

3.3.3. 定時通報指定テキスト構成



項目	名称	データ長	内容
1	子局定時通報間隔月	1	毎　月：０(30H) 奇数月：１(31H) 偶数月：２(32H)
2	子局定時通報日	2	子局で指定した定時通報日を１日～２８日の範囲で設定する
3	子局定時通報時刻	4	子局で指定した定時通報時刻を設定する (２４時間の形式) 通報日時の時分と同一の形式
4	予備	57	(20H)で埋る

3.3.4. ＮＡＫ



項目	名称	ﾃﾞｰﾀ長	内容
1	リターンコード	2	異常テキスト受信時のエラーコードを設定する ０１Ｈ：パリティーエラー ０２Ｈ：オーバーランエラー ０３Ｈ：フレーミングエラー ０４Ｈ：プロトコルエラー ０５Ｈ：サムチェックエラー ＦＦＨ：打ち切り

別紙７

自動通報装置の設置報告書

独立行政法人都市再生機構業務受託者
株式会社ＵＲコミュニティ北九州住まいセンター
　センター長　　殿

（受託者）

下記の通りに自動通報装置を設置したので報告します。

記

施設名称	給水施設設置住棟番号	設置日	備考

以　上

給水施設維持管理業務特記仕様書

1　業務の対象

本業務の対象は、発注者の賃貸住宅団地（以下「団地」という。）内に設置された給水施設のうち、別表１「給水施設一覧表」に掲げる給水施設とする。

2　適用法令等

本業務は、仕様書に定めるもののほか、水道法（昭和 32 年法律第 177 号、以下「水道法」という。）、電気事業法（昭和 39 年法律第 170 号、以下「電気事業法」という。）、電気設備に関する技術基準を定める省令（平成 9 年通商産業省令第 52 号）、労働安全衛生規則（昭和 47 年労働省令第 32 号）、その他関係法令、地方公共団体が定める条例及び独立行政法人都市再生機構電気工作物保安規程（平成 16 年 7 月 1 日付独立行政法人都市再生機構規程第 46 号、以下「保安規程」という。）により実施するものとする。

3　業務の内容

受注者は、別表 1「給水施設一覧表」に掲げる給水施設について、居住者等への水の供給にあたり、水質の維持、緊急事故等の防止のため、次に掲げる業務を仕様書の定めるところにより実施するものとする。また、点検は巡回方式により実施するものとし、日常点検、1 ヶ月点検、3 ヶ月点検及び定期点検の点検周期が均等になるよう計画するものとする。

なお、電気設備のうち自家用電気工作物に係る業務については、「自家用電気工作物維持管理業務特記仕様書」の定めるところにより実施する。

点検実施項目は、別表 2「専用水道施設、簡易専用水道施設維持管理表」、別表 3「小規模水道施設維持管理表」及び別表 4「直結増圧給水施設維持管理表」及び別表 5「一般用電気工作物維持管理表」に基づき点検を実施することとし、点検者及び点検頻度は次による。

(1)　日常点検、1 ヶ月点検及び 3 ヶ月点検業務

①　日常点検業務

専用水道施設、簡易専用水道施設について、技術者が月 3 回以上施設の設備機器類の点検を行う業務。

②　1 ヶ月点検業務

小規模水道施設について、技術者が月 1 回以上施設の設備機器類の点検を行う業務。

③　3 ヶ月点検業務

直結増圧給水施設について、技術者が年 3 回以上施設の設備機器類の点検を行う業務。

(2)　定期点検業務（1 ヶ月点検、1 年点検）

①　専用水道施設、簡易専用水道施設について、主任技術者が月 1 回以上施設の設備機器類の点検を行う業務及び年 1 回以上施設の設備機器類の点検を行う業務。

なお、1 ヶ月点検には日常点検項目、1 年点検には 1 ヶ月点検及び日常点検項目を含む。

②　小規模水道施設、直結増圧給水施設について、主任技術者が年 1 回以上施設の設備機器類の点検を行う業務。

なお、年 1 回以上の点検には小規模水道施設の 1 ヶ月点検及び直結増圧給水施設の 3 ヶ月点検項目を含む。

(3)　水質検査

次の機会において水質検査を実施し、その結果を担当職員へ報告する。

①　日例水質検査

水道法第 20 条により実施する水質検査で、1 日 1 回行う業務。（専用水道施設のみ対象とする。）

②　定期水質検査

発注者の作成による「水質検査計画書」等に基づき実施する定期の水質検査を行う業務。

（簡易専用水道施設、小規模水道施設が対象）

(4)　緊急事故処理対応業務

24 時間全日給水施設の機器の故障等に対応処置する業務。

(5)　小修理工事

点検業務において発見された不良個所及び経常的に生じる不具合や損耗について、事故等の発生の防止を目的として担当職員の指示により実施する小規模な修繕工事。

(6)　公的機関等の立会い等

主任技術者は、管理技術者への担当職員からの指示に基づき、保健所等公的機関における立入り検査等において、現地立会いを行う業務。

また、水道技術管理者が実施する巡回視察においては、管理技術者が立会いを行うものとし、その場合は施設規模に関わらず実施するものとする。

(7)　施設検査（法定検査）

簡易専用水道施設について、水道法第 34 条の２第２項、同法施行規則第 56 条に基づく検査を行う業務。

なお、検査は厚生労働大臣の登録を受けた検査機関へ依頼し、(6)に基づき立会うものとし、検査結果を担当職員へ報告する。

【※条例等で別途検査が規定されている場合は追記すること。】

4　業務の実施等

(1)　点検班の構成等

受注者は業務の実施に際し業務区分毎の業務担当者による点検を行うものとし、点検班の編成表、業務担当者名簿（別添様式２）、緊急事故連絡先一覧表（任意様式）及び資格証の写しを契約後速やかに発注者に提出すること。

なお、受注者は業務担当者の変更、資格の喪失等によりその内容が変更となる場合は速やかに発注者に報告するものとする。

(2)　点検実施計画書等

受注者は、業務の実施に先立ち、あらかじめ次の内容について、担当職員と協議を行い「施設点検計画表」（別添様式１）を作成し、担当職員からその承諾を受けるものとする。

① 施設内の清掃と敷地内の清掃等や水道の汚染防止に関すること。
② 図面等の整備に関すること。
③ 水質検査の記録の保存に関すること。
④ 断水時等の対応について
⑤ 感染症に関すること。
⑥ 衛生管理や定期の健康診断に関すること。
⑦ 施設内の工事等立会いに関すること。
⑧ その他

(3)　業務の実施

受注者は、業務の工程を「施設点検計画表」（別添様式１）を標準として、実施するものとする。

(4)　業務の実施時間等

受注者は、原則として甲の就業時間内に業務を実施するものとし、月曜日～土曜日において行うものとする。但し、緊急事故対応、応急処置等を施す業務の実務時間については、この限りではない。

なお、緊急事故対応は緊急通報を受けた時点より速やかに担当者現地へ到着、対応するものとする。

(5)　官公庁等への協議、届出等

受注者は、業務の実施に当たり、所轄保健所等及び担当職員へ遅滞なく必要な協議、報告等

を行うものとする。

(6)　保安用具等の整備、着用

受注者は、労働安全衛生規則に基づき保安用具等の整備し、絶縁用保護具を用いて、業務を実施するものとする。

(7)　遵守義務

業務に従事する者は、担当職員が水質維持等のためにする指示に従わなければならない。

5　管理技術者、業務担当者の区分・資格等

受注者は、共通仕様書の別表 3-1「業務区分と資格要件(給水施設)」に従いそれぞれの業務について、資格を有する者に業務を実施させるものとする。

6　安全対策

受注者は、業務に従事する者以外の立入りを防ぐ措置及び危険箇所の危険表示等について、担当職員の指示により防護処置を行うものとする。

7　運転操作等

給水施設の運転又は停止等を行う場合は、事前に担当職員に指示を受け実施することとし、その対象となる住戸に対し共用部分への周知ビラの掲示・広報を行うこと。

なお、運転・停止とは計画又は緊急事故等において施設の運転又は停止作業を実施し、居住者の生活に支障が発生する場合をいう。

8　応急措置等

受注者は、緊急事故が発生した場合、ただちに作業を中止し、応急措置を講じるとともに、管理技術者は担当職員に報告するものとする。

9　工具の携行

(1)　受注者は、業務の実施に当り、必要な測定器及び工具等を携行するものとする。

(2)　受注者は、業務の実施に当り測定に使用する計器類は、事前に計器校正を行ったものを使用するものとする。

(3)　受注者は、業務を処理するために要する水質検査器具、薬剤、燃料等の消耗品に係る費用については、発注者と協議のうえ、別途請求できるものとする。

10　業務の報告

受注者は、次のとおり業務結果の報告を行うものとする。報告時期は発注者の定める時期に対して行うこととするが、安全上、緊急性が高いと判断されるものについては、速やかに担当職員に報告するとともに、その対応等について指示を受けるものとする。

(1)　給水施設管理日報の報告

施設ごとの業務が終了したときは、別表 6「給水施設管理日報」により報告するものとする。

(2)　給水施設管理月報の報告

業務を完了したときは、別表 7「給水施設管理月報」により報告するものとする。

(3)　日例水質検査の報告

業務を完了したときは、発注者が指示した様式により報告するものとする

(4)　定期水質検査の報告

業務を完了したときは、公立の保健所、厚生労働大臣認定の試験機関及び水道法第 20 条に規定する認定機関により水質検査を行い、その結果を報告するものとする。(簡易専用水道施設、小規模水道施設が対象)

(5)　事故処理の報告

業務を完了したときは、その都度、別表８「給水等施設事故処理報告書」により報告するものとする。

(6)　不具合箇所の報告

業務を完了したときは、その都度、別表９「不具合箇所報告書」により報告するものとする。

(7)　業務報告日等

上記(1)～(6)の業務報告日については、担当職員の指示を受けるものとする。

11　居住者への周知等

受注者は、緊急事故時により停電、断水等が発生する場合は、発注者の指示によりあらかじめ影響を及ぼす全ての住戸にチラシ等の方法により、速やかに当該住戸に周知を行う。また、作業完了後についても各住戸について、 復旧後に事故等が発生しないことを確認すること。なお、周知に要する費用については、発注者と協議のうえ、別途請求できるものとする。

12　その他

(1)　施設に立入る場合は必ず手指をアルコール等で消毒すること。

(2)　施設に立入る者に対しては、水道法第 21 条及び同法施行規則第 16 条に規定する健康診断を受診し、適合の証明書を担当職員へ提出していることを確認する。

(3)　水道事業体等の工事に伴う立会い等、点検業務以外での断水や濁水防止の措置としてバルブ操作を行うこと。この場合の費用については別途精算する。

(4)　発注者が作成する水質検査計画書のための基礎資料の整備を行うこと。

(5)　水質に異常の疑いがある時は、直ちに担当職員に報告を行い、指示を受け採水、検査を行うこと。但し、検査費用は別途精算する。

以　上

別添様式1

施設点検計画表　　　　　　　　平成　　　　年度

施設名	週 曜日 担当者職種・氏名		第1週							第2週							第3週							第4週							備　　考
			日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	

別添様式２

業　務　担　当　者　名　簿

平成　年　月　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

〇〇株式会社

給水施設維持管理業務の業務担当者を以下のとおり提出します。

区分 （主任技術者、技術員等）	業務担当者 （氏名）	職種	資　　格

給水施設一覧表

別 表 1

エリア	団地名称	[基本情報]						[量水器]	[ポンプ]			[受水槽]	[高置・高架水槽]			受水槽清掃実施年度等					[連絡形態・付帯情報]
		施設名称	給水戸数	賃貸戸数	給水種別名称	給水方式名称	流量制御方式名称	工水中水施設名称	ポンプ台数	増圧ポンプ台数	排水ポンプ台数	受水槽総容量(m3)	高置高架水槽有無名称	高置高架水槽基数	高置高架水槽総容量(m3)	29年度	30年度	31年度	直近実施(予定)時期	非常用装置名称	警報種別名称
	黒原	黒原市街地	140	140	簡易専用	蓄圧タンク	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	37.5	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	徳力	徳力	2,405	2,325	専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	3	0	0	546	高架	1	115	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
	志徳	志徳1～28棟	984	984	専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	396	高架	1	68	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
		志徳29～37棟	226	226	専用	高置	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	221	高架	1	17.5	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
	もりつね	もりつね	330	330	専用	圧送	インバータ制御	無	3	0	0	488	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
		もりつね,ｸﾞﾘｰﾝﾀｳﾝもりつね	224	60	簡易専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	104	高架	1	32	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ片野	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ片野2棟～3棟	218	218	簡易専用	圧送	インバータ制御	無	2	0	0	99	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
		ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ片野4棟	42	42	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ足立	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ足立21棟	85	85	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	2	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ足立公園	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ足立公園	45	45	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ足立妙見通り	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ足立妙見通り	45	45	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	大谷	大谷	256	256	簡易専用(間	高架	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	0	高架	1	48	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	天神町	天神町市街地	47	47	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	沢見	沢見市街地	44	44	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	原町	原町	60	60	簡易専用	蓄圧タンク	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	24	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	西中央	西中央市街地	104	104	簡易専用	蓄圧タンク	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	36	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	萩原	萩原	430	430	簡易専用	圧送	インバータ制御	無	2	0	0	168	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	引野	引野市街地	33	33	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	梅ノ木	梅ノ木	1,080	880	専用	圧送	インバータ制御	無	3	0	0	336	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	本城西	本城西市街地1棟	82	82	簡易専用	高置	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	59	高置	1	10	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
		本城西市街地2～4棟	171	171	簡易専用	高置	無(ON,OFFのみ)	無	3	0	0	96	高置	2	12	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	紅梅	紅梅市街地16棟	161	161	小規模(間接	高置	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	0	高置	1	12	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
		紅梅市街地24～26棟	143	143	小規模(間接	高置	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	0	高置	1	8	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
	小鷺田公園	小鷺田公園	106	106	増圧直結	その他	インバータ制御	無	3	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	枝光	枝光11～12棟	40	40	簡易専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	41	高置	1	4.5	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
		枝光13～15棟	80	80	簡易専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	58	高置	1	8	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2)
	ｻﾝﾊｲﾂ枝光	ｻﾝﾊｲﾂ枝光	95	95	簡易専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	4	0	0	100	高置	2	9	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	ｻﾝﾊｲﾂ前田	ｻﾝﾊｲﾂ前田	210	210	簡易専用	高置	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	111	高置	1	24	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	沖台二丁目	沖台二丁目市街地1～2棟	60	60	簡易専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	51	高置	1	9.9	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
		沖台二丁目市街地3～5棟	100	100	簡易専用	蓄圧タンク	無(ON,OFFのみ)	無	4	0	0	95	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	黒崎平尾町	黒崎平尾町	160	160	簡易専用	高置＋蓄圧	無(ON,OFFのみ)	無	4	0	0	108	高置	1	8.7	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	ルネス相生町	ルネス相生町	30	30	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ穴生(穴生)	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ穴生1棟～2棟	83	83	簡易専用	圧送	インバータ制御	無	2	0	0	57	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
		ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ穴生3棟～4棟,穴生18棟	81	81	簡易専用	圧送	インバータ制御	無	2	0	0	57	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	槻田	槻田	176	64	簡易専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	56	高架	1	15	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	清滝第二	清滝第2市街地	60	60	簡易専用	蓄圧タンク	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	2	15	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	昭和町	昭和町市街地	176	176	増圧直結	その他	インバータ制御	無	4	0	2	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	金田一丁目	金田一丁目市街地4～7棟	581	581	専用	高置＋増圧	無(ON,OFFのみ)	無	5	6	0	234	高置	5	20	○	○	○	H28.6	発電設備	遠隔制御(L2N)
		金田一丁目市街地8～9棟	162	162	簡易専用	高置＋増圧	無(ON,OFFのみ)	無	3	4	0	77	高置	2	16	○	○	○	H28.6	発電設備(4～7棟より)	遠隔制御(L2)
	東門司一丁目	東門司一丁目市街地	88	88	小規模(間接	高置	インバータ制御	無	2	0	2	0	高置	1	6	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	大手町	大手町市街地	54	54	小規模(間接	高置	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	0	高置	1	8	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	金鶏	金鶏	128	128	簡易専用	圧送	インバータ制御	無	3	0	0	87	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	白銀一丁目	白銀一丁目市街地	60	60	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	2	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	金田一丁目第二	金田一丁目第2市街地	272	272	専用	高置	無(ON,OFFのみ)	無	3	0	1	202	高置	2	20	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	栄町	栄町市街地	99	99	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	遠隔制御(L2)
	黄金二丁目	黄金二丁目市街地	104	104	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	遠隔制御(L2)
	到津南	到津南市街地1～2棟	140	140	簡易専用	高置	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	89	高置	1	18	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
		到津南市街地18棟	45	45	簡易専用	高架	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	35	高置	1	5.7	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	ﾊﾟｰｸﾀｳﾝ大手町	ﾊﾟｰｸﾀｳﾝ大手町2棟	158	158	簡易専用	高置＋蓄圧	無(ON,OFFのみ)	無	4	0	0	95	高置	1	15	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	ｱｰﾍﾞｲﾝ大手町	ｱｰﾍﾞｲﾝ大手町	178	178	簡易専用	圧送	インバータ制御	無	2	0	2	108	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ白銀	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ白銀1～2棟	169	169	簡易専用	圧送	インバータ制御	無	2	0	0	79	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
		ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ白銀3棟	42	42	増圧直結	その他	インバータ制御	無	2	0	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ大門	ｱｰﾍﾞｲﾝﾙﾈｽ大門	78	78	増圧直結	圧送	インバータ制御	無	2	2	0	0	無	0	0					無	自動通報(L3)
	南大坪	南大坪市街地	88	88	簡易専用	蓄圧タンク	無(ON,OFFのみ)	無	2	0	0	30	無	0	0	○	○	○	H28.6	無	自動通報(L3)
	周陽二丁目	周陽二丁目	350	350	専用	高置＋増圧	無(ON,OFFのみ)	無	4	2	0	184	高置	2	19.4	○	○	○	H28.6	無	遠隔制御(L2N)
	新下関	新下関	795	795	専用	圧送	インバータ制御	無	3	0	0	494	無	0	0	○	○	○	H28.6	発電設備	遠隔制御(L2N)

専用水道施設、簡易専用水道施設維持管理表　（施設名称：　　）

別表　2　　No.1

項目		清掃整理整頓	目視点検	動作確認	調整	点検内容	1年点検	1ヶ月点検	日常点検	チェック欄
量水器（親ﾒｰﾀｰ）	・量水器及び量水器ボックスの異常の有無の点検	●				・清掃（土、ごみなどの除去）			●	
			●			・水漏れ、ガラス部の破損、量水器箱内汚れ、水溜り確認・清掃等			●	
	・使用水量は点検の都度記録し、使用水量の変動確認		●			・指針の作動時の状況（遅速、乱行、不進行）確認			●	
			●			・指針値の記録			●	
			●			・給水量（月単位）、電気使用量との比較		●		
受水槽	・水槽内の汚れ等の状況、また槽外よりの汚染の恐れの有無の点検	●				・周辺の清掃、整理整頓			●	
			●			・槽外の点検(目視)			●	
			●			・水槽内の汚れの状況(目視)			●	
			●			・受水槽清掃時に槽内部の破損、水漏れ、亀裂、雨水の浸入等状況点検	●			
	・水位制御装置に破損、損傷、著しい腐食の有無の点検		●			・電極ボックス及び電極(錆、腐食、欠落）の確認		●		
				●		・電極長の確認	●			
				●		・ボールタップの水漏れ、詰まり、作動の確認		●		
			●			・電磁弁の作動状況を確認する（異音、振動、過熱等）			●	
			●			・水位制御機器のケーブル類との接続の点検		●		
			●			・受水槽清掃時槽内部より点検	●			
				●		・ボールタップの動作、バルブ開閉		●		
				●		・電磁弁、バルブ開閉		●		
	・定水位弁等の作動状態を点検・確認			●		・定水位弁動作確認(定水位弁の動作音など)		●		
				●		・定水位弁動作確認(電磁弁の動作に異常がないか点検する)			●	
				●		・定水位弁動作確認(副弁ボールタップ開に異常がないか点検する)			●	
				●		・定水位弁停止時間測定		●		
	・オーバーブロー管、通気管、水抜管の防虫網の目詰まり破損等があれば清掃または取替を行う	●				・防虫網の清掃		●		
			●			・防虫網の破損等の応急処置			●	
					●	・防虫網の修理又は取替		●		
			●			・吐水口空間・クロスコネクションの確認	●			
	・マンホール、タラップ、基礎、架台等の異常の有無の点検		●			・マンホール、蓋等の施錠確認		●		
			●			・マンホール、蓋等のパッキンの劣化状況の確認		●		
			●			・外観の点検（著しい腐食、破損、損傷）		●		
			●			・外観の点検（槽内の確認含む）		●		
高置・高架水槽・中間水槽	・水槽内の汚れ等の状況、槽外からの汚染の恐れの有無の点検	●				・周辺の清掃、整理整頓		●		
			●			・槽外の点検(目視)		●		
			●			・水槽内の汚れの状況(目視)		●		
			●			・受水槽清掃時に槽内部の破損、水漏れ、亀裂、雨水の浸入等状況点検	●			
	・水位制御装置に破損、損傷の有無の点検		●			・電極ボックス及び電極(錆、腐食、欠落）の確認		●		
				●		・電極長の確認	●			
	・水位制御機器のケーブル類との接続状態の確認		●			・水位制御機器のケーブル類との接続の点検		●		
	・オーバーブロー管、通気管、水抜管の防虫網の目詰まり破損等の有無の確認	●				・防虫網の清掃		●		
			●			・防虫網の破損等		●		
					●	・防虫網の修理又は取替		●		
	・マンホール、タラップ、基礎、架台等の異常の有無の点検		●			・マンホール、蓋等の施錠確認		●		
			●			・外観の点検（著しい腐食、破損、損傷）		●		
			●			・外観の点検（槽内の確認含む）		●		
配管及び弁類	・配管、弁類の漏水、腐食等の有無の点検		●			・水漏れ、著しい腐食、軽微な塗装補修			●	
給水施設の露出配管	・フート弁開閉		●			・水落ち（止水状況を点検する）			●	
	・フート弁開閉時のワイヤーの作動確認			●		・受水槽清掃時にフート弁のワイヤの劣化状態の確認	●			
	・支持金具のゆるみ、調整を行う				●	・支持金具締め付け		●		
	・弁類を動作確認及び調整			●		・受水槽清掃時に必要なバルブの動作確認	●			
	・逆止弁の点検			●		・水漏れ、動作確認		●		
	・減圧弁、一次圧力調整弁の点検		●			・圧力計指示値の確認、異常な音の確認		●		
	・集中減圧弁の点検		●			・異常な音（1次２次側の圧力確認）		●		
	・フレキ管の点検		●			・亀裂等の有無の確認		●		
	・防露、塗装の損傷等の確認		●			・外観の点検（剥がれ、著しい腐食、破損）		●		
ポンプ類（排水ポンプ含む）	共通架台の排水口の清掃	●				・詰まり清掃			●	
	・ポンプの外観、音、振動、温度		●			・本体の著しい腐食、軸受け部、運転中、開始、停止等の異常の有無の確認			●	
	ポンプの圧力計、電流計の指示等の点検			●		・電流計、圧力計の確認			●	
	・空気抜きコックの動作の点検、調整				●	・その都度コックを調整しエアを抜く			●	
	・基礎、架台等の異常の有無の点検		●			・外観の点検（破損、損傷）			●	
	・水封部（グランドパッキンなど）の磨耗等を点検、調整		●			・異常でないこと（適下量、熱）			●	
					●	・調整			●	
					●	・劣化時取替		●		
	・カップリングの磨耗等を点検		●			・取付け状態、著しい偏芯、発熱等の有無の確認			●	
			●			・ポンプの芯だし確認	●			
	・複数のポンプが設置されている場合は、各ポンプの運転時間が均等になるように操作する			●		・適切にポンプ切替操作の作動確認			●	
	・ポンプの追従運転の確認			●		・追従運転の確認（追従運転が可能な施設）			●	
	・潤滑油、グリースの残量、劣化等を点検、調整		●			・軸受けの油、グリース量、劣化程度の異常の有無の確認		●		
					●	・補充（一体型を除く）		●		
電動機	・異常、異臭及び異常な温度上昇の有無の点検		●						●	
	・回転方向の確認		●			・概ね１月ごと		●		

項目		清掃・整理・整頓	目視点検	動作確認	調整	点検内容	1年点検	1ヶ月点検	日常点検	チェック欄
圧力タンク方式 （蓄圧タンク、セットフロー方式含む）	・圧力スイッチの動作確認		●			・設定値との確認			●	
	・圧力スイッチの設定値の調整				●	・設定値を正常な値にする			●	
	・自動起動・停止の確認			●		・起動・停止の動作確認（屋上設置含む）			●	
				●		・屋上に圧力タンク等が設置されている場合		●		
	・自動空気補給装置の動作確認			●		・空気補給器の動作確認		●		
	・タンク外部の水漏れ、著しい腐食の有無の点検		●			・タンク外部の水漏れ、著しい腐食の点検			●	
	・電磁弁の異常の有無の点検		●			・電磁弁の開閉確認		●		
	・安全弁等の安全装置の点検		●			・変形、損傷、水漏れの有無の確認			●	
	・始動頻度の点検			●		・始動頻度の確認		●		
	・蓄圧タンク、ヘッダー、附属配管等の漏水、亀裂、ガタ、著しい腐食の有無の点検		●			・外観点検（目視）			●	
インバータ方式	・盤内及び周囲環境の確認		●			・温度、湿度、塵埃の確認			●	
	・装置全般の異常振動、音の有無の点検		●			・うなり、異常発熱			●	
	・冷却ファンの清掃及び異常振動、音の有無の点検		●			・冷却ファン・フィルターのごみ詰まりの除去、ファンの回転確認			●	
	・電動機の振動、騒音、温度等の点検		●			・異常音			●	
	・圧力タンク内の封入圧の確認（少水量停止用）			●		・エアゲージにて封入圧を確認、補充		●		
	・追従運転の確認			●		・追従運転確認（追従試験が可能な施設）		●		
	・過熱防止弁は正常か		●			・水漏れ、腐食、詰まりの有無の確認		●		
計測機器類	・流量計		●			・計器類の指針の記録・点検			●	
	・送水圧計		●			・計器類の指針の記録・点検			●	
	・自動記録計の作動確認			●		・作動状態の確認			●	
					●	・インキ不足の場合は補充、取替			●	
滅菌装置	・＜常時使用している施設＞ 注入ポンプの作動状況の点検、調整 注入量と濃度の点検、調整 注入管のつまり等の有無の点検			●		・液漏れ、動作確認			●	
					●	・必要に応じ修理及び取替		●		
			●			・薬液使用量の記録、必要な都度補充及び薬液管理			●	
					●	・詰まりの確認		●		
	・＜緊急時使用する施設＞ 薬液を点検、補充		●			・漏れ、破損していないか点検（目視の範囲）		●		
					●	・薬液管理（必要な都度）必要な都度補充及び薬液管理			●	
	作動確認			●		・正常に動作しているか確認			●	
非常用エンジン	・適宜試運転を行い、音、振動、計器類の指示、排気管、排気の状態を確認負荷運転をする		●			・音、振動、計器類の確認		●		
				●		・運転状況の点検　月１回起動状況確認		●		
	・燃料油は原則として、３時間程度運転できる量を確保				●	・燃料の保管状況の確認、給油、給油量の記録			●	
	・バッテリー液の量及び比重電圧を試運転前に点検、調整				●	・バッテリー異常の確認、液の確認、補充		●		
	・注油、オイル交換、クリーナー類の清掃並びに交換	●				・清掃			●	
					●	・オイルの確認、クリーナー類の清掃		●		
	・冷却水には冬場に予想される低気温に応じた量の不凍液を注入する（水道水冷却の場合はボールタップの点検とタンク内の発錆状況の確認と清掃を行う。				●	・補充		●		
	・全般的な確認をする（警報等の作動試験を含む）			●		・非常用エンジン総合点検（エンジンオイルの量や汚れ、冷却水は量や汚れ及び漏れ、駆動用ベルトの張り損傷具合、損傷、及び取り付け状態、焼損等を点検）	●			
					●		●			

小規模水道施設維持管理表 （施設名称 ：　　）

別表　3　№.1

項目		清掃整理整頓	目視点検	動作確認	調整	点検内容	1年点検	1ヶ月点検	チェック欄
量水器（親ﾒｰﾀｰ）	・量水器及び量水器ボックスの異常の有無の点検	●				・清掃（土、ごみなどの除去）		●	
			●			・水漏れ、ガラス部の破損、量水器箱内汚れ、水溜り確認・清掃等		●	
	・使用水量は点検の都度記録し、使用水量の変動確認		●			・指針の作動時の状況（遅速、乱行、不進行）確認		●	
			●			・指針値の記録		●	
			●			・給水量（月単位）、電気使用量との比較		●	
受水槽	・水槽内の汚れ等の状況、また槽外よりの汚染の恐れの有無の点検	●				・周辺の清掃、整理整頓		●	
			●			・槽外の点検（目視）		●	
			●			・水槽内の汚れの状況（目視）		●	
			●			・受水槽清掃時に槽内部の破損、水漏れ、亀裂、雨水の浸入等状況点検	●		
	・水位制御装置に破損、損傷、著しい腐食の有無の点検		●			・電極ボックス及び電極（錆、腐食、欠落）の確認		●	
				●		・電極長の確認	●		
				●		・ボールタップの水漏れ、詰まり、作動の確認		●	
			●			・電磁弁の作動状況を確認する（異音、振動、過熱等）		●	
			●			・水位制御機器のケーブル類との接続の点検		●	
			●			・受水槽清掃時槽内部より点検	●		
				●		・ボールタップの動作、バルブ開閉		●	
				●		・電磁弁、バルブ開閉		●	
	・定水位弁等の作動状態を点検・確認			●		・定水位弁動作確認（定水位弁の動作音など）		●	
				●		・定水位弁動作確認（電磁弁の動作に異常がないか点検する）		●	
				●		・定水位弁動作確認（副弁ボールタップ開に異常がないか点検する）		●	
				●		・定水位弁停止時間測定		●	
	・オーバーブロー管、通気管、水抜管の防虫網の目詰まり破損等があれば清掃または取替を行う	●				・防虫網の清掃		●	
			●			・防虫網の破損等の応急処置		●	
					●	・防虫網の修理又は取替		●	
			●			・吐水口空間・クロスコネクションの確認	●		
	・マンホール、タラップ、基礎、架台等の異常の有無の点検		●			・マンホール、蓋等の施錠確認		●	
			●			・マンホール、蓋等のパッキンの劣化状況の確認		●	
			●			・外観の点検（著しい腐食、破損、損傷）		●	
			●			・外観の点検（槽内の確認含む）		●	
高置・高架水槽・中間水槽	・水槽内の汚れ等の状況、槽外からの汚染の恐れの有無の点検	●				・周辺の清掃、整理整頓		●	
			●			・槽外の点検（目視）		●	
			●			・水槽内の汚れの状況（目視）		●	
			●			・受水槽清掃時に槽内部の破損、水漏れ、亀裂、雨水の浸入等状況点検	●		
	・水位制御装置に破損、損傷の有無の点検		●			・電極ボックス及び電極（錆、腐食、欠落）の確認		●	
				●		・電極長の確認	●		
	・水位制御機器のケーブル類との接続状態の確認		●			・水位制御機器のケーブル類との接続の点検		●	
	・オーバーブロー管、通気管、水抜管の防虫網の目詰まり破損等の有無の確認	●				・防虫網の清掃		●	
			●			・防虫網の破損等		●	
					●	・防虫網の修理又は取替		●	
	・マンホール、タラップ、基礎、架台等の異常の有無の点検		●			・マンホール、蓋等の施錠確認		●	
			●			・外観の点検（著しい腐食、破損、損傷）		●	
			●			・外観の点検（槽内の確認含む）		●	
配管及び弁類 給水施設の露出配管	・配管、弁類の漏水、腐食等の有無の点検		●			・水漏れ、著しい腐食、軽微な塗装補修		●	
	・フート弁開閉		●			・水落ち（止水状況を点検する）		●	
	・フート弁開閉時のワイヤーの作動確認			●		・受水槽清掃時にフート弁のワイヤの劣化状態の確認	●		
	・支持金具のゆるみ、調整を行う				●	・支持金具締め付け		●	
	・弁類を動作確認及び調整			●		・受水槽清掃時に必要なバルブの動作確認	●		
	・逆止弁の点検			●		・水漏れ、動作確認		●	
	・減圧弁、一次圧力調整弁の点検		●			・圧力計指示値の確認、異常な音の確認		●	
	・集中減圧弁の点検		●			・異常な音（1次２次側の圧力確認）		●	
	・フレキ管の点検		●			・亀裂等の有無の確認		●	
	・防露、塗装の損傷等の確認		●			・外観の点検（剥がれ、著しい腐食、破損）		●	
ポンプ類 （排水ポンプ含む）	共通架台の排水口の清掃	●				・詰まり清掃		●	
	・ポンプの外観、音、振動、温度		●			・本体の著しい腐食、軸受け部、運転中、開始、停止等の異常の有無の確認		●	
	ポンプの圧力計、電流計の指示等の点検			●		・電流計、圧力計の確認		●	
	・空気抜きコックの動作の点検、調整				●	・その都度コックを調整しエアを抜く		●	
	・基礎、架台等の異常の有無の点検		●			・外観の点検（破損、損傷）		●	
	・水封部（グランドパッキンなど）の磨耗等を点検、調整		●			・異常でないこと（適下量、熱）		●	
					●	・調整		●	
					●	・劣化時取替		●	
	・カップリングの磨耗等を点検		●			・取付け状態、著しい偏芯、発熱等の有無の確認		●	
			●			・ポンプの芯だし確認	●		
	・複数のポンプが設置されている場合は、各ポンプの運転時間が均等になるように操作する			●		・適切にポンプ切替操作の作動確認		●	
	・ポンプの追従運転の確認			●		・追従運転の確認（追従運転が可能な施設）		●	
	・潤滑油、グリースの残量、劣化等を点検、調整		●			・軸受けの油、グリース量、劣化程度の異常の有無の確認		●	
					●	・補充（一体型を除く）		●	
電動機	・異常、異臭及び異常な温度上昇の有無の点検		●					●	
	・回転方向の確認		●			・概ね１月ごと		●	

項目		清掃・整理・整頓	目視点検	動作確認	調整	点検内容	1年点検	1ヶ月点検	チェック欄
圧力タンク方式 （蓄圧タンク、セットフロー方式含む）	・圧力スイッチの動作確認		●			・設定値との確認		●	
	・圧力スイッチの設定値の調整				●	・設定値を正常な値にする		●	
	・自動起動・停止の確認			●		・起動・停止の動作確認（屋上設置含む）		●	
				●		・屋上に圧力タンク等が設置されている場合		●	
	・自動空気補給装置の動作確認			●		・空気補給器の動作確認		●	
	・タンク外部の水漏れ、著しい腐食の有無の点検		●			・タンク外部の水漏れ、著しい腐食の点検		●	
	・電磁弁の異常の有無の点検		●			・電磁弁の開閉確認		●	
	・安全弁等の安全装置の点検		●			・変形、損傷、水漏れの有無の確認		●	
	・始動頻度の点検			●		・始動頻度の確認		●	
	・蓄圧タンク、ヘッダー、附属配管等の漏水、亀裂、ガタ、著しい腐食の有無の点検		●			・外観点検（目視）		●	
インバータ方式	・盤内及び周囲環境の確認		●			・温度、湿度、塵埃の確認		●	
	・装置全般の異常振動、音の有無の点検		●			・うなり、異常発熱		●	
	・冷却ファンの清掃及び異常振動、音の有無の点検		●			・冷却ファン・フィルターのごみ詰まりの除去、ファンの回転確認		●	
	・電動機の振動、騒音、温度等の点検		●			・異常音		●	
	・圧力タンク内の封入圧の確認（少水量停止用）			●		・エアゲージにて封入圧を確認、補充		●	
	・追従運転の確認			●		・追従運転確認（追従試験が可能な施設）		●	
	・過熱防止弁は正常か		●			・水漏れ、腐食、詰まりの有無の確認		●	
計測機器類	・流量計		●			・計器類の指針の記録・点検		●	
	・送水圧計		●			・計器類の指針の記録・点検		●	
	・自動記録計の作動確認			●		・作動状態の確認		●	
					●	・インキ不足の場合は補充、取替		●	
滅菌装置	・＜常時使用している施設＞ 注入ポンプの作動状況の点検、調整 注入量と濃度の点検、調整 注入管のつまり等の有無の点検			●		・液漏れ、動作確認		●	
					●	・必要に応じ修理及び取替		●	
			●			・薬液使用量の記録、必要な都度補充及び薬液管理		●	
					●	・詰まりの確認		●	
	・＜緊急時使用する施設＞ 薬液を点検、補充		●			・漏れ、破損していないか点検（目視の範囲）		●	
					●	・薬液管理（必要な都度）必要な都度補充及び薬液管理		●	
	作動確認			●		・正常に動作しているか確認		●	
非常用エンジン	・適宜試運転を行い、音、振動、計器類の指示、排気管、排気の状態を確認負荷運転をする		●			・音、振動、計器類の確認		●	
				●		・運転状況の点検　月１回起動状況確認		●	
	・燃料油は原則として、３時間程度運転できる量を確保				●	・燃料の保管状況の確認、給油、給油量の記録		●	
	・バッテリー液の量及び比重電圧を試運転前に点検、調整				●	・バッテリー異常の確認、液の確認、補充		●	
	・注油、オイル交換、クリーナー類の清掃並びに交換	●				・清掃		●	
					●	・オイルの確認、クリーナー類の清掃		●	
	・冷却水には冬場に予想される低気温に応じた量の不凍液を注入する（水道水冷却の場合はボールタップの点検とタンク内の発錆状況の確認と清掃を行う。				●	・補充		●	
	・全般的な確認をする（警報等の作動試験を含む）			●		・非常用エンジン総合点検（エンジンオイルの量や汚れ、冷却水は量や汚れ及び漏れ、駆動用ベルトの張り損傷具合、損傷、及び取り付け状態、焼損等を点検）	●		
					●		●		

別表　4

直結増圧給水施設　維持管理表(施設名称：　　)

項目		清掃整理整頓	目視点検	動作確認	調整	点検内容	1年点検	3ヶ月点検	チェック欄
量水器	外観		●			量水器及び量水器ボックス周辺の漏水確認		●	
(親ﾒｰﾀｰ)			●			量水器及び量水器ボックスの異常の有無を確認		●	
			●			使用水量は点検の都度記録し使用水量の変動確認		●	
ユニット部	逆流防止弁		●			漏水確認		●	
				●		差圧試験による逆流の有無の確認 ※単式で点検により断水が生じる場合は、担当職員と居住者への周知方法等につき事前に協議する事	●		
			●			逃し弁からの漏水確認		●	
	ストレーナ		●			水漏れ等の有無の確認		●	
					●	分解清掃（断水が生じる場合は目視点検のみ）	●		
	仕切弁		●			漏水確認		●	
	ドレン配管		●			詰まり等の有無の確認		●	
	圧力タンク		●			水漏れ、損傷等の有無の確認		●	
	圧力センサ		●			設定圧力と計器指針との差異を確認		●	
	外観		●			腐食・損傷・水漏れ等の有無の確認		●	
配管及び弁類	配管・接続部		●			漏水、腐食、損傷、剥離、結露等の有無の確認		●	
	保温材		●			損傷、剥離の有無の確認		●	
	フレキ		●			漏水、腐食、損傷、剥離、結露等の有無の確認		●	
	逆止弁・仕切弁		●			漏水、腐食、剥離、結露等の有無の確認		●	
	支持金物		●			損傷、剥離、腐食の有無の確認		●	
			●			支持金物・伸縮管・配管等の異常の有無の確認		●	
	架台		●			損傷、変形等異常の有無の確認		●	
ポンプ類	軸封部		●			メカニカルシールからの漏水確認		●	
	軸受部		●			作動状態及び異常音の有無の確認		●	
	発熱		●			発熱等異常の有無の確認		●	
	振動・発熱		●			振動及び発熱等の異常の有無の確認		●	
	外観		●			腐食・損傷、塗装剥離等の有無の確認		●	
制御装置	アースの接続		●			アースの接続状態の確認	●		
	インバータ		●			異常音、発熱の有無の確認		●	
	コントローラ			●		ポンプ故障による飛越運転を確認		●	
			●			起動回数の確認（各号機の起動回数のばらつきを確認）		●	
	デジタル表示器		●			表示確認		●	
	端子台			●		ハーモニカ端子に緩み等の有無の確認	●		
	外観		●			腐食・損傷・塗装剥離等の有無の確認		●	
運転状況・調整	絶縁抵抗			●		メガテスターで絶縁（1MΩ以上）の確認（モーター部分かつ測定可能な場合に限る）	●		
警報機器	発報確認			●		年4回通報テストを実施		●	
	外観		●			剥離、結露、損傷、腐食の有無の確認		●	
盤関係の点検調整			●			表示灯の点検調整及び取替		●	
			●			計器指針の適否及び記録		●	
	照明設備			●		点灯確認（照明設備がある場合）		●	
		●				清掃		●	

別表５　一般電気工作物維持管理表(給水施設)

＊点検内容の確認については、特別な指示がない場合を除き目視点検とする。

点検項目	点検内容	点検周期	点検内容	点検周期	点検内容	測定	点検周期
低圧架空引込線	①引込線が損傷していないか点検する。 ②造営物、弱電流電線などに接触していないか確認する。	特記仕様書3(1)による	①引込線にたるみ、緩みがないか点検を行う。	１回／月以上	①がいしに緩みがないか点検及び清掃を行う。		１回／年以上
制御盤	①各種計器の指針は適正か確認する。 ②表示灯の損傷、球切れはないか点検する。 （必要に応じ、球の取替えを行う） ③開閉器の損傷等がないか点検する。 ④電磁接触器の損傷等がないか点検する。 ⑤補助リレーの損傷等がないか点検する。 ⑥低圧コンデサーの損傷等がないか点検する。 ⑦接地線の損傷、断線等がないか、また、接続は確実か点検する。 ⑧導電部が変色、過熱等してないか点検する。 ⑨ヒューズが破損、損傷等していないか点検する。	特記仕様書3(1)による	①電磁接触器の動作状態を点検する。 ②補助リレーの動作状態を点検する。 ③配線の損傷、接続部の緩みがないか点検を行う。 ④盤内外の清掃を行う。	１回／月以上	①各部端子に緩みがないか点検を行う。	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定	１回／年以上
計装盤	①補助リレーの損傷等がないか点検する。 ②接地線の損傷、断線等がないか、また、接続は確実か点検する。	特記仕様書3(1)による	①補助リレーの動作状態を点検する。 ②配線の損傷、接続部の緩みがないか点検を行う。 ③盤内外の清掃を行う。	１回／月以上	①各部端子に緩みがないか点検を行う。	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定	１回／年以上
電動機	①異常、異臭及び加熱がないか点検する。 ②ケーブル類との接続は、確実になされているか点検する。 ③回転方向が正常か点検する。	特記仕様書3(1)による	①配線が損傷、接続部の緩みがないか点検を行う。 ②潤滑油の点検、注油を行う。 ③各部清掃を行う。	１回／月以上	①各部端子に緩みがないか点検を行う。	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定	１回／年以上
水位制御機器	①破損、損傷等していないか点検する。 ②ケーブル類との接続は、確実になされているか点検する。	特記仕様書3(1)による	①動作試験調整を行う。 （受水層、高置・高架水槽等）	１回／月以上			
電磁弁	①破損、損傷等していないか点検する。 ②異音、異常振動、異常加熱等がないか点検する。	特記仕様書3(1)による	①動作試験調整を行う。	１回／月以上			
換気扇	①破損、損傷等していないか点検する。	特記仕様書3(1)による					
乾式変圧器	①破損、損傷等していないか点検する。 ②異音、異常振動、異常加熱等がないか点検する。 ③接地線の損傷、断線等がないか、また、接続は確実か点検する。	特記仕様書3(1)による			①口出線の接続場所、タップ切換器の接点、その他電導部に異常加熱、腐食、締付けの緩みがないか点検する。 ②ブッシングの破損、汚損、端子部の異常加熱を点検する。 ③各部清掃を行う。	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定	１回／年以上
手元開閉器	①外箱、架台の破損、損傷等がないか点検する。 ②開閉器の開閉状況を点検する。 ③導電部が変色、過熱等してないか点検する。 ④ヒューズが破損、損傷等していないか点検する。 ⑤配線が損傷していないか点検する。 ⑥接地線の損傷、断線等していないか点検する。	特記仕様書3(1)による			①各部端子に緩みがないか点検を行う。 ②各部清掃を行う。	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定	１回／年以上
警報盤			①表示灯の点検及び必要に応じ、球の取替えを行う。 ②応答ブザーが破損、損傷していないか点検する。 ③警報装置の鳴動試験調整を行う。	１回／月以上	①連動動作試験及び調整を行う。 ②各部清掃を行う。		１回／年以上
電灯分電盤			①外箱の破損、損傷がないか点検する。 ②開閉器の開閉状況を点検する。	１回／月以上	①各部端子に緩みがないか点検を行う。 ②各部清掃を行う。	絶縁抵抗測定 接地抵抗測定	１回／年以上

点検項目	点検内容	点検周期	点検内容	点検周期	点検内容	測定	点検周期
			③導電部が異常変色、異常過熱等してないか点検する。 ④ヒューズが破損、損傷等していないか点検する。 ⑤配線が損傷していないか点検する。 ⑥接地線の損傷、断線等していないか点検する。				
照明器具			①取付状態及び破損、損傷がないか点検する。	１回／月以上	①各部清掃を行う。	絶縁抵抗測定	１回／年以上
配線器具			①充電部が露出していないか点検する。 ②破損、損傷がないか点検する。 ③水が侵入していないか点検する。	１回／月以上			１回／年以上
低圧ケーブル （１）建物内配線 （２）屋外配線			①ケーブルが損傷していないか点検する。 ②ハンドホールの内部を点検する。（ケーブル余長、行先表示の確認等を含む。） ③埋設標が破損、滅失していないか点検する。	１回／月以上			１回／年以上
自動通報装置(参考)			①警報の連動動作試験及び調整を行う。	１回／月以上	①制御盤から通報先への警報試験を行う。		１回／年以上
遠隔制御システム端末装置(参考)	①表示灯の損傷、球切れはないか確認する。（必要に応じて、球の取り替えを行う。） ②制御スイッチが「入」になっていることを確認する。		①警報の連動動作試験及び調整を行う。 ②制御の連動動作試験及び調整を行う。	１回／月以上	①登録項目の確認をする。 ②各部清掃を行う。 ③制御盤から通報先への警報試験を行う。		１回／年以上

給 水 施 設 管 理 日 報

別表6

○○株式会社

担	当	

施設名:　　給水種別:　　給水方式:

点検日:　　室温:　　℃　　天候:

低圧受電盤	V	A									
種目 / 項目	動力（kWh）			電灯（kWh）	量水器（m³）			記録計送水量（m³）	場内水道使用量（m³）	流入量(m³/min)	
	上水	工水	中水		上水	工水	中水			上水	工水
今回指針											
前回指針											
差（×倍率）	（×1）			（×1）	（×1）				（×1）		
使用量											
一日当り											

エンジン	起動状況良否確認	エンジンオイル	冷却系統	3時間負荷運転可能燃料	直流電源	端子電圧	充電電圧	充電電流	均等充電	バッテリー液量
				ガソリン・軽油（有・無）		V	V	A		

	給水階数	上水設定圧	工水設定圧	上水流量	工水流量
直送制御盤(低層)	階	No. kg/cm²	No. kg/cm²	No. m³/h	No. m³/h
直送制御盤(高層)	階	No. kg/cm²	No. kg/cm²	No. m³/h	No. m³/h
直送制御盤(超高層)	階	No. kg/cm²	No. kg/cm²	No. m³/h	No. m³/h

圧力タンク給水方式	容器本体の発錆・腐食等の有無	蓋・配管・弁等の緩み、水漏れ	圧力スイッチの設定及び始動頻度	封入気体の状況、空気溜りの状況
ウオータエース				

機器名	機器No.	電流 A	圧力 kg/cm²	回転数 rpm	周波数 Hz	機器名	機器No.	電流 A	圧力 kg/cm²	回転数 rpm	周波数 Hz
上水ポンプ	No.1					排水ポンプ	No.1				
〃	No.2					〃	No.2				
						湧水ポンプ	No.1				
						〃	No.2				

ポンプ運転状況(音・振動・電流計の指示・吐出・油漏れ等)		電磁接触器・補助リレー・タイマーの作動状況	
グランドパッキン・カップリングの磨耗等		水位制御機器の発錆・損傷等の状況	
フート弁の作動状況		圧力伝送器・液量計および記録計等の指示値や設定値	
配管・弁類からの漏水及び腐食の状況		滅菌用ポンプの運転状況	
定水位弁・電磁弁等の作動状況		警報及び通報装置鳴動試験	
貯水槽内の汚れ・発藻等及び槽外からの汚染の浸入状況		施設内の整理整頓及び衛生管理の状態	
オーバーフロー管・通気管等の防虫網の状態		マンホールの施錠	
電磁継手方式の圧力スイッチ・フローリレーの作動状況		施設扉の施錠・フェンスの破損・立入禁止等の表示類の状態	
インバータ方式の冷却ファンの音・振動等・エアフィルターの状態		窓・扉・照明機器等の異常,工具・予備品の整理	

《特記事項》

終業点検：スイッチの位置 レ・マンホール レ・警報 レ・ガスの元栓◇・火の元◇・水道の元栓 レ・電灯の消灯 レ・施設扉の施錠 レ

①不必要個所は、斜線を引くこと。②不良の場合は、特記事項に記入すること。③濁り・色・味・臭気については異常の有無を記入し、異常のときは、特記事項に記入すること。

別表7

○　○　株　式　会　社

給水施設管理月報

月分

管理技術者		

施設担当者		

施設名	さく井・都市水	給水戸数:　戸
	給水人口	／　人

日付	曜日	気象 天候	気象 気温(℃)	電気使用量(kWh) 上水動力	電気使用量(kWh) 工水動力	電気使用量(kWh) 電灯	給水使用量(m³) 上水	給水使用量(m³) 工水	場内水道使用量(m³)	滅菌薬液使用量(リットル)	水質測定 測定場所	水質測定 濁り あり	水質測定 濁り なし	水質測定 色 あり	水質測定 色 なし	水質測定 残留塩素(mg/l)	水質測定 pH
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
19																	
20																	
21																	
22																	
23																	
24																	
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	
30																	
31																	
合計												滅菌液量				エンジン燃料	
平均値											本月補充量						
前年同月の平均値																	
差（絶対値）																	

平均値算出日数	月　日　～　月　日　日間
水質検査実施日	月　日　適合・不適合（　）

受水槽点検		高置水槽点検	
亀裂（水漏れ）		亀裂（水漏れ）	
汚水・異物の混入		汚水・異物の混入	
槽内の錆・沈砂		槽内の錆・沈砂	
施錠		施錠	
槽付近の清掃		槽付近の清掃	
防虫網取付		防虫網取付	

〔記　事〕

エンジン運転記録

日	時：分	試・非常運転	負・無負荷運転	運転時間	燃料消費量
				H	リットル
				H	リットル
				H	リットル
				H	リットル
				H	リットル

故障・異常等を生じた機器

日	機器名	原因	処置内容

別表8

給水等施設事故処理報告書

営業所名称

施設名

受付者：

応援者：

報告者：　　出動者：

給水　　汚水　　自家用電気工作物他

通報年月		通報時刻			
出動時刻		終了時刻		合計作業時間	
断水			停電		
緊急事故通報者					
通報内容					
現場警報盤の表示					
出動者報告事項					
事故状況					
原因					
処置					
今後の対策					
対策結果					
備考					

別表9

平成　年　月　日

様

不具合箇所報告書

〇〇株式会社

修 繕 要 望 書

番号	施設名称	写真番号	図面番号	不具合指摘事項	緊急度 ・処置完了 ・先行手配 ・指示待ち	改善策・修繕策	備考及び注意事項
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							